

生活科学部

履修要項

生活科学部

Faculty of Human Life and Science

人間生活学科

Department of Human Life Studies

食物栄養科学科

Department of Food Science and Nutrition

同志社女子大学

Doshisha Women's College of Liberal Arts

2021

生活科学部履修要項

2021年度

同志社女子大学

主 要 目 次

修学上の基本事項

カリキュラム（人間生活学科2018～）

カリキュラム（人間生活学科2015～2017）

カリキュラム（食物科学専攻2019～）

カリキュラム（食物科学専攻2009～2018）

カリキュラム（管理栄養士専攻2010～）

他学科科目一覧表

研究教育活動

諸規程

その他

目次

学年暦	7
専任教員名簿	8

授業

学期	12
授業時間	12
組	12
教室	12
学科略号	12
授業科目の種別	13
授業計画（シラバス）	13
年次配当	14
科目の属性表示	14
単位と学習時間	14
他キャンパス開講授業	14
校外授業	14
ゼミ宿泊	14
休講	14
補講	14
欠席	15
教科書	15
学内の周知方法	15
授業支援システム	15
FLT ナンバー	16
ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	17
カリキュラム・マップ	17
授業に関するアンケート	17

学籍

修業年限	19
学位	19
学籍番号	19
学生証	20
休学	20
留学	20
復学	20
退学	21

再入学	21
除籍	21
転学部・転学科・転専攻	22
卒業査定	22

単位認定

1. 本学の授業科目の単位	23
2. 入学前に本学以外の大学等で修得した単位等の認定	23
3. 本学在学中に他大学等で修得した単位等の認定	23
a. 同志社大学との単位互換協定に基づく認定	23
b. 金城学院大学との単位互換協定に基づく認定	23
c. 奈良県立医科大学との単位互換協定に基づく認定	23
d. 大学コンソーシアム京都単位互換協定に基づく認定	23
e. 放送大学との単位互換協定に基づく認定	23
f. 文部科学大臣が定める学修等による単位認定	24
g. 海外及び国内協定大学等で修得した単位等の認定	26
4. 本学入学前に本学で修得した単位について	26

履修登録【登録制度・登録ルール】

登録単位数の上限	27
履修可能科目・履修年次	27
クラス指定	27
予備登録	27
セット登録	27
他キャンパス科目	28
複数クラス登録	28
再登録	28
二重登録	28
他大学単位互換科目	28
登録の許可・不許可	28
登録修正期間終了後の登録取消	28
卒業年次生の履修登録について	28

試験・レポート

平常試験	29
定期試験	29

追試験	30
レポート	30
レジュメの印刷	30

交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講について	130
-----------------------------	-----

成績

成績	31
GPA 制度について	31
証明書	33

カリキュラム

同志社女子大学 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	36
同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい 10の力	43
生活科学部 人間生活学科(2018～)	45
生活科学部 人間生活学科(2015～2017)	55
生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻(2019～)	65
生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻(2009～2018)	75
生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻(2010～)	85
他学科科目一覧表	95

研究教育活動

教職課程センター	108
学会	108

諸規程

同志社女子大学学則	110
同志社女子大学学位規則	121

その他

同志社女子大学組織	126
事務室一覧	127
キャンパスマップ	128

2021年度 同志社女子大学学年暦

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
5	月	2	(3)	(4)	(5)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
6	月	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
8	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
9	月	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
10	月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
11	月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
12	月	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
2	月	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3	月	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

授業期間
定期試験期間
補講日
定期試験の追試験
() は「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

授業日程関係

春 学期

2021年	
4月2日(金)	入学式
4月3日(土)～8日(木)	新入生オリエンテーション期間
4月9日(金)	春学期授業開始
4月19日(月)～23日(金)	春の宗教教育強調週間(I・II講時のみ短縮授業)
4月30日(金)	休日
5月29日(土)	補講日
6月19日(土)	補講日
7月3日(土), 17日(土)	補講日
7月22日(木), 23日(金)休日	授業日
7月29日(木)	春学期授業最終日
7月31日(土)	定期試験予備日
7月30日(金)～8月5日(木)	春学期定期試験期間
8月7日(土), 9日(月)休日, 10日(火)	追試験
9月25日(土)	春学期卒業式・学位授与式

秋 学期

9月27日(月)	秋学期授業開始
10月4日(月)～8日(金)	秋の宗教教育強調週間(I・II講時のみ短縮授業)
10月28日(木)	スポーツフェスティバル(全日休講)
10月30日(土)	補講日
11月3日(水)休日	授業日
11月19日(金)～21日(日)	創立記念週間(全日休講)
11月27日(土)	補講日
11月29日(月)	創立記念日(全日休講)
12月7日(火)	クリスマス礼拝(今出川キャンパスのみII講時のみ休講)
12月9日(木)	クリスマス礼拝(京田辺キャンパスのみII講時のみ休講)
12月18日(土)	補講日
12月28日(火)	冬期休暇開始

2022年

1月6日(木)	授業再開
1月8日(土)	補講日
1月22日(土)	定期試験予備日
1月25日(火)	秋学期授業最終日
1月31日(月)～2月4日(金)	秋学期定期試験期間
2月5日(土)	定期試験予備日
2月8日(火)～10日(木)	追試験
3月18日(金)	卒業式・修了式・学位授与式

行事日程関係

春 学期

2021年	
4月6日(火)	定期健康診断(今出川キャンパス)
4月7日(水)～8日(木)	定期健康診断(京田辺キャンパス)
4月23日(金)	春学期学生納付金納入最終日
5月22日(土)～23日(日)	春季リトリート
6月中旬	医療薬学科 薬学研究発表会
7月中旬	英語英文学科 ポスターセッション
7月18日(日)	音楽学科 オーケストラコンサート
9月上旬	会津若松・安中・函館ツアー

秋 学期

10月23日(土)～24日(日)	秋季リトリート
10月25日(月)	秋学期学生納付金納入最終日
11月5日(金), 6日(土)	シェイクスピア・プロダクション
11月19日(金)	創立記念礼拝
12月5日(日)	薬学共用試験(OSCE)
12月15日(水)	音楽学科 定期演奏会
12月22日(水)	食物栄養科学科 卒業論文発表会
12月下旬	医療薬学科 白衣授与式

2022年

1月9日(日)	薬学共用試験(CBT)
1月上旬	英語英文学科 卒業研究発表会
1月中旬	国際教養学科 卒業研究発表会
1月23日(日)	創立者永眠記念日
2月7日(月)	メディア創造学科 卒業演習・制作発表会
	社会システム学科 卒業研究発表会
	現代こども学科 卒業研究発表会
	人間生活学科 卒業論文発表会
2月8日(火)	日本語日本文学科 卒業論文発表会
2月19日(土)	音楽学科 オペラ公演
3月10日(木)	音楽学科 卒業演奏会
	音楽専攻科 修了演奏会
3月17日(木)	卒業礼拝

同志社女子大学 専任教員 名簿

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
学芸学部			
音楽学科			
教授	井原 秀人	K405	8518
教授	井上 敏典	K407	8517
教授	河江 優	K406	8713
教授	松下 悦子	K408	8705
教授	中野 慶理	K403	8706
教授	成田 和子	K347	8524
教授	椎名 亮輔	K349	8515
教授	牛渡 克之	K402	8527
教授	山本 裕樹	K404	8511
准教授	北脇 歩	K353	8526
准教授	筒井 はる香	K352	8704
特任教授	葛西 聖憲	K303	8514
メディア創造学科			
教授	影山 貴彦	C250	8668
教授	川田 隆雄	C248	8682
教授	森 公一	C244	8686
教授	関口 英里	C247	8662
教授	和氣 早苗	C241	8683
教授	余田 義彦	C245	8684
准教授	村木 美紀	C255	8732
准教授	高木 毬子	C251	8698
助教 (有期)	梅田 拓也	C253	8558
特任教授	有賀 妙子	C252	8674
特任教授	三根 浩	C246	8667
特任教授	中村 信博	C249	8569
国際教養学科			
教授	潟山 健一	T507	8551
教授	飯田 毅	T602	8578
教授	佐伯 林規江	T508	8718
准教授	M. L. Correa	T604	8567
准教授	A. C. Elliott	T504	8605
助教 (有期)	I. Fassbender	T606	8606
助教 (有期)	沖 キャサリン	T610	8603
教授 (特別契約教員)	J. Cross	T612	8731
助教 (特別契約教員)	F. H. Graham III	T608	8725
助教 (特別契約教員)	E. A. Williams	T614	8617

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
現代社会学部			
社会システム学科			
教授	天野 太郎	C354	8580
教授	福岡 久美子	C352	8624
教授	加藤 敦	C344	8767
教授	記虎 優子	C303	8572
教授	倉持 史朗	C347	8573
教授	日下 菜穂子	C353	8659
教授	長岡 延孝	C356	8769
教授	大倉 真人	C301	8562
教授	大西 秀之	T502	8598
教授	大津 正和	C345	8566
教授	朱 捷	C305	8661
教授	谷 直之	C346	8773
教授	山田 邦和	C359	8717
准教授	L. Rogers	T506	8560
准教授	鳥潟 優子	C349	8553
准教授	山下 智子	C357	8574
助教 (有期)	張 瑋容	C348	8765
助教 (有期)	福本 俊樹	C307	8660
助教 (有期)	金子 雄太	C341	8766
助教 (有期)	K. Mattison	T503	8719
助教 (有期)	竹治 ふみ香	C350	8647
准教授 (特別契約教員)	王 秀梅	C304	8570
特任教授	服部 尚己	C343	8556
特任教授	加賀 裕郎	C351	8665
特任教授	三宅 えり子	C355	8681
現代こども学科			
教授	笠間 浩幸	C452	8708
教授	松崎 正治	C441	8557
教授	竹井 史	C445	8613
教授	塘 利枝子	C449	8710
教授	梅垣 明美	C453	8657
准教授	真宮 美奈子	C451	8664
准教授	吉永 紀子	C457	8568
助教 (有期)	小宅 理沙	C455	8774
助教 (有期)	山田 寛邦	C456	8729
特任教授	藤原 孝章	C459	8596
特任教授	今井 敏博	C443	8707
特任教授	中山 まき子	C447	8709

建物名 C: 知徳館 K: 頌啓館 T: 聡恵館

職名	氏名		研究室	研究室 TEL
薬学部				
医療薬学科				
教授	藤井	健志	W602	8672
教授	川崎	清史	W402	8588
教授	桑原	淳	W501	8648
教授	前川	京子	W504	8653
教授	松野	浩之	W610c	8620
教授	尾崎	恵一	W406	8611
教授	芝田	信人	W204	8497
教授	白井	隆一	W302	8510
教授	杉浦	伸一	H108	8627
教授	内田	まやこ	H105	8593
教授	和田	戈虹	W404	8612
教授	吉川	清次	W604	8579
准教授	喜里山	暁子	W206	8505
准教授	松元	加奈	C426a	8623
准教授	中村	憲夫	W304	8545
准教授	成橋	和正	H112	8495
准教授	根本	滋	W502	8650
准教授	山本	康友	W507	8658
准教授	山内	雄二	W508	8547
特任教授	木津	良一	W306	8536
特任教授	小谷	晶子	W611	8793
特任教授	森田	邦彦	W202	8494
特任教授	関本	裕美	H109	8768
特任教授	高橋	玲	W608	8687
特任教授	漆谷	徹郎	W606	8689
《特別任用助教(有期)》				
	羽森	真美	W205	8618
	菅野	陽介	W407	8629
	木村	峻輔	W207	8506
	間下	雅士	W603	8619
	松岡	純平	W506	8663
	宮脇	あかり	W506	8654
	水川	裕美子	W607	8693
	西村	亜佐子	W205	8498
	眞田	法子	W307	8538
	高鳥	悠記	W407	8675
	山下	直哉	W307	8537
	山下	修吾	W207	8559
	安川	淳一郎	W405	8616
	八塚	研治	W303	8513
《特別任用助手》				
	浅沼	舞	W305	8534
	井上	沙奈	W605	8688
	馬淵	賢幸	W203	8496
	西原	冴佳	W403	8590
	野村	篤生	W603	8716
	高橋	知里	W505	8655

職名	氏名		研究室	研究室 TEL
看護学部				
看護学科				
教授	小松	光代	H504	8850
教授	眞鍋	えみ子	H511	8563
教授	南	妙子	H515	8591
教授	三橋	美和	H507	8853
教授	光木	幸子	H519	8840
教授	當目	雅代	H520	8841
准教授	萩本	明子	H524	8845
准教授	橋本	秀実	H506	8852
准教授	葉山	有香	H517	8838
准教授	和泉	美枝	H510	8856
准教授	片山	由加里	H516	8837
准教授	木村	静	H525	8836
准教授	木村	洋子	H522	8843
准教授	宮川	幸代	H509	8857
准教授	小笠	美春	H518	8839
准教授	杉原	百合子	H503	8849
准教授	山縣	恵美	H502	8848
専任講師	川崎	友絵	H523	8844
特任教授	長谷川	昇	H512	8855
特任教授	細井	創	H521	8670
特任教授	木村	みさか	H513	8711
特任教授	榎本	妙子	H508	8854
特任教授	岡山	寧子	H505	8564
《実習助教（有期）》				
	天野	功士	H407	8828
	原口	梨那	H407	8828
	神原	祐美	H407	8828
	假谷	ゆかり	H407	8828
	森島	千都子	H407	8828
	村田	尚子	H407	8828
	小川	京子	H407	8828
	鈴木	佑典	H407	8828
《実習助手（有期）》				
	二木	未侑	H407	8828

建物名 C: 知徳館 W: 憩水館 H: 蒼苑館

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
表象文化学部			
英語英文学科			
教授	秦 由美子	D316	4213
教授	今井 由美子	D308	4197
教授	鈴木 健司	D302	4189
教授	若本 夏美	D311	4205
准教授	T. L. Medlock	D306	4242
准教授	崎 ミチ・アン	D305	4180
准教授	辻 英子	D301	4163
助教（有期）	D. Clayton	D307	4189
助教（有期）	福島 祥一郎	D303	4930
准教授 （特別契約教員）	J. C. Grote	D312	4229
特任教授	風間 末起子	D317	4269
特任教授	小山 薫	D315	4246
特任教授	松村 延昭	D313	4239
日本語日本文学科			
教授	森山 由紀子	D206	4298
教授	中井 精一	D204	4233
教授	生井 知子	D217	4937
教授	大島 中正	D205	4934
准教授	宮腰 直人	D215	4933
准教授	宮本 明子	D208	4932
准教授	大津 直子	D207	4172
准教授	高橋 幸平	D213	4283
准教授	山本 由紀子	D210	4936
特任教授	丸山 敬介	D202	4279
特任教授	吉海 直人	D209	4293

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
生活科学部			
人間生活学科			
教授	平光 睦子	R332	4282
教授	小崎 眞	R333	4223
教授	奥田 紫乃	R331	4254
准教授	麻生 美希	R335	4273
准教授	藤本 純子	R338	4232
准教授	齋藤 朱未	R336	4244
准教授	塚田 由佳里	R334	4221
特任教授	宮本 義信	R337	4220
特任教授	諸井 克英	R339	4234
食物栄養科学科			
教授	今井 具子	U114b	4266
教授	片井 加奈子	U216a	4235
教授	川崎 祐子	U312b	4231
教授	神田 知子	U115b	4258
教授	小切間 美保	U115a	4227
教授	真部 真里子	U314b	4226
教授	村上 恵	U116b	4217
教授	杉浦 実	U316b	4228
教授	田中 雅彰	U215a	4271
教授	山本 寿	U315b	4215
准教授	倉橋 優子	U311b	4173
准教授	森 紀之	U213b	4287
准教授	鈴木 拓史	U212b	4164
准教授	米田 祐子	U216b	4256
特任教授	小松 龍史	U215b	4236
特任教授	西村 公雄	U211b	4214
特任教授	吉田 香	U313b	4224

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
教務部			
教職課程センター			
特任教授	大黒 孝文	C448	8429
特任教授	水本 徳明	C446	8419
特任教授	中川 美保子	C444	8626
特任教授	佐藤 光友	C454	8594

建物名 D: デントン館 R: 楽真館 U: 新心館 C: 知徳館

修学上の基本事項

授業

学籍

単位認定

履修登録

試験・レポート

成績

授 業

学 期

授業は学年暦に従って実施されます。

授業時間

授業は次の表の講時に従って行われます。春と秋の宗教教育強調週間（学年暦参照）のときはⅠ、Ⅱ講時が短縮授業となります。

講 時	平 常 授 業	短 縮 授 業
Ⅰ	9：00～10：30	9：00～10：25
礼拝	10：35～10：55	10：30～11：00
Ⅱ	11：00～12：30	11：05～12：30
Ⅲ	13：15～14：45	平常授業と同じ
Ⅳ	15：00～16：30	//
Ⅴ	16：45～18：15	//

1回あたりの授業時間は90分を基本としています。各科目の授業時間は45分を1時間として計算しますので、週1回90分行われる授業科目の週当たりの時間数は2時間となります。カリキュラム表などで、期間・時間が「春2」と表示されている科目は、春学期に毎週、週2時間（90分）の授業が行われる科目であることを示します。

注1）便宜上、1講時（90分間）を1コマと呼ぶことがあります。

注2）特別な場合を除いて、土曜日には正規科目は開講していません。

* 授業開始のチャイムはDOSHISHA COLLEGE SONG、授業終了のチャイムは同志社女子大学大学歌です。

組

各学科は、20～50人程度の組に分けられています。この組は必修科目履修時の基本単位となります。各自の組は「組分け表」で確認してください。3、4年次では、組は実質的な意味を持たなくなります。また、音楽学科には組はありません。

教 室

授業が実施される教室、実験室等は、略号で表示されます。

（例：C131、S013）アルファベットが校舎名、3桁の数字が教室番号を示します。

京田辺キャンパス	A…………恵 愛 館	C…………知 徳 館	G…………恵 真 館
	H…………蒼 苑 館	K…………頌 啓 館	M…………新島記念講堂
	T…………聡 恵 館	V…………オリーブ館	W…………憩 水 館
	Y…………友 和 館		

今出川キャンパス	B…………頌 美 館	D…………デントン館	E…………栄 光 館
	J…………ジェームズ館	N…………心 和 館	R…………榮 真 館
	S…………純 正 館	U…………新 心 館	

※遠隔授業として実施される場合は、OLと表示されます。

学科略号

掲示その他で学科略号・略称が使用されることがあります。

学 部	学 科 等	略号	略称	学 部	学 科 等	略号	略称
学 芸 学 部	音楽学科演奏専攻	OE	音演	薬 学 部	医療薬学科	Y	薬学
	音楽学科音楽文化専攻	OB	音文	看 護 学 部	看護学科	KG	看護
	メディア創造学科	MS	メディア	表象文化学部	英語英文学科	E	英文
	情報メディア学科	J	情報		日本語日本文学科	N	日学
	国際教養学科	K	国際	生 活 科 学 部	人間生活学科	L	生活
現代社会学部	社会システム学科	GS	社会		食物栄養科学科食物科学専攻	S	食物
	現代こども学科	GK	子供		食物栄養科学科管理栄養士専攻	SK	食管

授業科目の種別

本学の授業科目には、次のような種別があります。

1. 履修方法によるもの

- 必修科目……必ず単位を修得しなければならない科目。必修科目はクラス指定がされていて、履修しなければならない年次、曜日、講時等が指定されています。
- 選択必修科目……一定の科目群の中から自由に選択できるが、必ず指定された方法で選択して履修しなければならない科目。一定の科目群から一定の単位を修得する必要があります。
- 選択科目……一定の科目群の中から自由に選択して履修する科目。
- 自由選択科目……卒業必要単位に含まれない科目。

2. 授業実施時期によるもの

- 春学期科目……春学期に授業が行われる科目。
- 秋学期科目……秋学期に授業が行われる科目。
- 半期科目……春学期又は秋学期に授業が行われる科目。
- 通年科目……一年を通じて授業が行われる科目。
- 集中科目……半期又は通年のいずれかの科目ではあるが、特別に一定の時期に集中して授業が行われる科目。実施時期は科目により異なります。
(過年度生で、9月卒業予定者は、9月に実施される集中科目を履修することはできません。)

3. 授業実施形態によるもの

- 対面授業科目……キャンパス内の教室において対面形式で授業が行われる科目。
- 遠隔授業科目……オンラインにてオンデマンド（動画配信）型の授業が行われる科目。遠隔授業科目は、授業計画（シラバス）に明記されていますので、確認してください。

4. その他の種別

- 自学科科目……在籍する学科・専攻に設置されている科目。
- 他学科科目……他学部、他学科又は他専攻に設置されている科目の内、履修が可能な科目。
- 単位互換科目
 - a. 同志社大学互換科目……履修可能な同志社大学科目。
 - b. 金城学院大学互換科目……履修可能な金城学院大学科目。
 - c. 奈良県立医科大学互換科目……履修可能な奈良県立医科大学科目。
 - d. 大学コンソーシアム京都互換科目……大学コンソーシアム京都加盟各大学・短大から提供されている科目。大学コンソーシアム京都単位互換協定により、本学の学生はこれらの科目を履修することができます。
 - e. 放送大学科目……履修可能な放送大学科目。

授業計画（シラバス）

「授業計画（シラバス）」は、本年度に開講される科目の次の項目について要点をまとめたものです。

授業テーマ／授業の概要／到達目標／授業方法／各回の授業内容及び準備学習等の内容とそれに必要な目安の時間／受講者へのメッセージやアドバイス／フィードバックの方法／成績評価方法・成績評価基準／教科書／参考文献等／獲得が期待される基礎的・汎用的能力（DWCLA 10）／教員との連絡方法／FLTナンバー

原則として各科目につき担当教員ごとに掲載されていますが、外国語科目や体育実技科目、音楽実技科目等は、科目ごとの統一内容として掲載されている場合もあります。また、英語で表記された授業計画（シラバス）は原則、英語のみで授業が行われます。（その他、使用言語に関する特記事項がある場合は、「授業方法」の項目に記載されます。）

履修科目登録前に熟読する必要があることはいふまでもありませんが、授業開始以降も必要に応じて参照してください。「授業計画（シラバス）」は、Web教務システムから確認できます。

年次配当

すべての科目には、履修可能最低年次が定められています。例えば、履修可能最低年次が2年次とされている科目は、2年次にならなければ履修登録できませんが、2年次以降であれば、いつでも履修登録可能です。

科目の属性表示

科目名の最後につく英数字は、以下の内容を表します。英数字までが科目名称です。

- ・ A, B, C, ……は種類の違いを表します。
- ・ I, II, III, ……はグレードの別を表します。

単位と学習時間

1単位に必要な「授業内外での学習時間」は45時間と定められています。

更に、1単位に必要な「授業時間」は、原則として講義・演習科目では15時間、実験・実習・実技科目では30時間となっています。

そのため例えば、2単位の講義・演習科目については、授業30時間（1コマ2時間の授業を1学期15週）と授業外の事前準備・事後学習60時間が必要となります。また、2単位の実験・実習・実技科目については、授業60時間（2コマ4時間の授業を1学期15週）と授業外の事前準備・事後学習30時間で2単位となります。なお、薬学部の講義演習科目と管理栄養士課程の実験・実習科目は別基準となります。

他キャンパス開講授業

他キャンパスで開講されている授業科目を履修することができます。ただし、他キャンパス開講科目で履修できるのは、他学科科目のほかに、自学科の「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」区分の科目を、選択科目として履修する場合及び再履修する場合に限ります。クラス指定のある場合はできません。（「教職に関する科目」で他キャンパスで再履修することができる科目はカリキュラム表に表示。）

キャンパス間の移動は、片道約1時間30分程度を要しますので、各自の時間割を十分考慮に入れて、無理のない科目を履修してください。同一曜日に両キャンパスの授業科目を履修する場合は、最低1コマ（90分）相当の移動時間を取っておかないと、定期試験を受験できなくなる場合があります。キャンパス間の移動には、無料のシャトルバスが利用できます。利用方法、スケジュール等は本学ホームページにて確認してください。

また、遠隔授業として行われる科目についても同様です。ただし、遠隔授業でも定期試験は対面形式にて行われる場合があります。定期試験の実施形態を十分確認したうえで履修してください。

校外授業

科目によっては、ときどき授業中にキャンパス外の施設等を見学することがあります。これを校外授業と呼びます。校外授業については、その都度担当教員の指示に従ってください。交通費等が必要な場合は、個人負担となります。

ゼミ合宿

卒業研究・卒業論文・演習等のクラスでは、ゼミ合宿が行われることがあります。担当専任教員からの申請が認められたゼミ合宿には、宿泊費等の一部を補助する制度があります。学生のみ合宿や、いわゆるゼミ旅行は対象となりません。

休講

大学又は授業担当教員にやむを得ない事情が発生した場合は、授業が休講になることがあります。

- ① 予め判明している休講は、事前にポータルサイト（Web教務システム）で発表します。また、大学が付与しているメールアドレス（以下、Microsoft365メール）へメール配信するとともに学内の電子掲示板（以下デジタルサイネージ）によって周知します。
- ② 休講の発表がない場合で、授業開始時刻から30分以上経過しても授業担当教員から教室に連絡がない場合は、教務課に連絡し、指示を受けてください。
- ③ 交通機関不通・気象警報等発令により全学一斉休講となる場合があります。詳細については、この「履修要項」最終ページを参照してください。

補講

休講があった場合、原則として補講が実施されることになっています。補講は補講日に行われるほか、他の授業に支障がなければ授業期間中の平日（補講日以外）にも行われます。

補講情報は、Web教務システムで発表します。また、Microsoft365メールへ配信するとともに学内のデジタルサイネージによって周知します。詳細は担当教員の指示に従ってください。

欠 席

授業には毎回出席することが原則ですが、出欠の取扱いはいずれも各科目担当教員に任されています。具体的には授業計画（シラバス）や教室での指示が、科目ごとの出欠に関する取扱いとなります。

本学で公欠としているものは、具体的には以下のとおりです。

公欠事由

1. 以下の免許・資格課程正規科目の学外実習による欠席

- | | | |
|-------------|---------------------|-------------|
| (1) 教育実習 | (2) 管理栄養士校外実習及び臨地実習 | (3) 「博物館実習」 |
| (4) 「図書館実習」 | (5) 音楽療法学外実習 | (6) 「保育学実習」 |
| (7) 保育士学外実習 | (8) 看護師学外実習 | (9) 保健師学外実習 |

2. 介護等体験による欠席

3. 裁判員制度による欠席

手 続 上記1, 2については免許・資格課で、3については教務課で「公欠届」を記入して確認を受けた上で、科目担当教員に事前に提出してください。（上記1.の学外実習に関する事前オリエンテーションも公欠事由に含みます。）

なお、上記1.～3.以外の場合は、いかなる理由による欠席も原則として同じ取扱いとなりますが、病気、その他やむを得ない事情により授業を欠席した場合は、担当教員に届け出てください。（届出用紙はありません。）

欠席が長期にわたる場合は、各学部・研究科事務室で相談してください。

なお、3については、裁判所が発行する証明書を持って、教務課窓口へ来てください。また、公欠の対象となるのは次の事由の該当日となります。

- (1) 裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加
- (2) 裁判員又は補充裁判員としての職務に従事

なお、インフルエンザ等、学校保健安全法施行規則第18条の感染症による授業欠席の取扱いについては、本学ホームページで確認してください。

本学ホームページ [在学の方へ](#) → [授業情報](#) → [授業・定期試験の取り扱い](#)

教科書

年度始めには、一定期間教科書特設販売会場を設けます。会場や販売日時に関しては、登録書類交付時に案内を同封します。科目、担当者、クラス、学期等を確認の上、間違いのないように購入してください。参考文献と表示されている場合は、購入は自由です。

任意の登録変更の場合だけでなく、登録者多数により登録が認められなくなった場合でも、返品はできません。選択科目の教科書を購入する場合は特に注意してください。

学内の周知方法

履修登録・予備登録・各種説明会・提出物などの授業全般及び試験等に関する重要な連絡や、各学部学科・各事務室からの伝達・呼び出しなどは、Web教務システムや学内の掲示、大学が付与しているメールアドレス（以下、Microsoft365メール）によって行われます。

休講・補講・時間割変更・教室変更については、Web教務システムで発表します。また、Microsoft365メールへ配信するとともにデジタルサイネージによって周知します。

また、緊急の連絡においては、大学公式サイトやTwitter（最終ページ参照）にて周知する場合があります。

各種学内での周知等の見落としによる不利益は本人の責任となります。Web教務システム、学内掲示、Microsoft365メールを確認する習慣をつけてください。

授業支援システム

本学では、授業支援システム（愛称 マナビー）を導入しています。主な機能については以下のとおりです。

1. 授業に関するクラス全員へのお知らせ
2. 授業や事前・事後指導学習のための資料配信
3. クラス単位でのディスカッション等のための掲示板
4. レポート課題の出題、回収、返却、指導
5. 小テストの実施
6. 提出物等の保存
7. 授業アンケートの実施 など

マナビーは、授業に関する重要なお知らせや、資料の配信、レポートや小テストの実施など、授業を受けるうえで欠かせないものです。定期的に確認してください。

FLTナンバー

本学では2016年度から、体系的な教育プログラムを理解するために、授業科目に内容・レベル等に応じた特定のナンバーを付与する科目ナンバリング制度が設けられました。分野（Field）・水準（Level）・授業方法（Type）等を表すアルファベットと数字の組合せで構成されていることから「FLTナンバー」と呼びます。学修したい分野について、どのように学修を進めていけば良いか判断するための参考として活用してください。

各科目のFLTナンバーは授業計画（シラバス）で確認することができます。（一部演習科目や実技科目にはFLTナンバーが定められていないものもあります。）

（例）日本の歴史Ⅰ：HSTb31-GS

分野	分野細目	水準	授業形態	開設学科等
HST (歴史学)	b (日本史)	3 (3年次)	1 (講義)	GS (社会システム学科)
・ 下記一覧表のとおり	・ 下記一覧表のとおり	1：学部1年 2：学部2年 3：学部3年 4：学部4年 5：学部5年 6：学部6年	1：講義科目 2：演習科目 3：実験実習実技科目(主として学内) 4：実験実習実技科目(主として学外) 5：講義と演習の混合科目 6：講義/演習/実験の混合科目 7：その他	GE：共通学芸科目 CD：キリスト教・同志社関係科目 FL：外国語科目 SH：スポーツ・健康科目 学科科目については、学科略号を使用します。(P18.学科略号参照)

分野一覧

分野		分野細目							
ARS	地域研究	a 地域研究 総合・複合	b 京都	c 日本	d アジア	e アメリカ	f ヨーロッパ	g その他	
ART	美術・芸術	a 美術・芸術 総合・複合	b 美術	c 芸術	z その他				
BIO	生物学	a 生物 総合・複合	b 基礎生物学	c 人類学	z その他				
BUS	経営学	a 経営学 総合・複合	b 商学	c 会計学	z その他				
CHM	化学	a 化学 総合・複合	b 物理化学	c 有機化学	d 無機化学	e 機能物性化学	f 合成化学	g 高分子化学	
		z その他							
CLD	こども学・児童学	a こども学・児童学 総合・複合	b こども文化	c こどもの発達	d こどもと社会	e こどもと世界	f 保育学	g こどもと福祉・養護	
		h こどもの保健・栄養	z その他						
CRE	キャリア	a キャリアデザイン 総合・複合	b キャリア意識形成	c インターンシップ	d リーダーシップ	z その他			
		a 文化 総合・複合	b 日本文化	c 東洋文化	d 英米文化	e その他の文化	f 文化人類学・民俗学	g 比較文化	
CRT	文化	z その他							
DSN	デザイン学	a デザイン学 総合・複合	b 視覚デザイン	c サウンドデザイン	d 空間デザイン	e プロダクトデザイン	z その他		
ECN	経済学	a 経済学 総合・複合	b 財政・公共経済	c 金融・ファイナンス	d 国際経済・金融	z その他			
EDU	教育学	a 教育学 総合・複合	b 学校教育	c 教育社会学	d 特別支援教育	e 博物館学	z その他		
EGN	工学	a 工学 総合・複合	b 機械工学	c 電気・電子工学	d 土木工学	e 建築学	z その他		
ELG	英語学・英語教育	a 英語学・英語教育 総合・複合	b 言語学	c 応用言語学	d 音声学	e 英語教育	z その他		
ELT	英米文学・外国文学	a 英文学 総合・複合	b 英文学	c 米文学	d ヨーロッパ文学	e 東洋文学	f 比較文学	g その他	
ENV	環境学	a 環境学 総合・複合	b 環境保全学	c 環境創成学	z その他				
FDS	食物学	a 食物学 総合・複合	b 食品学	c 調理学	d 食文化	z その他			
GND	ジェンダー	a ジェンダー 総合・複合	b 女性学	z その他					
GOG	地理学・地誌学	a 地理学 総合・複合	b 人文地理学	c 自然地理学	d 地誌	z その他			
HST	歴史学	a 歴史学 総合・複合	b 日本史	c アジア史	d ヨーロッパ史・アメリカ史	e 考古学	z その他		
HTH	健康・スポーツ科学	a 健康科学 総合・複合	b スポーツ科学	z その他					
INF	情報学	a 情報学 総合・複合	b コンピュータ工学	c 情報システム	d 情報デザイン	e Webデザイン	f メディア処理	g プログラミング	
		z その他							
ITR	国際関係学	a 国際関係 総合・複合	b 地域研究	c 国際協力	z その他				
JLG	日本語学・日本語教育	a 日本語学・日本語教育 総合・複合	b 古典語学	c 現代日本語学	d 日本語教育	z その他			
JLT	日本文学	a 日本文学 総合・複合	b 古典文学	c 近代文学	z その他				
LAW	法学	a 法学 総合・複合	b 公法学	c 私法学	d 国際法学	z その他			
LFS	生活科学	a 生活科学 総合・複合	b 衣文化	c 衣環境	d 被服デザイン	e 住文化	f 住環境・住環境	g 住居デザイン	
		h 生活経営	i 家族・生活福祉	z その他					
LNG	言語教育	a 言語教育 総合・複合	b 日本語	c 英語	d ドイツ語	e フランス語	f 中国語	g イタリア語	
		h スペイン語	i ハングル	j その他の言語	z その他				
MDA	メディア学	a メディア学 総合・複合	b マスメディア	c 広告	d コミュニケーション	e メディア教育	f 図書館情報学	g その他	
MDS	医学	a 医学 総合・複合	b 内科系臨床医学	c 外科系臨床医学	d 病理学	z その他			
MSC	音楽	a 音楽 総合・複合	b 声楽	c 鍵盤	d 器楽	e 音楽理論	f 作曲	g コンピュータ音楽	
		h 音楽療法	i 音楽文化	j 音楽教育	z その他				
MTH	数学	a 数学 総合・複合	b 統計学	z その他					
NSC	科学史	a 科学史 総合・複合	z その他						
NTR	栄養学	a 栄養学 総合・複合	b 基礎栄養学	c 応用栄養学	d 栄養教育論	e 臨床栄養学	f 公衆栄養学	g 給食経営管理論	
		h 総合演習	i 臨地実習	z その他					
NUS	看護学	a 看護学 総合・複合	b 医学系基礎	c 疫学・社会保障	d 基礎看護学	e 成人看護学	f 精神看護学	g 母子看護学	
		h 高齢者看護学	i 在宅看護学	j 公衆衛生看護学	k 学校保健	l 看護の統合・発展	z その他		
PHL	哲学	a 哲学 総合・複合	b 日本哲学・思想史	c 東洋哲学・思想史	d 西洋哲学・思想史	e 倫理学	z その他		
PHM	薬学	a 薬学 総合・複合	b 化学系薬学	c 物理系薬学	d 生物系薬学	e 薬理系薬学	f 天然資源系薬学	g 創薬化学	
		h 環境・衛生系薬学	i 臨床薬学	z その他					
PHY	物理学	a 物理学 総合・複合	b 物性学	c 天文学	d 地球科学	z その他			
POL	政治学	a 政治学 総合・複合	z その他						
PSY	心理学	a 心理学 総合・複合	b 社会心理学	c 教育心理学	d 臨床心理学	e 実験心理学	f 発達心理学	g その他	
REL	宗教学	a 宗教学 総合・複合	b キリスト教	c その他の宗教	d 同志社関係	z その他			
SOC	社会学	a 社会学 総合・複合	b 社会福祉学	c 社会保障	z その他				
TRM	観光学	a 観光学 総合・複合	b 地域観光学	c 国際観光学	d ホスピタリティ	z その他			

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

本学においてもディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが定められています。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育理念に基づいて、どのような力を身に付けた学生に卒業を認定し学位を授与するかを定めた基本方針です。すなわち学生の学修上の到達目標を示したものとすることができます。これは単位数などの卒業要件とは異なります。カリキュラム・ポリシーは、どのような教育課程を編成して、どのような教育内容・教育方法でディプロマ・ポリシーに掲げられた到達目標を達成していくかを定めた基本方針です。本学では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーともに、本学全体としてのポリシーと各学部学科のポリシーとで構成されています。

特に重要となるのは、ディプロマ・ポリシーの到達目標です。それぞれの到達目標は、「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」に分けて掲げられています。「知識・理解」は、基礎的知識や専門的知識あるいは技能を深く理解した上で身に付けているか、「関心・意欲・態度」はこれらの知識や技能を更に身に付けていこうとする意欲や、身に付けた知識や技能を社会で生かしていこうとする態度が身に付いているか、「表現・技能・能力」は、知識や技能を創造的に活用し発揮していく力が身に付いているか、についての学修者側に焦点を当てた到達目標として理解してください。これらの到達目標は、各授業科目のシラバスに記載されている到達目標とも直接、間接に関係するものです。到達目標はその達成度を測定して評価される必要があります。各授業科目で成績評価が行われるのはその直接的な例ですが、「授業に関するアンケート」やその他のアンケートでの到達目標に関する自己評価などもそのための測定方法の1つとなっています。多様な方法を用いて、本学の到達目標がどの程度達成されているかの測定や評価が行われます。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを是非参照し、到達目標の達成に向かって努力してください。

カリキュラム・マップ

全学及び学科等ごとの到達目標がディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に定められており、どの到達目標をどの科目が担うかは、学科ごとのカリキュラム・マップに示されています。

カリキュラム・マップは本学ホームページで確認してください。

本学ホームページ [在学生の方へ](#) → [教務情報](#) → [カリキュラムマップ](#)

授業に関するアンケート

「授業に関するアンケート」を毎学期末に個別授業の中で授業支援システム「マナビー」を用いて実施します。このアンケート実施の目的は、「授業改善のための受講生の意識の把握」、「授業に関する受講生の学修行動の把握」、及び「授業の到達目標の達成度の受講生の自己評価等の把握」の3点です。アンケート結果は、個別授業の内容や方法の見直しに活用されるだけでなく、学部学科としての教育力のいっそうの向上のためにも活用されています。「授業に関するアンケート」は、このような役割を持った大切なものです。無記名での回答になっているため成績評価に影響するものではありません。受講生の皆さんの率直かつ責任ある回答をお願いします。

「授業に関するアンケート」の実施方法の案内や質問内容は学期当初から本学ホームページに掲載されていますので予め確認しておいてください。集計結果や分析結果も次学期の当初には本学ホームページに掲載され、学生も参照することができるようになっています。

本学ホームページ [在学生の方へ](#) → [教務情報](#) → [授業情報](#) → [授業に関するアンケート](#)

*集計・分析結果については、学内からのみアクセスが可能です。

「授業に関するアンケート」の今年度の質問は次ページの表のとおり予定されています。各質問についての質問趣旨も掲載していますので参考にして、それぞれの質問の趣旨を正しく把握しておいてください。それぞれの授業に真剣に取り組んでいなければこのようなアンケートに正しく回答することは困難です。学期末にはこのようなアンケートが実施されるということを念頭に置いてしっかりと授業に臨んでください。大学での授業は「受ける」だけでなく、受講生と担当教員が「ともに作る」ということも重要になります。「授業に関するアンケート」に答えるということは、自らの授業に対する取り組み方がどうだったのかを振り返ることになります。これらのことを念頭に置いて学期末にはアンケートに向き合ってください。

なお、このアンケートはほとんどの科目で実施されますが、実施されない科目もあります。実施に関する基準等は、ホームページに掲載される「実施要項」で確認してください。

今年度の質問内容及び質問趣旨（予定）

質問	質問の趣旨
授業実施に関する質問	
1. 授業内容はシラバスに合っていましたか。	正しく回答するためには、受講生も日常的にシラバスを参照していることが前提となります。授業進度などが若干でも修正されたかどうかということが問われているのではなく、シラバスに記載された重要な事項の実施についてどう感じたかを回答してください。
2. 受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。	受講者が多数の場合と少数の場合とでは、理解度を確かめる工夫は異なってきますが、例えば受講生が多い場合でも何らかの工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点で回答してください。もちろん、受講生としてひとつひとつ理解しながら学習を進めるという心構えを持っていないければ正しい回答は困難になります。
3. 授業レベルは自分に合っていましたか。	理解しようと最大限努力した上での率直な感想を回答してください。
4. 教員からの一方的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。	受講者が多数の場合と少数の場合とでは工夫内容はまったく異なってくると思われますが、例えば受講生が多い場合でも何らかの工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点で回答してください。
5. 提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。	受講生もフィードバックの重要性を認識し事後学習にも力を入れてほしいという願いが含まれています。そのような努力をした上で教員側からのフィードバックが効果的であったかどうかを回答してください。
6. 言葉による説明だけではなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。	図、表、写真、映像、模型などが効果的に使われていたかという観点から回答してください。受講者側の理解しようとする意欲が前提にあることは言うまでもありません。
7. 自主学習を促す工夫がなされていましたか。	受講生の自主的な学習意欲を高める工夫やモチベーションを高める工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点から回答してください。
8. 工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。 1. 分かりやすいパワーポイントや板書 2. 聞き取りやすい話し方 3. 教科書や配布資料の活用 4. マナビーの活用 5. トラブルへの対応	工夫してほしいと常に思っていたことがあれば回答してください。
この授業のための学修行動に関する質問	
9. この授業の予習、復習、自主学習に1週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし、授業時間は除く。	自主学習には、この科目のために意図的に行ったすべての行動が含まれます。十分な授業外学修を行ってほしいという願いが込められています（下記の（注1）を参照のこと）。
10. あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。	授業中の発言だけではなく、授業（教室）外での質問や、マナビーを使って発言したことも含めて自己評価してください。
11. あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。	授業の分野の重要性や面白さが分かり、更に学習を深めようとしているかどうかを回答してください。
12. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。 1. 授業内容に興味・関心があった 2. 授業方法に興味・関心があった 3. 成績評価方法・基準に興味・関心があった 4. 先輩や友人等の勧め 5. 卒業又は免許・資格の取得に必要だから	
この授業の到達目標に関する質問	
13. 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。	回答の前提として、受講生も常に授業の到達目標を見失わないようにしてほしい、到達目標達成のために努力してほしいという願いが込められています。その上での感想を率直に回答してください。
14. あなたは到達目標を達成できたと思いますか。	到達目標が複数ある場合でも、全体としての達成度を率直に自己評価してください。
15. DWCLA10の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。 1. 分析力 2. 思考力 3. 創造力 4. プレゼンテーション力 5. コミュニケーション力 6. リーダーシップ 7. 思いやる力 8. 変化対応力 9. 自己管理能力 10. 自己実現力	DWCLA10の力の重要性を認識して、その獲得に向けた努力をしてほしいという願いが込められています。シラバスに記載されていた「力」と異なっても構いません。
遠隔授業に関する質問	
17. 遠隔での授業は滞りなく行われましたか。 ※遠隔で授業が行われた場合のみ回答してください。	学生みなさんが遠隔授業を受けるにあたり、スムーズに授業に参加できたかどうか、授業はスムーズに進んだかどうかを把握したいという願いが込められています。

（注1）「学修」という用語は一般的な「学習」とは異なり、科目を履修し単位を修得することを目的として行う学習を指す場合に使用しています。

学籍

学籍は入学により発生し、卒業・退学・除籍によりなくなります。学籍がある状態のことを「在籍」、通常の学修状態にあることを「在学」といい、両者を区別しています。そのため、休学中は、「在籍」状態ですが「在学」していないことになります。

修業年限

修業年限とは、大学を卒業するために最低必要な在学年数のことです。本学を卒業するためには最低4年間（薬学部医療薬学科は最低6年間）在学することが必要です。ただし、8年（薬学部医療薬学科は12年）を超えて在学することはできません。

3年次編入学生の本学における在学すべき年数は2年です。ただし、4年を超えて在学することはできません。

2年次転入学生の本学における在学すべき年数は3年です。ただし、6年を超えて在学することはできません。

本学に在学することのできる最長の在学期間のことを、在学年限といいます。

学位

所定の期間在学し、各学科所定の卒業に必要な単位を修得した学生は卒業となり、次の学位が与えられます。

学位の種類

学芸学部

音楽学科……学士（音楽）

メディア創造学科……学士（メディア創造）

情報メディア学科……学士（情報メディア）

国際教養学科……学士（国際教養学）

現代社会学部

社会システム学科……学士（社会システム）

現代こども学科……学士（現代社会）

薬学部……学士（薬学）

看護学部……学士（看護学）

表象文化学部

英語英文学科……学士（文学）

日本語日本文学科……学士（文学）

生活科学部……学士（生活科学）

※学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、「学士（文学・同志社女子大学）」のように明記することが必要です。

学籍番号

入学手続を完了した学生には、入学と同時に学籍が設けられ、学籍番号が与えられます。

学部 学科等 入学年度 個人別一連番号

--	--	--	--	--	--	--

学 籍 番 号	所 属
1521001～	学芸学部 音楽学科 演奏専攻
1621001～	学芸学部 音楽学科 音楽文化専攻
1721001～	学芸学部 メディア創造学科
1821001～	学芸学部 国際教養学科
2121001～	現代社会学部 社会システム学科
2221001～	現代社会学部 現代こども学科
5321001～	薬学部 医療薬学科（6年制課程）
4121001～	看護学部 看護学科
6121001～	表象文化学部 英語英文学科
6221001～	表象文化学部 日本語日本文学科
3121001～	生活科学部 人間生活学科
3221001～	生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻
3321001～	生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻

学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するものです。学内では、定期試験を受けるときなどに必要です。常に携帯し、他人に貸与や譲渡をしてはいけません。

万一、学生証の紛失・盗難にあった場合は、学生支援課に届け出るとともに、近くの警察署へも届け出るようにしてください。

なお、学生証を忘れた場合は、学内の使用に限り、「仮学生証」を各年度最大5回まで発行することができます。(証明書発行機にて発行可能。有料。)

休学

病気などのやむを得ない理由によって修学することができない場合は、学長の許可を得て休学することができます。

休学が認められる期間は1学期又は1年の単位で、通算2年間までです。休学期間は学則に定める修業年限及び在学年限に含まれません。休学期間中の科目の履修や単位の修得は認められません。

休学手続 1. 学生支援課で休学理由を伝えた上で休学願を受け取り、教務課に提出してください。病気の場合は医師の診断書が必要です。

2. 休学願の提出期限は次のとおりです。

春学期（又は春学期から1年間）休学する場合 4月25日（春学期学生納付金納入最終日）

秋学期（又は秋学期から1年間）休学する場合 10月25日（秋学期学生納付金納入最終日）

※ただし、上記期日が土曜日もしくは日曜日・祝日等の場合には、直前の平日となります。

※秋学期から休学する場合は、春学期学費が完納されていなければなりません。

学 費 所定の手続により休学を認められた場合、「休学在籍料」として年間120,000円（半期の場合は60,000円）を納入することになります。

留学

本学の正規の留学プログラムで海外及び国内の協定大学等に留学する場合は、その留学期間が学則に定める修業年限及び在学年限に算入されます。また、海外の認定大学留学制度により留学する場合も、学籍上同様の取扱いとなります。

この場合、留学中に修得した単位や学修は、本学の単位として最大40単位（留学期間が1年未満の場合は30単位）まで認定することができます。ただし、本学の規定の適用を受けず留学した場合は、単位の認定はできません。

復学

休学期間が過ぎると自動的に復学となります。この場合は、復学手続は必要ありません。休学期間の延長を希望する場合は、再度休学手続を行わなければなりません。

1年間の休学期間の途中で休学の事情が解消した場合は、学期単位で復学することができます。この場合は復学願を教務課で受け取り、病気が理由であった場合は診断書を添えて、各学期の授業開始日までに教務課に提出してください。

秋学期から復学する場合は、秋学期科目のみ履修登録が可能となります。復学した学生は所定の期日までに、所定の学費を納入しなければなりません。

退 学

事情により退学を希望する場合の手続は次のとおりです。

退 学 手 続

1. 学生支援課で退学理由を伝えた上で退学願を受け取り、教務課に提出してください。
2. 退学願提出と同時に学生証を返還してください。

学 費

学費を年額一括納入している場合で、春学期末で退学するとき（秋学期授業開始日までに退学手続きをした場合）は、秋学期学費は返還します。

退学年月日

退学年月日は、学費が全額納入されている最終学期末日付となります。

再 入 学

同一の学科・専攻（改組、学科名称変更等が行われた場合は、同一の学科・専攻と認められるもの）に再入学を希望する者は、選考の上、教授会の議を経て、入学を許可することがあります。

学期途中の再入学はできません。再入学を許可された学生の在学すべき年数及び在学年限は、学生ごとに決定されます。ただし、従前の学籍記録が継承されますので、通算して所定の在学年限を超える場合は、再入学を出願することができません。

また、2008年3月31日以降学費未納により除籍となり、仮保存されている単位を有効な単位とすることを希望する者は、未納学費を全額一括納入しいったん退学しなければ再入学を出願することはできません。

再入学手続

1. 教務課で再入学願を受け取り、教務課に提出してください。
2. 再入学願の提出時期は次のとおりとします。

春学期からの再入学の場合

前年度の1月中

秋学期からの再入学の場合

当該年度の7月中

学 費

1. 再入学が許可された場合、再入学した当該年次の学費が適用されます。
2. 再入学手続金として、再入学する年度の入学金の半額及び当該学期の学費を所定の期日までに一括納入しなければ、再入学資格を失います。
3. 再入学手続金の納入にあたって、延納・分納は認めません。
4. 所定の期日以後の納入は、理由の如何に関わらず受け付けません。

除 籍

学生が次のいずれかに該当する場合は、教授会の議を経て、除籍となります。

除 籍 事 由

1. 在学年限内に卒業できない場合。
2. 休学期間2カ年を超えても復学できない場合。
3. 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない場合。

注) 学費納入の督促を受けても納入しない場合は、その年度末に教授会の議を経て除籍となります。

ただし、学費未納により除籍通知を受けた学生が除籍取消を願い出た場合、除籍の次年度の春学期学費納入期限内に次の手続を完了した場合は、教授会の議を経て除籍を取り消します。

学費未納による

除籍の取消手続

- a. 教務課備付の除籍取消願に事情を詳細に記入して教務課に提出。
- b. 未納の学費を全額納入。
- c. 除籍取消手数料5,000円納入。

卒業年次生で、卒業査定に関係する場合は、別の規定が適用されます。

〔修得単位の仮保存〕

2008年3月31日以降に学費未納により除籍となった者が学費未納期間中に修得した単位は仮保存されています。未納学費を完納して「除籍」が「退学」に変更された場合は、仮保存されている成績は有効となります。なお、仮保存中の修得単位は成績証明書には記載されません。

転学部・転学科・転専攻

1 年次から 2 年次、又は 2 年次から 3 年次に進むときに限り、転学部・転学科・転専攻を願い出ることができます。受入学部、学科、専攻で学力試験を行った上、教授会の議を経て転学科等を許可することがあります。

試験科目・試験日 7 月に公表します（教務課窓口）。過去の試験問題は公表していません。

試験日程等の詳細は、本人宛郵送にて通知します。

音楽学科への転学部、転学科には実技試験等が課され、試験課題が 5 月下旬に公表されます。希望者は学芸学部事務室（音楽学科）へお問い合わせください。

出願手続 教務課備付の転学部・転学科・転専攻願に、当該年度の一般入学試験入学検定料と同額の受験料を添えて、教務課に提出してください。教務課窓口持参に限ります（郵送不可）。

出願期間 1 月上旬（7 月に公表）

可否通知 教授会決定に基づき、本人宛郵送にて通知します（3 月上旬）。

在籍する年次 転入を許可された学生の入学年度により定めます。
ただし、生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻への転入の場合には 2 年次となります。

既修得単位の取扱い 転出学科・専攻における既修得単位を転入学科・専攻のカリキュラムに適用し、有効性を持つ科目・単位のみを転入後の成績原簿に記載します。転入後は、転入学科・専攻のカリキュラムにおいて不足の科目を履修することになります。

1. 有効性を持つ科目・単位

既修得単位の内、転入後のカリキュラムに同一科目名かつ同単位数の授業科目が存在する場合のみ、有効性を持ちます。

このほか、修得済の授業内容が転入後の授業科目における教育内容に該当し、当該科目の単位を認定することが教育上有益であると特に認められる場合は、転入後の授業科目名において単位認定することがあります。

2. 教職に関する科目について

(1) 中等教育教員養成課程間の転学科等の場合は、同一科目名かつ同単位数の授業科目についてののみ有効性を持ちます。

(2) 現代社会学部現代こども学科への転入及び現代こども学科からの転出の場合については、単位修得済の教職に関する科目は、初等教育／中等教育教員養成課程の関係において相互に有効性を持ちません。同一科目名かつ同単位数の場合でも単位認定はできません。教職に関する科目のすべてを、転入後にあらためて履修する必要があります。

3. 転入後の成績原簿に記載されなかった既修得単位の取扱い

単位を修得した事実が消えることはありません。転出前の履修記録は別途管理していますので、必要な場合、転出前の内容で証明書を発行することが可能です。（教務課へお問い合わせください。）

学 費 転入学後の学部・学科・専攻の当該年次の学費が適用されます。

そ の 他

1. 秋学期からの転学科等はできません。

2. 転学科等を認められた学生の、再転学科等は認められません。

3. 学芸学部国際教養学科、薬学部医療薬学科及び看護学部看護学科への転入は行っていません。

生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻への転学科試験については、新入生の在籍者数が入学定員の 1.1 倍未満の場合に限り行います。転学科試験を行わない場合は、5 月頃に掲示により連絡します。

4. 音楽学科演奏専攻への転学科・転専攻の場合は、実技関係科目の履修に 4 年を必要とするため、転入の年次にかかわらず、転入後最低 4 年在学して、科目を履修しなければなりません。

5. 3 年次に転入が認められた場合、更に 3 年間の在学が必要となることがあります。

3 年次への転入の出願を考えている学生は、必ず出願前に早めに教務課に相談してください。

卒業査定

卒業見込生に対しては、卒業の可否を 3 月上旬（9 月卒業の場合は 9 月下旬）に、保証人住所に保証人名と連名で、郵送にて通知します。具体的な日程については、3 月卒業の場合は 1 月下旬に掲示にて連絡します。

単位認定

本学では、本学における授業科目の履修のほか、学生の主体的学習意欲の喚起及びその学習成果の積極的評価の観点から、様々なかたちで単位認定を実施しています。また、より一層幅広い分野の科目選択の機会を学生に与えられるよう、他大学との単位互換にも積極的に取り組んでいます。

1. 本学の授業科目の単位

履修登録を行った授業科目に合格すれば、単位が与えられます。

2. 入学前に本学以外の大学等で修得した単位等の認定

新入学生 本学への入学前に他の大学・短期大学等で修得した単位等は、最大で30単位まで認定することができます。認定希望者は、合格者に発送された書類に従って手続を行ってください。

3. 本学在学中に他大学等で修得した単位等の認定

本学在学中に他の大学・短期大学等で修得した単位を本学で認定することができます。認定できる単位及び学修は以下のとおりですが、次の点に留意しながら積極的に単位認定制度を利用してください。

- 留意点
1. 海外及び国内協定大学等への留学の場合を除き、卒業に必要な単位として認定できる単位数の上限は30単位です。ここで修得した単位は、区分外領域として卒業必要単位に算入します。ただし、区分外領域の卒業必要最低単位数は各学科・専攻・学年ごとに異なりますので注意してください。
 2. 他大学は学年暦が異なり定期試験を受験できないことや成績通知が遅れることがあります。
 3. 卒業年次で履修する他大学の「単位互換科目」の単位は、卒業見込の単位としてはカウントすることはできないため、卒業年次生は履修計画を立てる際、他大学の「単位互換科目」を卒業に必要な単位としてカウントしないでください。（ただし、最終的に卒業の時点においては卒業に必要な単位の一部となります。）
 4. いったん認定された単位の取消・変更はできません。
 5. 以下a.～g.の方法以外で修得した単位等の認定は行いません。
 6. 認定された科目の成績は、「認定」となります。
 7. 休学期間中は単位等の認定を受けることはできません。

a. 同志社大学との単位互換協定に基づく認定

1997年度から同志社大学の一部の科目を履修することができるようになっています。「同志社大学互換科目」として指定されている科目の履修により修得した単位は認定されます。詳しくは別冊「同志社大学単位互換科目履修ガイド」を参照してください。2年次生から履修が可能になります。

b. 金城学院大学との単位互換協定に基づく認定

2010年度から単位互換協定に基づき、金城学院大学の一部の科目を履修することができるようになっています。「金城学院大学互換科目」として指定されている科目の履修により修得した単位が認定されます。詳しくは別冊「金城学院大学単位互換科目履修ガイド」を参照してください。

c. 奈良県立医科大学との単位互換協定に基づく認定

2012年度から単位互換協定に基づき、奈良県立医科大学の一部の科目を履修することができるようになっています。
※2021年度は実施しません。

d. 大学コンソーシアム京都単位互換協定に基づく認定

1994年度から京都地区の大学・短期大学が相互に協定を結び、大学コンソーシアム京都単位互換制度を発足させました。現在加盟大学・短期大学は約50校で、それぞれ科目を定めて加盟大学の学生を受け入れています。履修可能科目や受講方法は、大学コンソーシアム京都ホームページを参照してください。

e. 放送大学との単位互換協定に基づく認定

放送大学の科目を履修し、単位を修得した場合は、その単位を卒業に必要な単位として認定することができます。ただし、単位認定できる科目や認定上限等が学科ごとに異なります。また、本学の所定の手続を経て履修した場合のみ単位認定を行います。詳細は教務課でお問い合わせください。

f. 文部科学大臣が定める学修等による単位認定

学生の主体的学習意欲の喚起及びその学習成果の積極的評価の観点から、文部科学大臣が定める学修の内、下記の学修について在学中（入学日以降の受験分）の学修につき、各々以下の授業科目の履修とみなし、単位を認定します。単位認定の申請は学期ごとに期間を設けて受け付けます。

1) 英語の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	主催団体	単位認定基準			認定可能 単位数	認定可能科目名	備考
TOEFL®	Educational Testing Service	iBT 61点	CBT 173点	PBT 500点	2	TOEFL I	ETS主催のみ対象。 ITP（団体受験）は認定対象外。
		iBT 79点	CBT 213点	PBT 550点	4	TOEFL I TOEFL II	
		iBT 100点 以上	CBT 250点 以上	PBT 600点 以上	6	TOEFL I TOEFL II TOEFL III	
TOEIC® Listening & Reading Test	Educational Testing Service	600点			2	TOEIC I	ETS主催を対象とする。 IP（団体受験）に関しては、 学内実施分のみ有効。
		730点			4	TOEIC I TOEIC II	
		860点以上			6	TOEIC I TOEIC II TOEIC III	
IELTS	British Council, IDP IELTS Australia, Cambridge English Language Assessment による共同運営	6.0			2	IELTS I	Academic Moduleのみ対象。
		6.5			4	IELTS I IELTS II	
		7.0以上			6	IELTS I IELTS II IELTS III	
国連英検	日本国際連合協会	B級合格			2	英語検定 I	
		A級以上合格			6	英語検定 I 英語検定 II	
実用英語技能検定（英検）	日本英語検定協会	準1級合格			2	英語検定 I	
		1級合格			6	英語検定 I 英語検定 II	

認定単位数上限 6単位（入学時に単位認定を受けていた場合でも、入学後は別に6単位まで単位認定を受けることができます。）

次頁の「3）英語以外の6言語の学修に対する単位認定」の上限とは重複しません。

認定例① TOEFL® iBT 100点取得の場合、認定科目及び認定単位数は2、4、6単位の範囲で学生が選択できる。

認定例② 入学後のTOEIC® Listening & Reading Testで730点を取得し、「TOEIC I、II」で4単位認定を受けていた学生が、その後TOEFL® iBTで100点を取得した場合、認定を受けられるのは「TOEFL III」2単位のみ。

2) 日本語教育能力の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	主催団体	単位認定基準	認定可能 単位数	認定可能科目名
日本語教育能力検定試験	日本国際教育 支援協会	合格	2	日本語教育能力検定

「1）英語の学修に対する単位認定」「3）英語以外の6言語の学修に対する単位認定」の認定単位数上限には含まれません。

3) 英語以外の 6 言語の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	単位認定基準	認定可能単位数	認定可能科目名 (いずれの科目でも認定可能)	
ドイツ語技能検定試験 (独検)	4 級	2	初級ドイツ語基礎 I, II 初級ドイツ語演習 I, II	ドイツ語学修 I
	3 級	4	//	ドイツ語学修 I ドイツ語学修 II
	2 級以上	6	//	ドイツ語学修 I ドイツ語学修 II ドイツ語学修 III
Goethe-Zertifikat	A 1	4	初級ドイツ語基礎 I, II 初級ドイツ語演習 I, II	ドイツ語学修 I ドイツ語学修 II
	A 2 以上	6	//	ドイツ語学修 I ドイツ語学修 II ドイツ語学修 III
中国語検定試験 (中検)	4 級	2	初級中国語基礎 初級中国語演習	中国語学修 I
	3 級	4	//	中国語学修 I 中国語学修 II
	2 級以上	6	//	中国語学修 I 中国語学修 II 中国語学修 III
漢語水平考試 (HSK) ※	筆記 3 級 又は口試中級	2	初級中国語基礎 初級中国語演習	中国語学修 I
	筆記 4 級	4	//	中国語学修 I 中国語学修 II
	筆記 5 級以上 又は口試高級	6	//	中国語学修 I 中国語学修 II 中国語学修 III
実用フランス語技能検定試験 (仏検/DAPF)	4 級	2	初級フランス語基礎 I, II 初級フランス語演習 I, II	フランス語学修 I
	3 級	4	//	フランス語学修 I フランス語学修 II
	準 2 級以上	6	//	フランス語学修 I フランス語学修 II フランス語学修 III
フランス語資格試験 (DELF・DALF)	A 1	4	初級フランス語基礎 I, II 初級フランス語演習 I, II	フランス語学修 I フランス語学修 II
	A 2 以上	6	//	フランス語学修 I フランス語学修 II フランス語学修 III
「ハングル」能力検定試験 (ハン検)	4 級	2	初級ハングル基礎 I, II 初級ハングル演習 I, II	ハングル学修 I
	3 級	4	//	ハングル学修 I ハングル学修 II
	準 2 級以上	6	//	ハングル学修 I ハングル学修 II ハングル学修 III
実用イタリア語検定 (伊検)	4 級	2	初級イタリア語基礎 I, II 初級イタリア語演習 I, II	イタリア語学修 I
	3 級	4	//	イタリア語学修 I イタリア語学修 II
	準 2 級以上	6	//	イタリア語学修 I イタリア語学修 II イタリア語学修 III
スペイン語技能検定 (西検)	5 級	2	初級スペイン語基礎 I, II 初級スペイン語演習 I, II	スペイン語学修 I
	4 級	4	//	スペイン語学修 I スペイン語学修 II
	3 級以上	6	//	スペイン語学修 I スペイン語学修 II スペイン語学修 III

※漢語水平考試 (HSK) の筆記 5 級以上, 口試中級, 口試高級は 6 割以上のスコアが単位認定対象となります。

認定単位数上限 6 単位 (入学時に単位認定を受けていた場合でも, 入学後は別に 6 単位まで単位認定を受けることができます。)
前頁「1) 英語の学修に対する単位認定」の上限とは重複しません。

認定例 「独検」4 級に合格した場合は, 「初級ドイツ語基礎 I」「初級ドイツ語基礎 II」「初級ドイツ語演習 I」
「初級ドイツ語演習 II」(各 1 単位) 及び「ドイツ語学修 I」(2 単位) から, 2 単位の認定を申請することができます。
※履修中の科目の単位認定を希望する場合は, 教務課窓口で相談すること。なお, 単位修得済の科目は申請できません。

- 4) 認定申請期限 春学期の学修 春学期授業最終日
 秋学期の学修 秋学期授業最終日

- 5) 申請手続 申請希望者は、教務課で単位認定申請書に必要事項を記入し、合格証明書又は成績証明書原本を教務課に提出してください。入学後に受験したものであれば申請が可能です。(有効期限がある場合は、期限内のものに限ります。)
所定の期間に本人からの申請がなければ単位認定ができませんので注意してください。証明書原本の入手が遅れる場合でも必ず所定期間に教務課で指示を受けてください(特に卒業年次生は注意すること)。

g. 海外及び国内協定大学等で修得した単位等の認定

- ・海外及び国内協定大学又は認定大学で修得した単位

留学期間が1年間の場合は、a～gの項目を合わせて40単位を上限として、卒業に必要な単位として認定しています。

留学期間が1年未満の場合は、a～gの項目を合わせて30単位を上限とします。

- ・国際教養留学で修得した単位(国際教養学科のみ)

国際教養留学の場合は、a～gの項目を合わせて40単位を上限として、卒業に必要な単位として認定しています。ただし、gの項目は30単位までとなります。

国際教養留学を除き、認定方法は科目ごとの対応により審査しますので、必修や選択必修科目に認定を受けることもできます。

4. 本学入学前に本学で修得した単位について

本学入学前に、科目等履修生又は単位互換履修生として修得した本学の単位は、本学入学後も有効な単位として取り扱い、原則としてその取扱単位数に上限はありません。

ただし、カリキュラム変更等により単位修得済の科目が廃止され、入学後の学科年次等において、当該科目がカリキュラムから除外されている場合は、当該科目の単位を卒業に必要な単位に算入することはできません。

履修登録

登録制度・登録ルール

履修登録とは、指定された期日までに、その年度において履修する授業科目を届け出る手続のことです。履修登録をして、履修を許可された科目でなければ、例え毎回授業に出席していたとしても定期試験を受験できず、単位を修得することができません。登録手続の不備による不利益は、本人の責任となりますから十分注意してください。

登録にあたっては、その年度だけでなく次年度以降に履修する科目も考慮して、計画的に適切な科目を選択することが大切です。

履修登録のルールとして最も重要なものは、各学科カリキュラムの履修上の注意や履修指導ですが、全学生に一般的に適用されるルールは次のとおりとなっています。正しく理解して、間違いのないようにしてください。

登録単位数の上限

本学では、登録単位数に上限を設定しています。学科ごとに、年間又は1学期間に履修登録できる単位数の上限が示されており、上限を超える登録は認められません。これは、各科目の予習・復習に充てられる時間や学習効果の観点から、無理な履修計画を避けて充実した学習環境を保つために設けられました。2004年度より導入されたGPA制度においては、不合格科目もGPAの算出対象になりますので、留意して履修計画をたて、慎重に履修登録をする必要があります。ただし、自由選択科目、他大学の単位互換科目は上限対象外となっています。各学科のカリキュラムのページ及び成績制度を参照してください。

*最終年次に限り、登録単位数の上限を超えて履修登録することができ、修得単位は有効とします。

履修可能科目・履修年次

履修登録できる科目は、自学科の科目、他学科科目（所属している学科に提供されている科目に限る）、共通学芸科目及び履修可能な免許・資格課程等の科目です。上級年次配当科目は履修登録できません。必修科目や選択必修の外国語科目は、決められた年次で履修しなければなりません。

クラス指定

同一科目で複数のクラスが開講されている場合、クラスの指定がされている場合があります。クラスの指定とは、各学生個人ごと（通常は学科内の組ごと）に「○曜日○講時の○○先生のクラスを登録してください」と指定されていることをいいます。クラス指定の有無は開講科目表や学科ごとの配布資料で確認してください。クラスが指定されている場合は、次の場合を除いて、指定クラス以外のクラスに登録することはできません。

1. 下級年次に置かれた必修科目を（再）履修する場合。
2. （再）履修すべき下級年次の必修科目と在籍する学年の必修科目が同一曜日講時におかれていて、下級年次の必修科目が1クラスしか開講されていないが在籍する学年の必修科目は複数クラス開講されている場合。

*同一科目が、春学期、秋学期ともに開講されていて、それぞれにクラス指定がされている場合、春学期にクラス指定をされている学生は、春学期に当該科目が不合格であっても、秋学期の登録修正時に、秋学期に開講されているクラスで再履修することはできません。次年度に再履修することになります。

（クラスの指定がされていない科目の場合や再履修生用のクラスがある場合は、秋学期での再履修は可能です。）

予備登録

2年次以上に設置されている一部の科目には、履修前年度に、予備登録をしておかなければならないものがあります。

予備登録の必要な科目にもかかわらず予備登録しなかった場合は、年度始めの登録（本登録）ができません。予備登録が必要な科目は掲示等によりお知らせします。本登録時には、予備登録の結果通りに正しく登録できているか確認してください。予備登録後の変更はできません。ただし、再履修科目登録などの理由で変更が必要な場合は各学科で許可を得て登録の手続をしてください。

セット登録

学科により、春学期科目と秋学期科目等をセットで同時に登録しなければならないとしている科目があります。この場合は学科の指示によりセット登録してください。セット登録科目の履修で、1科目のみ合格した場合、その単位は有効です。合格科目を含めて次年度に再度セット登録することはできません。

他キャンパス科目

両キャンパスの科目を同一曜日に履修希望する場合は、必ず移動時間として1コマ分を空けてください。遠隔授業として行われる科目についても同様です。

複数クラス登録

同一名称の科目は、担当者等が異なっても同一年度に複数クラス登録することはできません。

再登録

過年度に単位を修得した同一名称の科目は、担当者等が異なっても再度登録することはできません。

二重登録

同一学期の同一曜日講時に2科目以上を登録することはできません。登録修正により、二重登録状態を解消しなければ両科目とも無効になります。

他大学単位互換科目

「同志社大学互換科目」「金城学院大学互換科目」「奈良県立医科大学互換科目」「大学コンソーシアム京都互換科目」「放送大学科目」の履修登録手続は、本学の科目の履修登録手続と異なります。他大学単位互換科目の出願票は別紙又は別途Web出願となっており、本学のWeb教務システムからは登録できません。

また、他大学の学年暦により、成績の報告が遅れる場合もあるので、卒業年次生はこれらの科目を卒業に必要な科目としては履修しないでください。(必ずオーバー単位として履修してください。単位互換科目を卒業見込単位に含めることはできません。また、春学期卒業予定者の場合は、夏期集中講義の履修についても注意してください。)

登録の許可・不許可

登録の許可の通知は行いません。不許可の科目のみ掲示等により連絡します。

次の場合は不許可となります。

1. 履修登録のルールに違反している場合。
2. 開講予定科目がやむを得ない理由で、欠講となる場合。(履修希望者が10名以内の場合は欠講となることがあります。)
3. 選択科目では、特定の科目に履修希望者が集中した場合、卒業年次生・上級年次生の優先、教室配当の調整、担当教員の手配等の措置の結果、次のことが生じることがあります。予めご了承ください。
 - a. 担当教員が当初の予定と変更になる場合。
 - b. 曜日、講時が変更になる場合。
 - c. 希望科目の登録ができなくなる場合。
4. 「他学科科目」では、自学科の学生が優先されるため、履修希望者が多数の場合は、他学科生は登録を許可されないことがあります。掲示で確認してください。

登録修正期間終了後の登録取消

登録修正期間終了後、病気・怪我等やむを得ない事由により履修の継続が困難と判断され、登録の取消を希望するときは、学科主任の承認を得て登録取消を認めることがあります。登録の取消を希望する場合は、教務課に申し出て許可を得てください。ただし、定期試験受験後に取り消すことはできません。

卒業年次生の履修登録について

卒業年次生については、年度開始時の履修登録期間中に、必ず春学期・秋学期を通して卒業に必要な単位をすべて満たすよう履修登録をしてください。春学期科目のみを登録する等、卒業要件を満たさない登録をした場合、「卒業見込証明書」等の証明書作成ができません。

試験・レポート

試験には、平常試験・定期試験・追試験があります。また、試験に代わるものとして、レポートが課される場合があります。

平常試験

授業中に行われる試験です。平常試験に関する必要事項は授業中に担当教員から直接連絡がある場合と、掲示により連絡される場合がありますので注意してください。また、平常試験に関しては、後述の追試験はありません。

定期試験

定期試験は、各学期末の定められた期間に行われます。試験は以下の表の時間割に従って行われます。試験の時間割は、授業時間割と原則として同じですが、科目ごとの共通試験問題による実施の場合等で授業時間割と異なることもありますので、十分注意してください。なお、同一科目で複数クラスがある場合、履修登録したクラスの試験を受験しなければなりません。

（注１）各学期の授業最終週（第15週）に実施される試験については、定期試験と同様に取り扱われます。

（注２）定期試験については、各学期の授業第13週目に発表される、個々の科目の試験日・時間等を一覧にした「定期試験時間割」でお知らせします。

定期試験時間

I	9 : 10 ~ 10 : 10
II	11 : 00 ~ 12 : 00
III	13 : 15 ~ 14 : 15
IV	15 : 00 ~ 16 : 00
V	16 : 45 ~ 17 : 45

※試験時間は通常60分間ですが、90分間以内で試験が行われる場合もあります。いずれの場合も試験開始時刻は同じです。

※各学期、定期試験予備日が設けられています（学年暦を参照）。定期試験期間中に、交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講措置が適用された場合、当該試験を予備日に振り替えて実施される場合があります。詳細は、この「履修要項」最終ページを参照してください。

受験資格

次の場合は、定期試験を受験することができません。

1. 履修登録をしていない場合。
2. 学費未納の場合。

受験上の注意

1. 学生証を持参していない場合は、定期試験を受験できません。受験中は学生証を監督者が見やすいように机の上に置いてください。科目等履修生、単位互換履修生、聴講生、履修証明プログラム生は履修生証・聴講生証等が必要です。

（試験当日学生証を忘れた場合は、証明書発行機で仮学生証を発行してください。）

2. 試験時の座席は指定されています。試験場入口に掲示してある座席表で確認し、指定の座席で受験してください。
3. 試験開始時刻から15分以上遅刻した場合は受験できません。
4. 試験開始後30分間は試験場を退出することはできません。試験開始30分後以降の退出については監督者の指示に従ってください。
5. 遅刻した場合でも、試験時間の延長は認められません。
6. 受験の際は、筆記用具及び特別に持込みを許可されたもの以外は机の上に置いてはいけません。下敷の使用は原則として認めていません。携帯電話等を時計として使用することはできません。
7. 「定期試験時間割」において、資料等の持込みが「一切可」となっている場合でも、次の機器を持ち込むことはできません。

- ・パソコン（モバイルPC等を含む）、タブレット端末
- ・携帯電話（スマートフォン、PHS等を含む）
- ・腕時計型端末
- ・携帯音楽プレーヤー

- ・その他、外部との通信機能又は映像・音声収録再生機能のある機器
(電子辞書機能や計算機機能等を併せ持つ機器を含む)

前頁及び上記の機器の持込みが許可される場合の表記は、「授業時に指示」となりますので、授業中に確認してください。

8. 解答に使用する言語について担当教員から指示がある場合は、その指示に従ってください。特に指示がない場合、授業実施に用いられていない言語での解答を希望する場合は、事前に担当教員の許可を得なければなりません。
9. 不正行為をした場合にはその科目は0点となり、「同志社女子大学学生懲戒規程」により厳正に対処します。
10. その他試験中は、すべて監督者の指示に従ってください。

追 試 験

定期試験受験資格のある学生が、病気、事故、その他正当な理由で定期試験を受験できなかった場合、追試験を願い出ることができます。許可された学生は定期試験終了後に行われる追試験を受験することができます。(遅刻・時間の間違い等、本人の不注意によるもの等は対象となりません。)

追試験許可理由

1. 病気(欠席した試験日当日の状況説明のある診断書が必要。コピー不可。)
2. 公欠事由(P17参照。なお、試験期間中の実習は極力避けること。)
3. 就職採用試験(企業側の証明書が必要。単なる会社訪問等は対象外。)
4. 交通機関の延着(延着証明書必要。ただし、ホームページ上で発行されているWeb版延着証明書は不可。)
5. 二親等までの危篤(家族の証明必要)
6. 二親等までの葬儀(家族の証明・告別式案内等のコピー必要)
7. 「同志社大学互換科目」、「大学コンソーシアム京都互換科目」、「放送大学科目」の定期試験受験。「大学コンソーシアム京都互換科目」については、受験証明書が必要。また、移動時間に合理性がない場合は不可。)
8. その他教務部長が正当と認めた場合

追試験受験手続

1. 欠席した試験日の翌日までに、追試験願を教務課に提出しなければなりません。電話による仮受付も対応します。
2. 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければなりません。証明書類を追試験願と同時に提出できないときは、当該試験実施日より3日以内(休日、祝日、休業日を除く)に提出してください。期日までに証明書類が提出されない場合は、当該追試験願を取り消します。

注 意

1. 追試験の時間割は定められた日時にホームページ上で発表します。
2. 正当な理由(追試験許可理由と同じ)により、決められた追試験時間割で受験できない場合は、当該科目追試験実施日の事務取扱時間終了時までに教務課へ申し出てください(電話可)。

レポ ー ト

レポートは担当教員から随時課される場合や、定期試験に代わるものとして課される場合があります。課題に関する詳細や提出方法については、授業時に教員から直接指示される場合や、マナビーにて通知される場合がありますので、注意してください。

レ ジ ュ メ の 印 刷

授業で使用するレジユメの印刷を申し込む場合の申込先は、次の表のとおりです。レジユメが必要な日の3日前(休日・祝日・休業日を除く)までに申し込んでください。ただし、学部事務室に申し込む場合は、申込期限が異なる場合もあります。

教 員 区 分	科 目 区 分	取 扱 先
嘱託講師担当科目	全 科 目	教 務 課
専 任 教 員 担 当 科 目	「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」 「外国語科目」「スポーツ・健康科目」 「教職に関する科目」 「学校図書館司書教諭課程科目」	
	上記以外の科目	
		科目を設置する学科の学部事務室

成績

成績

学習の評価は原則として100点法で行います。成績と成績証明書における表示との関係は以下の表のとおりです。

	成績通知書の表示	成績証明書の表示	備 考
合 格	100点～90点	秀	特に優れた成績を示した。
	89点～80点	優	優れた成績を示した。
	79点～70点	良	妥当と認められる成績を示した。
	69点～60点	可	合格と認められる最低限度の成績を示した。
	S	合格	100点法では評価できない科目の合格。
他 大 学 等 の 単 位 認 定	N	認定	他大学等で修得した単位の認定。 協定大学等留学に関わる単位の認定。 転学部・転学科等での修得済単位の認定。
不 合 格	59点以下	——	合格と認められるに足る成績を示さなかった。

注1) 成績証明書では、不合格科目の表示はされません。

注2) 「同志社大学互換科目」、「金城学院大学互換科目」、「奈良県立医科大学互換科目」、「大学コンソーシアム京都互換科目」、「放送大学科目」は、成績通知書にも合格科目のみNと表示されます。科目名には大学名を付記します。

注3) 成績通知書において、教職の教科に関する科目の認定は「教認」、留学による認定の場合は「留認」と記載されます。

成績開示 春学期の成績は9月下旬、秋学期の成績と通年科目の成績は3月下旬に学生に開示します。それ以前の成績に関する照会には応じません。在学生の保証人には翌学期の初旬に成績を通知します。
卒業査定合格者の成績は、学位授与式当日に通知します。

成績に関する質問 成績に関する質問は、成績開示日から一週間以内であれば教務課で文書にて受け付けます。それ以降の質問は受け付けません。

GPA制度について

本学では、2004年度入学生よりGPA（Grade Point Average）制度の導入を行いました。科目ごとの100点法による成績からそれぞれのポイント（GP）を求め、単位あたりの平均値を算出し、学期ごとのGPAと在籍期間中の累積GPAを成績通知書に記載します。修得単位数という“量”の学習成果に加え、成績評価にもとづく学習の“質”を総合的に評価できることとなります。このGPA制度の導入により、学期ごとの学習成果と推移がより明確となり、より細やかな学習指導の活用と、学習意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的として導入されました。

●100点法による成績、評価、GP（Grade Point）との関係

成 績	評 価	GP
100点～90点	秀	4.5～3.5
89点～80点	優	3.4～2.5
79点～70点	良	2.4～1.5
69点～60点	可	1.4～0.5
59点以下	不合格	0.0
S	合格	——
N	認定	——

●GPAの算出方法

- ・GPの基本算出方法

$$GP = (100 \text{点法による成績} - 55) \times 1/10$$

- ・GPAの算出方法

$$GPA = \frac{\text{学期の} [(\text{登録科目の単位数}) \times (\text{登録科目で得たGP})] \text{の総和}}{(\text{学期登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

- ・累積GPAの算出方法

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{在籍期間中の} [(\text{登録科目の単位数}) \times (\text{登録科目で得たGP})] \text{の総和}}{(\text{在籍期間中の登録科目単位数の総和})}$$

例えば、学期中の成績が以下の場合、GPAの算出は次のようになります。

授業科目名	単位数	成績	評価	GP
聖書A	2	83	優	$(83-55) \times 1/10=2.8$
哲学A	2	75	良	$(75-55) \times 1/10=2.0$
自然科学史	2	58	不合格	0
情報と社会	2	98	秀	$(98-55) \times 1/10=4.3$
Speaking I	1	82	優	$(82-55) \times 1/10=2.7$
Speaking II	1	79	良	$(79-55) \times 1/10=2.4$
国際文化交流史	2	65	可	$(65-55) \times 1/10=1.0$
日本文化論	2	0	不合格	0
憲法 I	2	N	認定	GPA算出対象外
公衆栄養学実習（臨地実習）	1	S	合格	GPA算出対象外

* 成績評価が「合格 (S)」, 「認定 (N)」の科目はGPAの算出からは除外されます。

$$GPA = \frac{(2.8 \times 2 + 2.0 \times 2 + 0 \times 2 + 4.3 \times 2 + 2.7 \times 1 + 2.4 \times 1 + 1.0 \times 2 + 0 \times 2)}{14} = 1.80$$

したがって、この学生のGPAは1.80となります。GPAの計算において計算式の分母は不合格科目を含め、履修登録をしたすべての科目の合計単位数であることに注意してください。

(自身で履修を放棄した科目についても100点法で成績評価されますので、GPAの算出に含まれます。)

○GPA算出除外科目

- ・原則として履修登録をしたすべての科目がGPA算出対象となります。ただし、成績評価が「合格 (S)」, 「認定 (N)」で単位修得した科目や、卒業要件に算入されない科目はGPAの算出対象科目から除外されます。

○成績証明書・成績通知表への記載について

- ・成績証明書には、合格科目について評価（秀・優・良・可）のみが記載されます。ただし、海外留学等でGPAが必要な場合には、本人の申請によりGPAの記載が可能です。
- ・成績通知書には、履修科目すべての100点法による成績及び秀・優・良・可・不合格による評価とGPが記載されます。GPAは、学期ごとのGPAと各科目区分別の累積GPAが記載されます。

証明書

	種 類	取 扱 い	自動発行機	窓口で申込み	
			日 本 文	日 本 文	英 文
在 学 生	成績証明書	教務課	200円	—	1,000円
	在学証明書		100円	—	500円
	卒業見込証明書		100円	—	500円
	教職課程単位修得見込証明書	免許・資格課	100円	—	—
	管理栄養士課程単位修得見込証明書		100円	—	—
	仮学生証	学生支援課	100円	—	—
	上記以外の証明書	教務課もしくは免許・資格課の窓口にお問い合わせください。			
卒 業 生	成績証明書	教務課	—	300円	500円
	卒業証明書		—	300円	500円
	学力に関する証明書(教職課程)	免許・資格課	—	300円	—
	管理栄養士課程単位修得証明書		—	300円	—
	上記以外の証明書	教務課もしくは免許・資格課にお問い合わせください。			

【証明書自動発行機の利用について】

1. 学生証、手数料を用意し、暗証番号（入学時に通知）等を発行機の指示により入力してください。
（仮学生証を発行する際は、学生証の提示は不要です。）
2. 当該年度卒業見込者の成績証明書には、5月以降、自動的に卒業見込である旨の文言が入ります。
3. 学割証、健康診断証明書も発行可能です。
4. 卒業生は証明書自動発行機を利用することはできません。
5. 利用時間は、教務課及び免許・資格課窓口の事務取扱時間内とします。土・日は一切稼働していません。祝日は授業日のみ稼働します。（事務室休憩中11：30～12：30も利用できます。）
6. 発行機故障時には、窓口で申し込んでください。

【窓口で申し込む証明書について】

1. 手数料は、収入証紙（同志社女子大学）を自動券売機で購入し、申込用紙に貼付してください。
2. 日本文、英文以外の言語での発行はできません。英文では発行できない証明書もあります。詳細は窓口で確認してください。
3. 交付日は原則として申込日中としますが、混雑時や閉室間際の申込みについては、その限りではありません。なお、卒業生の学力に関する証明書（教職課程）は申込日より1週間後、管理栄養士課程単位修得証明書は申込日より3日後の発行となります。
詳細については、随時窓口でお問い合わせください。

【卒業生の証明書申込方法】

本学ホームページの証明書申込フォーム、窓口で申込みできます。詳細については、本学ホームページで確認してください。

本学ホームページ [卒業生の方へ](#) → [卒業生の証明書申込受付](#)

生活科学部カリキュラム

同志社女子大学 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

同志社女子大学は、建学の精神に基づき、キリスト教主義教育、国際主義教育及びリベラル・アーツ教育の3つの教育理念により、良心をもって知識、能力を運用し、社会の礎となって活躍する自立した女性を育成する。本学は、次に掲げる人物で、かつ各学部学科、専攻科、研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）又は修了証書授与の方針に定める基準に到達し所定の卒業又は修了要件を満たした者に学位又は修了証書を授与する。

- ・キリスト教主義教育により、隣人を愛し他者を思いやることを持ち、世の光・地の塩となって他者及び社会に奉仕することのできる人物。
- ・国際主義教育により、異文化を尊重するとともに、言語や民族の違いを越えてグローバルな視点に立って国際社会で主体的に行動できる人物。
- ・リベラル・アーツ教育により、深い学術的知識、専門的技能と幅広い教養を持ち、学士にふさわしい分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力などの基礎的・汎用的能力を持った人物。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

同志社女子大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を涵養するとともに、学生一人ひとりの能力を最大限に引き出し、それぞれの興味や関心に従って自己の進路を切り開く力をつけることができるよう編成されている。

【体系性】

幅広い教養と広い視野を拓くため、全学部学科共通に「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」の各科目区分が設けられ、それぞれの区分に多様な科目が設置されているとともに、多くの他学部他学科科目や他大学科目の履修を認めている。

専門分野のカリキュラムは、「基礎教育科目」や「入門・概論科目」などから「応用・各論科目」「基幹科目」などへと段階的、発展的な科目区分が設けられ、最終的には「卒業研究」や「卒業論文」などにつながるよう編成されている。

講義科目、演習科目、実験・実習・実技科目などの多様な授業形態の科目が、学部学科の特性に従ってバランスよく配置されている。

専攻科においては、3専攻固有の科目と各専攻共通科目に区分して科目が設置されている。

大学院においては、専攻及び課程ごとに適切な「類」や「分野」を設けて科目が設置されている。

【教育内容】

キリスト教主義教育、国際主義教育及びリベラル・アーツ教育の3つの教育理念を基本とし、学生の学習意欲を刺激し支援する学習者本位教育活動を展開している。また、どの分野の学問を専攻する場合にも社会のどの分野に進む場合にも必要とされる基礎的・汎用的能力の獲得も重視している。

- ・学部においては、幅広い教養と広い視野を拓くため、多様な分野の科目が「共通学芸科目区分」に設置されているほか、他学部他学科の科目や他大学の科目を履修する機会が豊富に用意され、国内外の協定大学等への留学の機会も設けられている。
- ・「キリスト教・同志社関係科目」区分では、キリスト教の歴史や文化を学ぶとともに、本学の建学の精神に触れる機会を共有している。
- ・「外国語科目」区分には、本学で伝統的に重視されている英語教育科目の他、多様な言語教育科目が設置され、異文化を理解し国際社会で活躍するための基礎的な力である外国語運用能力を身に付けられるようになっている。
- ・「スポーツ・健康科目」区分には、生涯にわたる健康について多様な側面から学ぶ科目が設置されている。
- ・専門分野の教育については、各学部学科において深い専門分野の教育が展開されている他、大学での学習方法などを学ぶ初年次教育や自らのキャリアデザインを描き学習のモチベーションを高めるキャリア教育も実践されている。
- ・免許・資格課程に関しては、原則として全学を対象とした学芸員課程、司書課程、司書教諭課程、日本語教員養成課程、社会福祉主事（任用資格）課程、ピアヘルパーの課程と特定の学科等を対象とした教職課程やその他の課程を設置している。
- ・専攻科においては、学部教育の基礎の上に、学問分野に関するより高度な技術や知識を備え、社会に貢献することができる女性を育成する教育が実践されている。
- ・大学院においては、学部教育の基礎の上に、学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力を養い、文化の進展に寄与する女性を育成する教育が実践されている。

【教育方法】

- ・知識・技能を獲得することが主目的の科目、知識・技能を活用することが主目的の科目など、それぞれの科目の特性に適した多様な教育方法が実践されている。教える者と学ぶ者との双方向性や学ぶ者同士の相互性を重視するアクティブ・ラーニングが多様な形で実践されている。
- ・知識や技能を無批判に獲得するのではなく、「知識を得る」「体験する」「深く考える」「考えをまとめ、他者に伝える」「他者と議論しあえる」は相互に評価し合う」「自らの考えを修正し鍛え直す」などの過程を通して、知識や技能を真に自分のものとするとともに、創造性に溢れた発想を涵養する教育が重視されている。

【学修成果の測定方法】

- ・学修成果の測定方法は科目により異なるが、本学では学修のプロセスで獲得できる多様な能力と学修の結果としての知識や技能などの双方を重視し、それぞれの観点から多様な方法での測定を行う。
- ・個々の科目の学修成果の測定結果を、学部学科、専攻科、研究科としての到達目標の達成度の測定に活用し、教育力のいっそうの向上に努める。
- ・本学の学生に卒業時まで身に付けてもらいたい10の力（本学の英語名称であるDoshisha Women's College of Liberal Arts にちなんでDWCLA10：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力の10の力）の達成度の測定は、成績評価のほか、在学生アンケート、授業アンケートなどでも行う。

生活科学部 人間生活学科

■ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

生活科学部人間生活学科は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に学士（生活科学）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・科学的思考に基づく、広い視野と専門的知識を併せ持つ「くらし」のスペシャリストとして、以下に示す「くらし」、「こころ」、及び「まちづくり」を3つの軸として、基礎的な専門知識を広く獲得するとともに、特定分野の高度な専門的知識を体系的に獲得している。

（くらし）

- ・「くらしの経済学」などを中心とした専門的知識
- ・「衣生活学」などを中心とした専門的知識
- ・「被服造形論」などを中心とした専門的知識
- ・「住生活学」などを中心とした専門的知識

（こころ）

- ・「児童学」などを中心とした専門的知識
- ・「いのちと倫理」などを中心とした専門的知識
- ・「社会心理学」などを中心とした専門的知識

（まちづくり）

- ・「まちづくり概論」などを中心とした専門的知識
- ・社会福祉学などを中心とした専門的知識

（幅広い教養等）

- ・専門分野以外の幅広い分野の教養
- ・英語運用能力
- ・ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルのいずれかに関する基礎知識

【関心・意欲・態度】

（くらしに関する関心）

- ・生活の中で直面する諸事象やそれに伴う諸課題への強い関心を持っている。

（くらしに関する諸問題解決に向けた意欲・態度）

- ・くらしに関する諸問題解決に向けた強い意欲を持っている。

- ・ 暮らしに関する諸問題を多面的に探究し、解決に向けて実践する態度を身に付けている。
- (自らのキャリア・デザイン形成に対する意欲)
- ・ 暮らしに関する諸問題を探究し解決することを通して、自らのキャリアをデザインしていく意欲を持っている。

【表現・技能・能力】

(表現)

- ・ 暮らしに関する諸事象や諸問題をイメージし、具体的に解決策等を指摘できる。
- ・ 暮らしに関する諸事象や諸問題をイメージし、かたち（作品）として産出できる。

(技能・能力)

- ・ 本学科の一連の学びの中で習得した知識・技能を活用し、暮らしに関する諸問題を検討し、得られた成果をプレゼンテーションできる技能や能力を持っている。

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・ 専門教育科目を「基礎教育科目区分」「入門・概論科目区分」「応用・各論科目区分」「卒業論文」と段階的に配置する。これにより、学科を構成する3分野である、暮らし・こころ・まちづくりを体系的に学び、科学的思考に基づく「暮らし」のスペシャリストを育成する。
- ・ 全学共通科目に関しては、全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに、他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】

- ・ 学科教育への導入として、「基礎教育科目」及び「入門・概論科目」を設けている。「基礎教育科目」では、専任教員が担当し、新入生が10名程度の少人数編成で受講する「人間生活学基礎演習」を春学期に組み込み、大学教育の基礎的導入に加え、大学生活への初期適応の支援を行う。またこの演習を利用して、4年間の履修展望や卒業生との交流プログラムを試みている。また、「入門・概論科目」を設けることにより、本学科の3分野（暮らし、こころ、まちづくり）を構成する各学問分野を鳥瞰できるようにしている。
- ・ 専門教育科目として、「応用・各論科目」及び「ゼミナール科目」を設置している。「応用・各論科目」には2・3年次に科目が設置され、3分野（暮らし、こころ、まちづくり）に含まれる各科目を体系的に履修することができる。その他、被服系や住居系については、実習科目を系統的に配置し、実践・技能的な学びも可能としている。「ゼミナール科目」では、3-4年次の一貫演習（応用演習Ⅰ、Ⅱ、卒業論文）を行っている。この演習は、専任教員が担当し、各学年とも10名程度の少人数編成で行われる。4年次末には卒業論文発表会を行い、各演習及び各学生の成果を相互に確認する。
- ・ 全学共通科目により、専門分野以外の幅広い知識と教養を身に付け、広い視野と想像力を養うとともに豊かな人間性を涵養する。
- ・ 外国語に関しては、英語運用能力を身に付けるとともに、ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルから1言語の基礎知識を修得する。
- ・ 中学校教諭一種免許状（家庭）、高等学校教諭一種免許状（家庭）の教職課程を設置している。

【教育方法】

- ・ 講義・演習・実習の形式にかかわらず、事前の準備学習や受講後の復習を徹底させるために、教科書・参考図書の活用やノートテキングに加え、本学のWebによる学習支援システム（愛称：マナビー）による双方向型な学びのシステムを活用する。
- ・ 各授業形態の特徴に応じて、担当教員と受講学生の双方向コミュニケーションを活性化させ、各授業の教育目標への到達の円滑化をはかる。
- ・ 各授業形態の特徴に応じた課題（小テスト、home work、マナビーによる課題）を課すことにより、受講生それぞれの到達度を点検する。
- ・ 実習型授業や演習では、少人数クラスを基本として、教員-受講学生という軸に加え、受講学生同士の学習上の交流の促進をはかる。これにより、他の受講学生の習熟度を知ることによる動機づけの高揚や、他の受講学生に対する学習支援を喚起させ、学習効果全体を上昇させることができる。
- ・ 3年次にはキャリア形成を促進するため人間生活学科の学びに特化した実習先での「インターンシップⅡ」を科目として開講し、実習先での学習体験等を下級年次生に公開する報告会を開催する。これにより、学科での学びと企業等での学びを連結することができる。
- ・ 3-4年次一貫演習（応用演習Ⅰ、Ⅱ、卒業論文）では、各受講学生が専門的テーマを設定し、卒業論文発表会に向けて、研究に取り組む。これにより、情報収集、討論、プレゼンテーションなどに関わる諸技能が育成できる。また、フィールド・ワークの企画・実践なども含め受講生相互の交流に伴い、卒業後も必要とされるリーダーシップなどの社会的スキルを磨くことも可能となる。

【学修成果の測定方法】

- ・講義科目では、積極的な授業参加度、小テスト・定期試験、さらにレポートやノート提出などによる評価を総合して、講義内容の理解・学習達成度を測定する。
- ・実習・演習系科目では、各受講学生の遂行、集団課題での貢献度、個別のレポートや発表などによる評価を総合して、達成度を測定する。
- ・「卒業論文」では、卒業研究への取り組みの状況、提出された成果、卒業論文発表会での発表などにより、各担当教員が総合的に評価する。卒業論文発表会では、専任教員全員と在学生の前で成果を発表するので、担当教員による評価の透明性が担保できる。
- ・本学全体で実施している授業アンケートや在学生アンケートによっても、受講学生が認知した授業の質を確認できる。

生活科学部 食物栄養科学科

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

生活科学部食物栄養科学科は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に学士（生活科学）の学位を授与する。

（生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻）

【知識・理解】

科学的基盤に立ちつつ、食文化的な理解も含めた広い視野を持つ「食」のスペシャリストとして、食を多面的・総合的に捉えられるよう、食品学・調理学・栄養学について以下の内容を理解し、基礎から応用までの知識を体系的に獲得している。

（食品学）

- ・食品の構成成分とその分析方法
- ・加工・貯蔵における食品成分の変化
- ・食品の物性及び成分との関係
- ・微生物の一般性状と食品への利用法
- ・食品成分の栄養・機能性と保健機能食品への活用

（調理学）

- ・調理過程における食品成分の変化
- ・各食品素材の特性を生かす調理法
- ・安全性及びおいしさを高める調理法

（栄養学）

- ・食べ物として摂取された栄養成分の体内での変化と活用
- ・栄養が健康の保持・増進、疾病の予防に果たす役割

（幅広い教養等）

- ・専門分野以外の幅広い分野の教養
- ・英語運用能力
- ・ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルのいずれかに関する基礎知識

【関心・意欲・態度】

（食に関する関心）

- ・食生活、食産業、食環境、食文化、その他食に関するあらゆる事象と課題に関心を持っている。

（意欲・態度）

- ・上記事象を科学的な視点から捉え、課題の解決に向けて意欲的に取り組む態度を身に付けている。
- ・食品に関する諸問題を探究することを通して、自らのキャリアをデザインしていく意欲を持っている。

【表現・技能・能力】

（技能）

食品に関する以下の技能を身に付けている。

- ・基本及び応用調理技術と加工技術

- ・ 化学的ならびに機器を用いた分析手法
- ・ 物性測定及び官能評価の方法
- ・ バイオテクノロジーの基本技術

(表現・能力)

- ・ 本専攻で獲得した知識と技能を活用し、食に関わる課題を科学的な視点から検討する能力、及び得られた成果をわかりやすく報告・発表する表現力を持っている。

(生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻)

【知識・理解】

(食べ物と健康)

- ・ 食品学・調理学の基礎知識を基盤として、食品の特性を生かした加工・調理方法を理解している。
- ・ 食品の安全性をふまえた食品の取り扱い方を理解している。

(人の栄養と健康)

- ・ 人体の構造と機能、疾病の成り立ちを理解している。
- ・ 人体の構造と機能に関する知識を基盤とした栄養学の知識を持つ。
- ・ 病態に関する知識と理解を基盤として、臨床栄養学を理解している。
- ・ 対象に合わせた食事管理・栄養教育に必要な知識を持つ。
- ・ 人の栄養に関する専門的知識を体系的に理解している。

(社会・環境と健康)

- ・ 社会・環境のなかの健康を理解するための公衆衛生学の知識を身に付けている。
- ・ 健康と食べ物及び栄養との関係についての専門的知識を持ち、統計的情報を理解している。

(幅広い教養等)

- ・ 専門分野以外に幅広い分野の教養を持っている。
- ・ 英語運用能力を有するとともに、さらに希望した者はドイツ語、フランス語、中国語、ハングルのいずれかに関する基礎知識を持っている。

【関心・意欲・態度】

- ・ 食・栄養からみた健康問題に強い関心を持っている。
- ・ 専門的知識・技術を進んで学ぶ意欲を持っている。
- ・ 学んだ知識と技術を統合的に用いて保健行政、教育、企業、医療・福祉などの場で解決しようとする態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・ 科学的な根拠に基づいて、実験・調査結果を適切に読解・分析する力を身に付けている。
- ・ 保健行政、教育、企業、医療・福祉などの場において管理栄養士として必要なコミュニケーション力を身に付けている。
- ・ 栄養状態の評価と栄養管理が実践できる基礎的な技能を持っている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

(生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻)

【体系性】

- ・ 専門教育科目を「基礎教育科目区分」「入門・概論科目区分」「応用・各論科目区分」「卒業論文」と段階的に配置し、その中で食品学・調理学・栄養学を広く学ばせ、科学的基盤に基づいた「食」のスペシャリストを育成する。
- ・ 全学共通科目に関しては、全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに、他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】

- ・ 「基礎教育科目区分」「入門・概論科目区分」では、本専攻での専門的な学びに必要な科学的基礎を身に付ける。特に「生活科学概論」では初年次教育として、複数教員によるリレー方式の講義を受け、本専攻での4年間の学びの内容を概観すると同時に、大学での学習姿勢を身に付ける。

- ・「応用・各論科目」区分では、専門的な講義と豊富な実験・実習を通して、食物の特性や嗜好性を科学的に理解・追求するために必要な知識と技能を獲得する。
- ・「卒業論文」では、本専攻での学びの集大成として食に関する専門的な研究に取り組む。
- ・全学共通科目により、専門分野以外の幅広い知識と教養を身に付け、広い視野と想像力を養うとともに豊かな人間性を涵養する。
- ・外国語に関しては、英語運用能力を身に付けるとともに、ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルから1言語の基礎知識を修得する。
- ・中学校教諭一種免許状（家庭）、高等学校教諭一種免許状（家庭）の教職課程、食品衛生監視員（任用資格）、食品衛生管理者（任用資格）、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリストの諸課程を設置している。

【教育方法】

- ・受講内容を概観し、必要な知識を準備させるため、また受講で得た知識を定着させるために、シラバスに基づいて教科書・ノート又は本学のWebによる学習支援システム（愛称：マナビー）を利用して、授業内容を予習・復習させる。
- ・授業では、教員から学生に問いかけ、学生間の議論を誘導するなど、アクティブ・ラーニングの要素も取り入れて授業を活性化させ、習得した知識や意見の発信力や検証力を育てる。
- ・小テストやノート・レポート提出などによって、復習効果を高め、習得度を確認する。
- ・少人数クラスの実験・実習授業を実施する。協同学習やアクティブ・ラーニングの効果を利用して、食の専門知識理解を深め、実践的な技能を習得させる。得られた結果を分析・考察・まとめさせる過程で分析力や思考力を、レポート提出や口頭発表を課すことで論理的文章作成やプレゼンテーション能力を育成する。また、このような過程を通して、情報機器や統計手法の活用法にも習熟させる。
- ・限られた人数ではあるが、食品関連企業などでのインターンシップや食品開発プロジェクトを経験させることで、専門内容の現場での実践経験を与えると同時に、キャリア教育の一環として職業や社会との接続を意識させる。学内で事前・事後指導を実施し、専攻内での公開報告会でプレゼンテーションさせる。
- ・「卒業論文」では履修生を各研究室に配属し、担当教員の指導の下、主にグループで食に関わる様々な課題に取り組ませる。一年間の持続的な研究活動により、配属研究室独自の高い技能を獲得させるだけでなく、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協同性など、社会人として求められる資質を広く涵養する。得られた最終成果を論文にまとめて指導教員に提出させ、学科主催の卒業論文発表会において専任教員と在学生の前で口頭発表させる。各研究室代表の学生からなる卒論委員会が、教員の指導の下、卒業論文発表会を運営する。これらのことにより、履修生全員に高い目的意識と継続意欲を持たせ、事後の達成感と自信を得させる。

【学修成果の測定方法】

- ・講義科目に関しては、積極的な授業参加度、小テスト及び定期試験の結果、さらにレポートやノート提出等を求める場合はそれらの評価結果も合わせて、講義内容の理解・学習達成度を測定する。
- ・実験・実習科目に関しては、個々のパフォーマンス、グループワークでの貢献度、提出されたレポートや発表の内容に基づいて総合評価する。
- ・「卒業論文」に関しては、上記研究活動に対する取り組み状況、提出された論文や発表の内容に基づいて、指導教員が総合評価する。また、卒業論文発表会では多数の専任教員と在学生の前で口頭発表させるため、その完成度が広く認知される。

（生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻）

【体系性】

- ・専門教育科目は「基礎教育科目区分」「入門・概論科目区分」「応用・各論科目区分」「卒業論文」と段階的に配置されている。
- ・管理栄養士学校指定規則に示される「専門基礎分野」の3分野と「専門分野」の8分野は、「基礎教育科目区分」「入門・概論科目区分」「応用・各論科目区分」に適切に配置されている。
- ・「専門基礎分野」には、次の3分野にそれぞれ講義と実験・実習を配置している。
 - 「社会・環境と健康」：3科目の講義と2科目の実習
 - 「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」：7科目の講義と3科目の実験・実習
 - 「食べ物と健康」：5科目の講義と5科目の実験・実習
- ・「専門分野」には、次の8分野にそれぞれ講義と実験・実習を配置している。
 - 「基礎栄養学」：2科目の講義と1科目の実験
 - 「応用栄養学」：3科目の講義と1科目の実習
 - 「栄養教育論」：3科目の講義と1科目の実習
 - 「臨床栄養学」：4科目の講義と2科目の実習

「公衆栄養学」：2科目の講義と1科目の実習

「給食経営管理論」：2科目の講義と1科目の実習

「総合演習」：2科目の演習

「臨地・校外実習」：5科目の学外での実習

- ・ 全学共通科目に関しては、全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに、他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】

- ・ 「基礎教育科目区分」と「応用・各論科目区分」を系統的かつ効率的に学修することで、食と健康に関して科学的根拠に基づいた提案ができる管理栄養士を目指す。
- ・ 初年次教育として、「化学の基礎」「生物の基礎」「情報処理」を選択履修することで基礎力を強化する。
- ・ キャリア教育として1年次から4年次にかけて専攻独自のオリエンテーションを複数回行い、専門職業人としての自覚・意識を涵養する。
- ・ 臨地・校外実習で病院、福祉施設、事業所、保健所・保健センターにおいて管理栄養士業務の実際を経験するとともに、臨地での課題発見・解決に取り組む。
- ・ 「卒業論文」では、学びの集大成として食に関する専門的な研究に取り組む。
- ・ 全学共通科目により、専門分野以外の幅広い知識と教養を身に付け、広い視野と想像力を養うとともに豊かな人間性を涵養する。
- ・ 外国語に関しては、英語運用能力を身に付けるとともに、ドイツ語、フランス語、中国語、ハングルから1言語の基礎知識を修得する。
- ・ 本専攻卒業により、管理栄養士国家試験受験資格が得られるとともに、栄養士免許、食品衛生監視員（任用資格）、食品衛生管理者（任用資格）を取得することができる。また、栄養教諭一種免許状の課程を設置している。

【教育方法】

- ・ 受講内容を概観し、必要な知識を準備させるため、また受講で得た知識を定着させるために、シラバスに基づいて教科書・ノート又は本学のWebによる学習支援システム（愛称：マナビー）を利用して、授業内容を予習・復習させる。
- ・ 授業では、教員から学生に問いかけ、学生間の議論を誘導するなど、アクティブ・ラーニングの要素も取り入れて授業を活性化させ、修得した知識や意見の発信力や検証力を育てる。
- ・ 小テストやノート提出、レポート提出などを行うことで復習効果を高め、習得度を確認する。
- ・ 少人数クラスの実験・実習を実施し、机上の知識にとどまらず専門知識の理解を深め、実践的な技術を学修させる。得られた結果を分析・考察・まとめさせる過程で分析力や思考力を、レポート提出や口頭発表を課すことで論理的な文章作成やプレゼンテーション能力を育成する。また、このような過程を通して、情報機器や統計手法の活用法にも習熟させる。
- ・ 臨地・校外実習では、学外の施設において当該施設の管理栄養士に直接指導を受け、実践力を育むとともに変化対応力、自己管理能力、自己実現力を養う。そのために、学内で事前・事後指導を行う。
- ・ 「卒業論文」では、履修を希望した学生を各研究室に配属し、担当教員の指導の下、主にグループで食に関わる様々な課題に取り組ませる。一年間の持続的な研究活動により、配属研究室独自の高い技能を学修させるだけでなく、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協同性など、社会人として求められる資質を広く涵養する。得られた最終成果を論文にまとめて指導教員に提出させ、学科主催の卒業論文発表会において専任教員と在学生の前で口頭発表させる。各研究室代表の学生からなる卒論委員会が、教員の指導の下、卒業論文発表会を運営する。これらのことにより、履修生全員に高い目的意識と継続意欲を持たせ、事後の達成感と自信を得させる。

【学修成果の測定方法】

- ・ 講義科目に関しては、積極的な授業参加度、小テスト及び定期試験の結果、さらにレポートやノート提出等を求める場合はそれらの評価結果も合わせて、講義内容の理解・学習達成度を測定する。
- ・ 実験・実習・演習科目に関しては、積極的な参加度、グループワークでの貢献度、レポートなどの提出物及び結果の発表内容に基づいて総合評価する。
- ・ 臨地・校外実習に関しては、実習に取り組む態度や提出した課題内容について当該施設の管理栄養士と密接に連携して、本専攻専任教員により、報告会などを通じて総合的に評価する。
- ・ 「卒業論文」に関しては、研究活動に対する取り組み状況、提出された論文や卒業論文発表会での内容に基づいて、指導教員が総合評価する。また、卒業論文発表会では多数の専任教員と在学生の前で口頭発表させるため、その完成度が広く認知される。
- ・ 4年間の学びの集大成として、管理栄養士国家試験の合格によって、達成度を評価する。

同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力

「DWCLA10」について

■ DWCLA10とは

本学が教育理念の1つとしている**リベラル・アーツ教育**では、幅広い学習を通して広い視野を拓く**教養教育**と深い知識や技能を体系的に身につける**専門教育**に加え、どの分野の学問を専攻する場合にも、また社会のどの分野に進む場合にも必要とされる、**学士としての基礎的・汎用的能力の獲得が重視されます。**

本学ではこれまでリベラル・アーツ教育を実践しこのような基礎的・汎用的能力の涵養に力を注いできましたが、**学生の皆さんにこのことをよりよく理解してもらうために、基礎的・汎用的能力を、わかりやすい言葉で具体的に表現することになりました。**これが「同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力」（略して、本学の英語名称であるDoshisha Women's College of Liberal Arts にちなんで「DWCLA10」）です。

DWCLA10の個々の力は次ページのとおりで、それぞれの力についての説明は、定義ではなく例示となっています。**これらの力は学生の皆さんにとって卒業後の長い人生（キャリア）においてどの分野に進む場合にも共通して必要となるものであり、自立した社会人となるための基礎力となるものです。就職時にも重視される力でもあり、しっかりと身につけてもらいたいと考えています。**

■ DWCLA10のシラバス上での表示について

本学はこのような基礎的・汎用的能力の涵養にも力を注いでいる大学であることを学生の皆さんに知ってもらい、このような力の獲得にさらに自覚的に取り組んでももらいたいと考えています。しかし、これらの基礎的・汎用的能力には、それ自体を教えることやそれ自体を学ぶことが難しいものもあります。その多くは、学問体系を修得していく過程や、課外活動等に真剣に取り組む過程で結果として獲得できるものです。

そこで本学では、個々の授業科目のシラバスの最後に表示される『**獲得が期待される基礎的・汎用的能力DWCLA10**』の欄に、その科目の履修を通して結果として身につけることが期待されるDWCLA10の力のいくつかを示すことになりました。（この10の力以外の基礎的・汎用的能力の獲得が特に期待される授業では、その他の力が記載されている場合もあります。）これによって、**学生の皆さんに、知識や技能の修得のみではなくこのような基礎的・汎用的能力の獲得も重要であること、本学の教育ではそのことが重視されていることを理解してもらい、よりいっそう自覚的に授業に臨む契機としてもらいたいと考えています。**これらの力は、各科目のテーマや課題に真剣に取り組み、壁にぶつかったときに考え工夫し行動しそれを1つ1つ乗り越えることによって身につくものだからです。ただし、1つの科目でDWCLA10の内のいくつかの力が目に見えて身につくというものではありません。これらの力は卒業までに履修するすべての科目の積み重ねによって、あるいは課外活動等をも通して、少しずつ獲得していくことができるものであることを理解してください。授業期間終了後に「シラバスに記載のDWCLA10の能力が身につくような指導はしてもらえなかった」と考えるのは早計であり、そのように考える前に自分自身はその授業にどのように臨んだかを振り返ってもらいたいと考えています。

「この科目の勉強をしていてそれが何になるんだろう」と迷いが生じ興味を失っていくことがときにはあるかも知れませんが、そのようなときには、「獲得した知識は卒業後の人生に直接は役立たないものもあるかも知れないが、その科目の**真剣な学習過程（読書、調査、思考、議論、体験、発表、レポート作成など）を通して得られる基礎的・汎用的能力は、生きていく上での確実な力となる**」ことを理解して積極的な姿勢で授業に取り組んでほしいと考えています。

学生の皆さんが、このようなDWCLA10の取組みの趣旨をよく理解し、自らの将来を切り開く力をしっかりと身につけられることを期待します。

■ アクティブ・ラーニング（能動的学習）とDWCLA10

いかにしてDWCLA10の力を身につけるか。答えの1つはアクティブ・ラーニングにあります。アクティブ・ラーニングとは、知識・技能を無批判に獲得するのではなく、①深く考える、②考えをまとめる、③他者に伝える、④他者と議論しあるいは相互に評価し合う、⑤自らの考えを修正し鍛え直す、などの過程を通して知識・技能を真に自分のものとする能動的な学習のことです。課題に取り組む、調査する、体験する、制作するなどアクティブ・ラーニングです。

これらのアクティブ・ラーニングは、大学での基本的な学習の方法であり、**DWCLA10の獲得に必要不可欠な学習方法です。**主として演習科目、実験・実習科目、ゼミ科目、インターンシップ科目などにおいて多く実践される学習方法ですが、講義科目でも様々な工夫により実践されています。いずれの場合にもアクティブ・ラーニングには、事前の準備学習が大前提になります。そのため、**全科目のシラバスに『準備学習等の内容』という項目が加わっています。**

学生の皆さんはその趣旨を理解し、授業外で十分な準備学習を行って授業に臨み、授業で実施されるアクティブ・ラーニングに積極的に参加するよう心がけてください。そのことにより、学生の皆さんが、深い専門知識・技能、広い教養に加え、基礎的・汎用的能力であるDWCLA10の力をしっかりと獲得されることを期待します。

DWCLA10：同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力

1. 分析力
 - ・情報を収集し分析する力
 - ・現状を分析し目的や課題を明らかにする力
 - ・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する状況把握力
2. 思考力
 - ・自ら考える力
 - ・論理的に思考する能力
3. 創造力
 - ・既存の概念に束縛されない自由な発想力
 - ・既存のものを組み合わせて新たな価値を生み出す力
4. プレゼンテーション力
 - ・自分の意見を分かりやすく伝える発信力
 - ・説得力
5. コミュニケーション力
 - ・世代、国籍、専門を越えた意思疎通・共感力
 - ・外国語能力
 - ・文字、言葉を越えた意思疎通
 - ・相手を尊重した聴く力
 - ・意見の違いや立場の違いを理解する力
6. リーダーシップ
 - ・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力
 - ・目的を設定し確実に実行する力
 - ・他人に働きかけ巻き込む力
 - ・チームで問題解決できるコラボレーション力
7. 思いやる力
 - ・違いを尊重する能力（個人レベル、社会・文化レベル）
 - ・相手の気持ちになって行動する力
8. 変化対応力
 - ・複眼的な広い視野
 - ・社会的変化、自己を取り巻く環境変化への対応力
 - ・過去にとらわれない自由な発想力
9. 自己管理能力
 - ・社会のルールや人との約束を守る規律性
 - ・ストレスコントロール力：ストレス発生源に対応する力
 - ・倫理観
10. 自己実現力
 - ・自己の適性を把握し伸ばす力
 - ・社会の未来像と自己の将来像を見通す力
 - ・自己の能力を発揮しつつ社会に貢献しようとする意欲
 - ・生涯学習力

カリキュラム

生活科学部 人間生活学科

（2018年度以降入学生適用）

<人間生活学科とは>

人間生活学科は、「くらし」と「こころ」と「まちづくり」を見つめ直すことを目的とした学科です。21世紀の人間生活は、「情報化時代」、「消費生活時代」と呼ばれる時代状況を経過し、「循環型社会」の創生が期待される今日、従来の時代とは大きく変化してきています。

多様化した人間の生活は従来の「家政学」や「生活学」という枠組みの中だけでは捉えきれず、グローバル化する大きな視野の中で再検討されることが期待されています。

人間生活学科は、そのような世界の動きと連動する生活の中にあって、ライフスタイルを見直し、「くらし・こころ・まちづくり」を追究し、新たなイメージを創造していく学科です。

<どのように学ぶのか>

世界の動きを見つめると、宗教や政治の対立、大規模な人口の移動、異常気象、地殻変動などに見舞われる時代の中で、人々が「幸せ」を分かち合うことは簡単ではなくなってきています。どうすれば私たちが共に暮らすことが出来るのか、そのための「くらし」のイメージと、そのような暮らしを実現してゆける「こころ」のイメージはどうあるべきか、そういう問いが改めて問われてきています。

まず、基礎教育科目において、大学の学び、及び、人間生活学科の学びの基礎づくりを小グループで実践します。入門・概論科目において、衣生活学、食生活学、住生活学を始め、従来の家政学の成果を取り入れつつ、暮らしのイメージ、人間のイメージを深めていきます。

更に、「くらし」、「こころ」、「まちづくり」という3つの系統立てられた科目群の学びを通し、多様化した人間の生活を様々な面から探究していきます。

「くらし」の学びにおいては、「衣・食・住」と呼ばれてきた暮らしに欠く事のできない領域に関する基礎的な学びに加え、「くらし」を横断的、多面的に探究します。様々な視座から、「くらし」の内実を深化させ、新たな「くらし」のイメージを創造します。

「こころ」の学びにおいては、現在の生活の中で、改めて「ひと」や「こころ」を問いながら生活の当事者に関する学びを深めます。家族・親子・子どもを始めとして多様化した課題を、「こころ」という内面や、ひととひととの関係性を中心に幅広くかつ深く探究していきます。

「まちづくり」の学びにおいては、地域が抱える様々な問題を浮きぼりにしながら具体的な解決策を模索します。つまり、「くらし」や「こころ」での学びと関連させ、地域でくらす人々の幸せづくりへの実践的取り組みを目指します。

このような学科の学びは全学的に開講されている共通学芸科目の学び等によって、更に補われ、深められ、「ゼミナール科目（応用演習、卒業論文）」への取り組みを通し、総合的かつ専門的な知が育まれます。

本学科では、人間生活の中にある光や闇の部分、言い換えれば、人の都合によってもたらされた功罪を見据えつつ、「くらし・こころ・まちづくり」を探究していきます。更に、考えた事を具体的実践へと導く技術を備えた「人間」の育成を目指します。そのため、実験や実習に即した学びが求められます。まさに人間生活を総合的に考え、かつ、具体的に創造する「くらしの達人」を育成したいと考えています。

「くらしの達人」を目指す

ひとの生活を統合的に考え、新たな生活のイメージを創造する「くらしの達人」

「くらし」「こころ」「まちづくり」を探究し、考えた事を具体的実践へと導く技術を備えた「人間」の育成を目指します

CURRICULUM / カリキュラム

専門科目

ゼミナール科目

少人数クラスで総合的かつ専門的な知を育む

卒業論文

+

応用演習

3系統の科目群

くらし

こころ

まちづくり

応用・各論科目

時代とともに変化する人間の生活を
様々な面から探究する

入門・概論科目

家政学の成果を取り入れつつ
暮らしのイメージ 人間のイメージを深める

基礎教育科目

大学の学び・学科の学びの基礎づくり

全学科目

共通学芸
科目

キリスト教・
同志社
関連科目

外国語
科目

スポーツ・
健康科目

生活科学部 人間生活学科 科目配置表<2018年度以降入学生>

開講期は年度によって異なることがあります。

	1 年次			2 年次			3 年次			4 年次			卒業必要 単位数
	必修 単位	履修 単位	履修 単位	必修 単位	履修 単位	履修 単位	必修 単位	履修 単位	履修 単位	必修 単位	履修 単位	履修 単位	
基礎教育科目	● 人間生活学基礎演習	2	情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2							2
入門・基礎科目	○ ぐらしの経済学	2	○ 裾野造形論	2									
	○ 衣生活学	2	○ 住生活学	2									
	○ 食生活学	2											
○ 児童学	2		○ いのちと倫理	2			○ 社会心理学 A	2					12
まちづくり		○ まちづくり概論	2				○ 社会福祉学 A	2					
応用・発展科目		裾野製作実習基礎	1	服飾文化史	2	生活経済学	2	服飾材料・縫理学	2	消費者教育論	2		
				住まいづくりの基礎	2	ファッションと社会	2	女性のための法律入門	2	服飾デザイン論	2		
				ぐらしの色彩学	2	住文化史	2	生活美術史	2	空間デザイン応用実習	2		
				生活文化史	2	居住環境学	2	国際生活文化論	2	生活科学実験	1		
				ぐらしのための技術と工芸	2	家庭機械および電気	2	裾野製作実習応用	1	京と女性の住生活	2		
				裾野製作実習（立体構成）	1	インターネットコミュニケーション	2	インテリアデザイン実習	1	食物栄養学	2		
				住居設計基礎実習	1	調理科学実習Ⅰ	1	京の伝統染織論	2				
				調理科学実習Ⅱ	1								
				世界の子どもの心	2	児童文化と伝統	2	ジェンダーの社会心理学	2	死生学	2		40
				音楽社会心理学	2	児童文化と映像	2	家族看護学	2	情報社会心理学	2		
				生活健康学	2	親子関係の心理学	2	ファミリーセラピー	2	女性のためのカウンセリング入門	2		
				子ども心理学	2	現代青年の心理と行動	2	保育学実習	1	女性のための生涯発達論	2		
						介護概論	2			女性のためのライフプランニング	2		
まちづくり				空間情報学	2	環境教育論	2	ボランティア・NPO活動論	2	ユニバーサルデザイン論	2		
				世界の社会福祉	2	児童福祉論	2	環境生態学	2	景観デザイン学	2		
				地域計画学演習	2	居住計画学	2						
				都市空間論	2	安全・安心のまちづくり	2						
				地域運動論	2	経済と環境	2						
キャリアデザイン						コミュニケーション心理学	2	インターンシップⅡ	2	インターンシップⅡ	通年		
共通学芸科目	共通学芸選択科目		[共通学芸選択科目]										
	他学芸科目		[他学芸科目]										
キリスト教・同窓社関係科目	● 聖書 A	2	● 聖書 B	2									10
	○ キリスト教・同窓社関係選択必修科目		[キリスト教・同窓社関係選択必修科目]										
外国語科目	● 英語講座Ⅰ A	1	● 英語講座Ⅰ B	1	● 英語講座Ⅱ A	1	● 英語講座Ⅱ B	1					6
	● 英語コミュニケーションⅠ A	1	● 英語コミュニケーションⅠ B	1	● 英語コミュニケーションⅡ A	1	● 英語コミュニケーションⅡ B	1					
	● 英語コミュニケーションⅡ A	1	● 英語コミュニケーションⅡ B	1	● 英語コミュニケーションⅢ A	1	● 英語コミュニケーションⅢ B	1					
	● Comprehensive EnglishⅠ	1	● Comprehensive EnglishⅡ	1	● Comprehensive EnglishⅢ	1	● Comprehensive EnglishⅣ	1					
	● Comprehensive EnglishⅢ	1	● Comprehensive EnglishⅣ	1	● Communication in EnglishⅢ	1	● Communication in EnglishⅣ	1					12
	● Communication in EnglishⅠ	1	● Communication in EnglishⅡ	1	● Communication in EnglishⅢ	1	● Communication in EnglishⅣ	1					
	○ フランス語、○ ドイツ語、○ 中国語、○ ハンガリー語、○ スペイン語		[フランス語、ドイツ語、中国語、ハンガリー語、スペイン語]										
スポーツ・健康科目	○ スポーツ・健康選択必修科目		[スポーツ・健康選択必修科目]										2
ゼミナール科目													
区分外	* 上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えた単位、他大学単位互換科目の単位等												12
合計													28
													124

<凡例>
1. 必修・選択の●は必修を、○又はA、B、C、などは、選択必修グループを表す。
2. 共通学芸科目、キリスト教・同窓社関係科目、外国語科目、スポーツ・健康科目については、カリキュラム表を参照。
3. [] 内の科目は、再掲。

※ 網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

生活科学部 人間生活学科 卒業必要単位（2018年度以降入学生適用）						
科目区分	1 年次		2 年次	3 年次	4 年次	卒業必要 最低単位
基礎教育科目	必修 2 単位					2 単位
入門・概論科目	選択必修 12単位					12単位
応用・各論科目						40単位
共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。					10単位
キリスト教・同志社関係科目	必修 4 単位					6 単位
	選択必修 2 単位					
外国語科目	必修 4 単位		必修 4 単位			12単位
	選択必修 4 単位					
スポーツ・健康科目	選択必修 2 単位					2 単位
ゼミナール科目				必修 4 単位	必修 8 単位	12単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						96単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位を超えた単位、他大学単位互換科目の単位等）						28単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞ 各科目区分ごとに、上記の要件に従い履修すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また、科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないで注意すること。
いずれの科目区分においても、選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞ 最低28単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次の通り。
1. 各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位 (オーバー単位)
2. 同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3. 金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4. 大学コンソーシアム互換科目の履修により修得した単位
5. 奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6. 放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞ 総計124単位以上
注) 自由選択科目は、卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞ 年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし、以下の科目は含まない。
1. 他大学等の単位互換科目
2. 文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3. 教職に関する科目 (共通学芸科目区分に置かれている科目を除く)
4. 自由選択科目
5. 次の科目

京都の文化に触れる A	海外事情 (アメリカ)	メディア創造系海外事情 A	インターンシップ
京都の文化に触れる B	海外事情 (イギリス)	メディア創造系海外事情 B	インターンシップ I A
京都の文化に触れる C	海外事情 (ニュージーランド)	海外事情 (アジアと女性)	インターンシップ I B
京都の文化に触れる D	海外事情 (中国)	海外こども事情 A	インターンシップ II
京都の文化に触れる E	海外事情 (カナダ)	海外こども事情 B	
近代日本と同志社 D			

生活科学部 人間生活学科 カリキュラム表（2018年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
人間生活学基礎演習	2	春2	1	必修	
選択					
情報処理Ⅰ	2	秋2	1	選択	
情報処理Ⅱ	2	春2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
選択必修					
くらし				選択必修 12単位 以上	
くらしの経済学	2	半2	1		
衣生活学	2	半2	1		
食生活学	2	半2	1		
住生活学	2	半2	1		
被服造形論	2	半2	1		
こころ				選択必修 12単位 以上	
児童学	2	半2	1		
いのちと倫理	2	半2	2		
社会心理学	2	半2	2		
まちづくり				選択必修 12単位 以上	
まちづくり概論	2	半2	1		
社会福祉学A	2	半2	2		

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低40単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
くらし					
生活経営学	2	半2	2	選択	
服飾文化史	2	半2	2	選択	
ファッションと社会	2	半2	2	選択	
生活文化史	2	半2	2	選択	
住文化史	2	半2	2	選択	
居住環境学	2	半2	2	選択	
住まいづくりの基礎	2	半2	2	選択	
インテリアデザイン論	2	半2	2	選択	
くらしの色彩学	2	半2	2	選択	
くらしのための技術と工芸	2	半2	2	選択	
家庭機械および電気	2	半2	2	選択	
インターネットコミュニケーション	2	半2	2	選択	
消費者教育論	2	半2	3	選択	欠講
服飾材料・整理学	2	半2	3	選択	
服飾デザイン論	2	半2	3	選択	
京の伝統染織論	2	半2	3	選択	
京と女性の住生活	2	半2	3	選択	
女性のための法律入門	2	半2	3	選択	欠講
生活美術史	2	半2	3	選択	
国際生活文化論	2	半2	3	選択	
食物栄養学	2	半2	3	選択	
被服製作実習基礎	1	秋2	1	選択	
被服製作実習（立体構成）	1	春2	2	選択	
被服製作実習（平面構成）	1	秋2	2	選択	
テキスタイルデザイン実習	1	半2	2	選択	
住居製図基礎実習	1	春2	2	選択	
住居デザイン実習	1	秋2	2	選択	
調理科学実習Ⅰ	1	春3	2	選択	
調理科学実習Ⅱ	1	秋3	2	選択	
被服製作実習応用	1	春2	3	選択	
インテリアデザイン実習	1	春2	3	選択	
空間デザイン応用実習	1	秋2	3	選択	
生活科学実験	1	半2	3	選択	
こころ					
世界の子どもたち	2	半2	2	選択	
児童文化と伝統	2	半2	2	選択	
児童文化と映像	2	半2	2	選択	
子ども心理学	2	半2	2	選択	
親子関係の心理学	2	半2	2	選択	
現代青年の心理と行動	2	半2	2	選択	
音楽社会心理学	2	半2	2	選択	
生活健康学	2	半2	2	選択	
介護概論	2	半2	2	選択	
死生学	2	半2	3	選択	
ジェンダーの社会心理学	2	半2	3	選択	
情報社会心理学	2	半2	3	選択	
女性のためのカウンセリング入門	2	半2	3	選択	
女性のための生涯発達論	2	半2	3	選択	
女性のためのライフプランニング	2	半2	3	選択	
家庭看護学	2	半2	3	選択	
ファミリーセラピー	2	半2	3	選択	
保育学実習	1	半2	3	選択	
まちづくり					
児童福祉論	2	半2	2	選択	
世界の社会福祉	2	半2	2	選択	
環境教育論	2	半2	2	選択	
経済と環境	2	半2	2	選択	
空間情報学	2	半2	2	選択	
居住計画学	2	半2	2	選択	
都市空間論	2	半2	2	選択	
地域遺産論	2	半2	2	選択	
安全・安心のまちづくり	2	半2	2	選択	
コミュニティ社会心理学	2	半2	2	選択	
環境生態学	2	半2	3	選択	
景観デザイン学	2	半2	3	選択	
ユニバーサルデザイン論	2	半2	3	選択	
ボランティア・NPO活動論	2	半2	3	選択	
地域計画学演習	2	半2	2	選択	
キャリアデザイン					
キャリア心理学	2	半2	2	選択	
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

1. 以下の授業科目について、履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
調理科学実習Ⅱ	「調理科学実習Ⅰ」を履修済のこと。
住居デザイン実習	「住居製図基礎実習」を履修済のこと。
インテリアデザイン実習	「住居製図基礎実習」を履修済のこと。
空間デザイン応用実習	「住居製図基礎実習」と「住居デザイン実習」の単位を修得済であること。
被服製作実習（立体構成）	「被服製作実習基礎」を履修済のこと。
被服製作実習（平面構成）	「被服製作実習基礎」又は「被服製作実習基礎Ⅰ」（食物科学専攻科目）を履修済のこと。
被服製作実習応用	・「被服製作実習基礎」の単位を修得済であること。 ・「被服製作実習（立体構成）」又は「被服製作実習（平面構成）」の単位を修得済であること。

2. 「保育学実習」

教職課程履修者以外は履修できない。

3. 「インターンシップⅡ」

選考に合格した学生のみ履修できる。

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学 A	2	半2	1		
哲学 B	2	半2	1		
西洋の思想 A	2	半2	1		
西洋の思想 B	2	半2	1		
日本の思想 A	2	半2	1		
日本の思想 B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学 A	2	半2	1		
心理学 B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論 A	2	半2	1		
国際関係論 B	2	半2	1		
国際社会と経済 A	2	半2	1		
国際社会と経済 B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会 A	2	半2	1		
人間と社会 B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論 A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論 B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性 A	2	半2	1		
外国文学と女性 B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化 A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化 B	2	半2	1		
中国文化研究 A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究 B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化 A	2	半2	1		
日本の歴史と文化 B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学 A
文化人類学 B	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究 A	2	半2	1		
アメリカ地域研究 B	2	半2	1		
アジア地域研究 A	2	半2	1		
アジア地域研究 B	2	半2	1		
日本古典芸能 A	2	半2	1		
日本古典芸能 B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化 A	2	半2	1		
京都の文化 B	2	半2	1		
京都の文化 C	2	半2	1		
京都の文化 D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れる A	2	半2	2		
京都の文化に触れる B	2	半2	2		
京都の文化に触れる C	2	半2	2		
京都の文化に触れる D	2	半2	2		
京都の文化に触れる E	2	半2	2		
京都の歴史 A	2	半2	1		
京都の歴史 B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2		
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠ A	1	通1	2		
インターンシップⅠ B	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の頁を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示されている科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠ A, Ⅰ B」
選考は 4 月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れる A～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3 月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約 3～4 週間の海外での研修が含まれる。
選考は 5 月(夏期)、10 月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5 月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ, Ⅱ, Ⅲ」
「Ⅰ」は 1 年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は 2 年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低6単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書 A	2	春2	1	必修	
聖書 B	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史 A	2	半2	1	選択必修 2単位 以上	
キリスト教の歴史 B	2	半2	1		
キリスト教の歴史 C	2	半2	1		
キリスト教文化論 A	2	半2	1		
キリスト教文化論 B	2	半2	1		
キリスト教文化論 C	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 A	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 B	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 A	2	半2	1		
近代日本と同志社 B	2	半2	1		
近代日本と同志社 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 D	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については、年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
英語（2018年度以降入学生適用）					
英語講読Ⅰ A	1	春2	1	必修	読替
英語講読Ⅰ B	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠ A	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠ B	1	秋2	1	必修	読替
英語講読Ⅱ A	1	春2	2	必修	読替
英語講読Ⅱ B	1	秋2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡ A	1	春2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡ B	1	秋2	2	必修	読替
英語（2019年度以降入学生適用）					
Comprehensive EnglishⅠ	1	春2	1	必修	
Comprehensive EnglishⅡ	1	秋2	1	必修	
Communication in EnglishⅠ	1	春2	1	必修	
Communication in EnglishⅡ	1	秋2	1	必修	
Comprehensive EnglishⅢ	1	春2	2	必修	
Comprehensive EnglishⅣ	1	秋2	2	必修	
Communication in EnglishⅢ	1	春2	2	必修	
Communication in EnglishⅣ	1	秋2	2	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級中国語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級中国語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学Ⅰ	2			選択	
フランス語学Ⅱ	2			選択	
フランス語学Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学Ⅲ	2			選択	
イタリア語学Ⅰ	2			選択	
イタリア語学Ⅱ	2			選択	
イタリア語学Ⅲ	2			選択	
中国語学Ⅰ	2			選択	
中国語学Ⅱ	2			選択	
中国語学Ⅲ	2			選択	
ハングル学Ⅰ	2			選択	
ハングル学Ⅱ	2			選択	
ハングル学Ⅲ	2			選択	
スペイン語学Ⅰ	2			選択	
スペイン語学Ⅱ	2			選択	
スペイン語学Ⅲ	2			選択	
セメスター語留学のための単位授与科目					
Study Abroad : EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1. 選択必修の履修方法

- 指定された選択必修の言語の中より、1つの言語4単位を選択必修。「1つの言語4単位」とは、1種類の言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得することをいう。
 - 選択必修としての外国語は、1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は、2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。
 - 選択必修としての外国語は、卒業までの間に変更することができるが、この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得しなければならない。
- ※初級中国語の履修方法について
「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週2回授業）を履修すること。

2. 選択の履修方法

- 2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合、クラスの指定はない。
- 選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

- 選択科目は中級から履修を始めることもできる。また、1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。
- 京田辺キャンパスで開講されるラビート科目を選択科目として履修することができる。
ラビート科目の履修には前年度秋学期の適性検査と予備登録が必要。
- 選択科目として修得した単位は、外国語科目のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入される。

3. 全般事項

- 1, 2年次の英語必修科目は、習熟度別クラス編成になっているので、指定されたクラスを履修すること。なお、再履修となる場合、クラスの指定はない。
- 特定の言語に履修希望者が集中した場合、希望する言語を履修できないことがある。
- 他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
- 「Study Abroad: English I～VII」は、国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については、カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive EnglishⅠ
英語講読ⅠB	1	Comprehensive EnglishⅡ
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in EnglishⅠ
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in EnglishⅡ
英語講読ⅡA	1	Comprehensive EnglishⅢ
英語講読ⅡB	1	Comprehensive EnglishⅣ
英語コミュニケーションⅡA	1	Communication in EnglishⅢ
英語コミュニケーションⅡB	1	Communication in EnglishⅣ

読替措置は、カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し、対応する新科目の授業に出席することにより、旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが、授業実態は新科目である。試験やレポート、掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生 必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

- ここにいう「外国人留学生」とは、外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
- 外国人留学生は、「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」4単位を必修とする。
- 外国人留学生の場合は、外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし、英語の必修8単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし、他の外国語科目を履修した場合は、外国語科目区分のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入することができる。不足する8単位分については、区分外領域で充足しなければならない。したがって、区分外領域は、28単位＋8単位＝36単位修得しなければならない。
- 「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」は、外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修 2単位 以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入される。

個別の授業科目に関する注意

- 「体育実技A、B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

ゼミナール科目（12単位）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業論文	8	通4	4	必修	

履修上の注意

- ゼミナール科目はすべて必修である。
- 3年次の「応用演習Ⅰ・Ⅱ」に連動して4年次に「卒業論文」を履修する。
- 「卒業論文」は卒業論文発表会でその要旨を各人が口頭で発表しなければならない。
- 「卒業論文」は指導教員に提出するものとする。

カリキュラム

生活科学部 人間生活学科

(2015～2017年度入学生適用)

カリキュラム

生活科学部

人間生活学科

(2015～2017年度入学生適用)

<人間生活学科とは>

人間生活学科は、「ひと」と「くらし」と「環境」を見つめ直すことを目的とした学科です。21世紀の人間生活は、「情報化時代」、「消費生活時代」と呼ばれる時代状況を経過し、「循環型社会」の創生が期待される今日、従来の時代とは大きく変化してきています。

多様化した人間の生活は従来の「家政学」や「生活学」という枠組みの中だけでは捉えきれず、グローバル化する大きな視野の中で再検討されることが期待されています。

人間生活学科は、そのような世界の動きと連動する生活の中にあって、ライフスタイルを見直し、「ひと・くらし・環境」を追究し、新たなイメージを創造していく学科です。

<どのように学ぶのか>

世界の動きを見つめると、宗教や政治の対立、大規模な人口の移動、異常気象、地殻変動などに見舞われる時代の中で、人々が「幸せ」を分かち合うことは簡単ではなくなっています。どうすれば私たちが共に暮らすことが出来るのか、そのための「くらし」のイメージと、そのような暮らしを実現してゆける「ひと」のイメージはどうあるべきか、そういう問いが改めて問われてきています。

まず、基礎教育科目において、大学の学び、及び、人間生活学科の学びの基礎づくりを小グループで実践します。入門・概論科目において、衣生活学、食生活学、住生活学を始め、従来の家政学の成果を取り入れつつ、暮らしのイメージ、人間のイメージを深めていきます。

更に、「ひと」、「くらし」、「環境」という3つの系統立てられた科目群の学びを通し、多様化した人間の生活を様々な面から探究していきます。

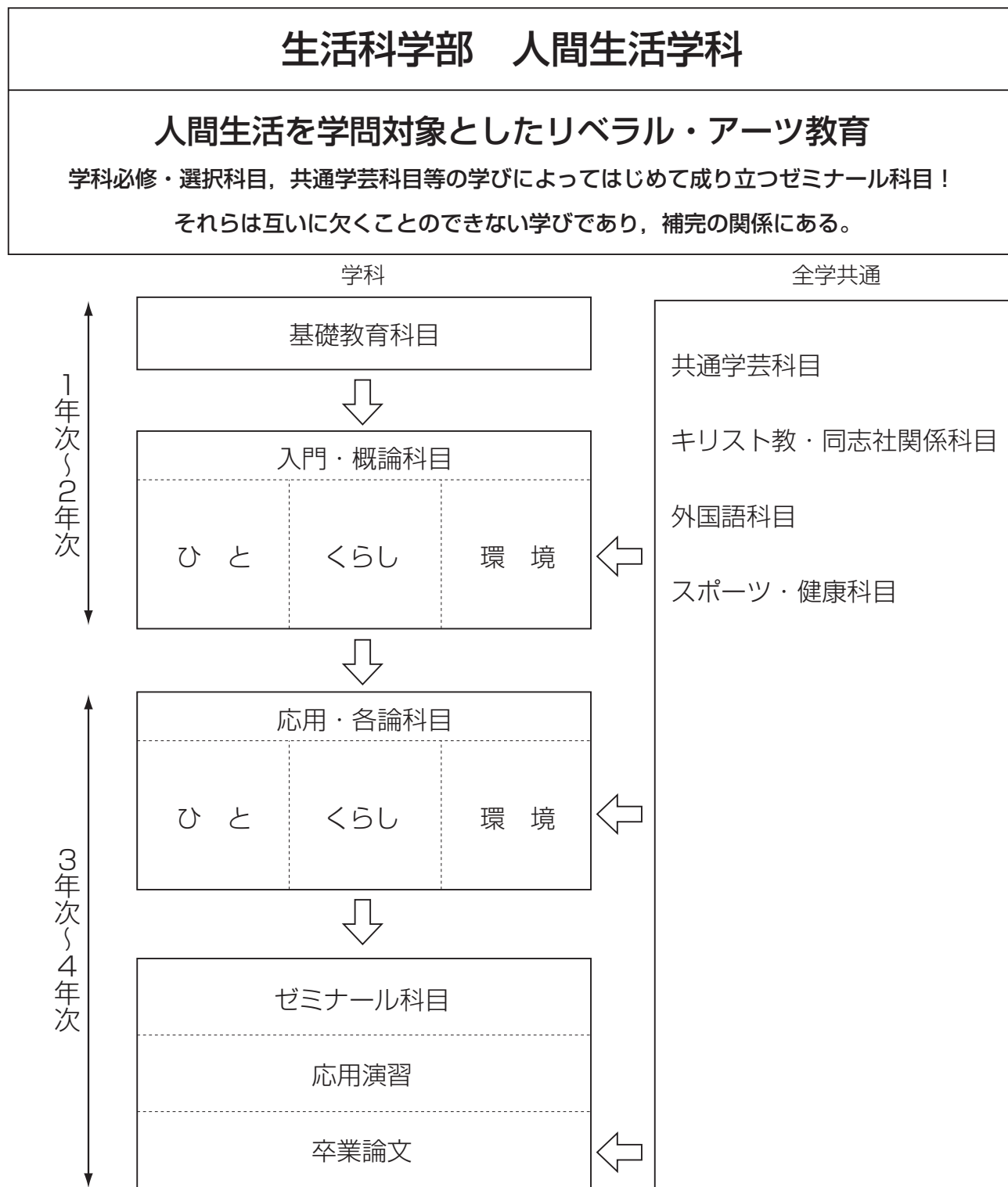
「ひと」の学びにおいては、現在の生活の中で、改めて「ひと」を問いながら生活の当事者に関する学びを深めます。家族・親子・子どもを始めとする多様化した「ひと」の課題を、「ひと」自身、「ひと」のこころ、「ひと」の関係性に注目しつつ幅広くかつ深く探究していきます。

「くらし」の学びにおいては、「衣・食・住」と呼ばれてきた暮らしに欠く事のできない領域に関する基礎的な学びに加え、「くらし」を横断的、多面的に探究します。様々な視座から、「くらし」の内実を深化させ、新たな「くらし」のイメージを創造します。

「環境」の学びにおいては、社会的な仕組や自然的環境とクロスする生活の課題を新たな文脈の中での「環境の課題」と捉え、探究します。生活環境、居住環境、社会環境、更には、地球環境へと視野を広げた学びを通し、生活者の「周り」の課題を幅広くかつ深く追究していきます。

このような学科の学びは全学的に開講されている共通学芸科目の学び等によって、更に補われ、深められ、「ゼミナール科目（応用演習、卒業論文）」への取り組みを通し、総合的かつ専門的な知が育まれます。

本学科では、人間生活の中にある光や闇の部分、言い換えれば、人の都合によってもたらされた功罪を見据えつつ、「ひと・くらし・環境」を探究していきます。更に、考えた事を具体的実践へと導く技術を備えた「人間」の育成を目指します。そのため、実験や実習に即した学びが求められます。まさに人間生活を総合的に考え、かつ、具体的に創造する「くらしの達人」を育成したいと考えています。



くらしの達人を目指すには？

時代とともに変わる豊かに生きるための知識や技術を持ち、家庭から社会、地球環境までを深く見つけ、自律的に行動できるようになることです！

生活科学部 人間生活学科 科目配置表<2015～2017年度入学生>

開講期は年度によって異なることがあります。

	1 年次			2 年次			3 年次			4 年次		
	必 選	春学期	秋学期	必 選	春学期	秋学期	必 選	春学期	秋学期	必 選	春学期	秋学期
基礎教育科目	● 人間生活学基礎演習		情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ							2
人間・環境科目	● 児童学		社会心理学	2								
	● 食生活学		食生活学	2								
くらし	● 衣生活学		住生活学	2								
			生活と環境	2								
環境			社会福祉学 A	2								
ひと			いのちと倫理	2	児童文化と映像	2	保育学実習	1	女性のためのカウンセリング入門	2		
			世界の子どもたち	2	児童文化と伝統	2	ジェンダーの社会心理学	2	情報社会心理学	2		
くらし			生活福祉学	2	現代青年の心理と行動	2	ファミリーセラピー	2	女性のためのライフプランニング	2		
			音楽社会心理学	2	介護概論	2	家庭看護学	2	死生学	2		
環境			子ども心理学	2	コミュニケーション心理学	2	親子関係の心理学	2	女性のための生涯発達論	2		
ひと												
くらし			服飾文化史	1	服飾情報論	2	国際生活文化論	2	消費者教育論	2		
			被服製作実習基礎		生活経営学	2	服飾材料・整理学	2	服飾デザイン論	2		
くらし			調理科学実習Ⅰ	1	消費者問題論 (廃止)	2	インテリアデザイン実習	1	京と女性の住生活	2		
			流通経済と消費 (廃止)	2	被服製作実習 (平面構成)	1	衣生活学実験 (廃止)	1	空間デザイン応用実習	1		
くらし			くらしのための技術と工芸	2	調理科学実習Ⅱ	2	生活美術史	2	食物栄養学	2		
			生活文化史	2	住文化史	2	被服製作実習応用	1				
くらし			住居環境基礎実習	1	居住計画学	2	京の伝統染織論	2				
					ファッションと社会	2						
くらし					インテリアデザイン論	2						
					テキスタイルデザイン実習Ⅰ	1						
くらし			くらしの色彩学	2	居住環境学	2	ボランティア・NPO活動論	2	景观デザイン学	2		
			世界の社会福祉	2	児童福祉論	2	環境生化学	2	生活科学実験	1		
くらし			自然環境論 (廃止)	2	環境教育論	2	女性のための法律入門	2	ユニバーサルデザイン論	2		
			住まいづくりの基礎	2	家庭機械および電気	2						
くらし			空間情報学	2	安全・安心のまちづくり	2						
			地域計画学演習	2	インターネットコミュニケーション	2						
くらし			都市空間論	2	経済と環境	2						
			地域環境論	2								
キャリアデザイン					キャリア心理学	2	インターンシップⅡ	2	インターンシップⅡ	通年		
共通学芸科目	共通学芸選択科目		[共通学芸選択科目]									
	他学芸科目		[他学芸科目]									
共通学芸科目	聖書 A	2	聖書 B	2								
	○ キリスト教・同志社関係選択必修科目		[キリスト教・同志社関係選択必修科目]									
外国語科目	● 英語講義Ⅰ A	1	● 英語講義Ⅰ B	1	● 英語講義Ⅱ A	1	● 英語講義Ⅱ B	1				
	● 英語コミュニケーションⅠ A	1	● 英語コミュニケーションⅠ B	1	● 英語コミュニケーションⅡ A	1	● 英語コミュニケーションⅡ B	1				
スポーツ・健康科目	○ フランス語、○ドイツ語、○中国語、○ハンガリー語、イタリア語、スペイン語											
	○ スポーツ・健康選択必修科目		[スポーツ・健康選択必修科目]									
ゼミナール科目												
区分外	* 上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位、他大学単位互換科目の単位等											
合計												

※ 網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

<凡例>
 1. 必・選欄の●は必修を、○又はA、B、C、などは、選択必修グループを表す。
 2. 共通学芸科目、キリスト教・同志社関係科目、外国語科目、スポーツ・健康科目については、カリキュラム表を参照。
 3. [] 内の科目は、再掲。

生活科学部 人間生活学科 卒業必要単位（2015～2017年度入学生適用）					
科目区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業必要 最低単位
基礎教育科目	必修 2 単位				2 単位
入門・概論科目	必修 16単位				16単位
応用・各論科目	必修 4 単位 必修 4 単位を含め、最低42単位以上修得すること。				42単位
共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				20単位
キリスト教・同志社関係科目	必修 4 単位 選択必修 2 単位				6 単位
外国語科目	必修 4 単位 選択必修 4 単位	必修 4 単位			12単位
スポーツ・健康科目	選択必修 2 単位				2 単位
ゼミナール科目			必修 4 単位	必修 8 単位	12単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計					112単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位、他大学単位互換科目の単位等）					12単位
卒業に必要な単位					124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞ 各科目区分ごとに、上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また、科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないで注意すること。
いずれの科目区分においても、選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞ 最低12単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1. 各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位 (オーバー単位)
2. 同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3. 金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4. 大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5. 奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6. 放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞ 総計124単位以上
注) 自由選択科目は、卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞ 年間49単位。1 学期間の上限は28単位。
ただし、以下の科目は含まない。
1. 他大学等の単位互換科目
2. 文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3. 教職に関する科目 (共通学芸科目区分に置かれている科目を除く)
4. 自由選択科目
5. 次の科目

京都の文化に触れる A	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情 A	インターンシップ
京都の文化に触れる B	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情 B	インターンシップ I A
京都の文化に触れる C	海外事情(ニュージーランド)	海外事情 (アジアと女性)	インターンシップ I B
京都の文化に触れる D	海外事情(中国)	海外こども事情 A	インターンシップ II
京都の文化に触れる E	海外事情(カナダ)	海外こども事情 B	
近代日本と同志社 D			

生活科学部 人間生活学科 カリキュラム表（2015～2017年度入学生適用）

基礎教育科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
人間生活学基礎演習	2	春2	1	必修	
選択					
情報処理Ⅰ	2	秋2	1	選択	
情報処理Ⅱ	2	春2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（16単位）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
ひと					
児童学	2	半2	1	必修	
社会心理学	2	半2	1	必修	
くらし					
衣生活学	2	半2	1	必修	
食生活学	2	半2	1	必修	
住生活学	2	半2	1	必修	
くらしの経済学	2	半2	1	必修	
環境					
生活と環境	2	半2	1	必修	読替
社会福祉学A	2	半2	1	必修	

履修上の注意

入門・概論科目はすべて必修である。

読替措置について

以下の授業科目については、カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の揭示）
生活と環境	2	まちづくり概論

読替措置は、カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し、対応する新科目の授業に出席することにより、旧科目の単位を修得するための措置である。

登録は旧科目で行うが、授業実態は新科目である。試験やレポート、揭示等はすべて新科目で行われるので注意すること。

成績は旧科目で記録される。

応用・各論科目 (最低42単位以上)

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考	旧科目
ひと						
いのちと倫理	2	半2	2	必修		
世界の子どもたち	2	半2	2	選択		
児童文化と伝統	2	半2	2	選択		
児童文化と映像	2	半2	2	選択		
コミュニティ社会心理学	2	半2	2	選択	変更	対人関係心理学
子ども心理学	2	半2	2	選択		
親子関係の心理学	2	半2	2	選択		
現代青年の心理と行動	2	半2	2	選択		
生活健康学	2	半2	2	選択		
介護概論	2	半2	2	選択		
音楽社会心理学	2	半2	2	選択		
死生学	2	半2	3	選択		
家庭看護学	2	半2	3	選択		
保育学実習	1	半2	3	選択		
女性のためのカウンセリング入門	2	半2	3	選択	変更	青年と社会
ジェンダーの社会心理学	2	半2	3	選択		
情報社会心理学	2	半2	3	選択		
ファミリーセラピー	2	半2	3	選択		
女性のための生涯発達論	2	半2	3	選択	変更	こころと生活
女性のためのライフプランニング	2	半2	3	選択	変更	ライフプランニング
くらし						
服装情報論	2	半2	2	必修	読替	
被服製作実習基礎	1	秋2	1	選択		
服飾文化史	2	半2	2	選択		
生活文化史	2	半2	2	選択		
流通経済と消費	2	半2	2	選択	廃止	
生活経営学	2	半2	2	選択		
消費者問題論	2	半2	2	選択	廃止	
住文化史	2	半2	2	選択		
被服製作実習(立体構成)	1	春2	2	選択		
被服製作実習(平面構成)	1	秋2	2	選択		
調理科学実習Ⅰ	1	春3	2	選択		
調理科学実習Ⅱ	1	秋3	2	選択		
くらしのための技術と工芸	2	半2	2	選択	変更 履修年次変更	生活様式と住空間
インテリアデザイン論	2	半2	2	選択		
ファッションと社会	2	半2	2	選択		
テキスタイルデザイン実習	1	半2	2	選択	変更	染色デザイン実習
住居製図基礎実習	1	春2	2	選択		
住居デザイン実習	1	秋2	2	選択		
食物栄養学	2	半2	3	選択		
消費者教育論	2	半2	3	選択	欠講	
国際生活文化論	2	半2	3	選択		
服飾材料・整理学	2	半2	3	選択		
服飾デザイン論	2	半2	3	選択		
京の伝統染織論	2	半2	3	選択		
京と女性の住生活	2	半2	3	選択	履修年次変更・変更	京と女性の住生活史
生活美術史	2	半2	3	選択		
衣生活学実験	1	半2	3	選択	廃止	
被服製作実習応用	1	春2	3	選択		
インテリアデザイン実習	1	春2	3	選択		
空間デザイン応用実習	1	秋2	3	選択		
環境						
くらしの色彩学	2	半2	2	選択	変更	色彩環境論
居住環境学	2	半2	2	選択		
自然環境論	2	半2	2	選択	廃止	
経済と環境	2	半2	2	選択		
環境教育論	2	半2	2	選択		
世界の社会福祉	2	半2	2	選択		
児童福祉論	2	半2	2	選択	変更	子ども家庭危機支援論
家庭機械および電気	2	半2	2	選択		
住まいづくりの基礎	2	半2	2	選択		
安全・安心のまちづくり	2	半2	2	選択	変更	住まいの安全工学
インターネットコミュニケーション	2	半2	2	選択		
空間情報学	2	半2	2	選択		
地域計画学演習	2	半2	2	選択		
都市空間論	2	半2	2	選択		
地域遺産論	2	半2	2	選択		
景観デザイン学	2	半2	3	選択	変更	環境政策学
環境生態学	2	半2	3	選択		
ボランティア・NPO活動論	2	半2	3	選択		
女性のための法律入門	2	半2	3	選択	類・欠	生活と法
生活科学実験	1	半2	3	選択		
ユニバーサルデザイン論	2	半2	3	選択		
キャリアデザイン						
キャリア心理学	2	半2	2	選択		
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講	

履修上の注意

必修4単位を含め、最低42単位以上修得すること。
最低修得単位数を超えて修得した選択科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

1. 以下の授業科目について、履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
調理科学実習Ⅱ	「調理科学実習Ⅰ」を履修済のこと。
住居デザイン実習	「住居製図基礎実習」を履修済のこと。
インテリアデザイン実習	「住居製図基礎実習」を履修済のこと。
空間デザイン応用実習	「住居製図基礎実習」と「住居デザイン実習」の単位を修得済であること。
被服製作実習(立体構成)	「被服製作実習基礎」を履修済のこと。
被服製作実習(平面構成)	「被服製作実習基礎」又は「被服製作実習基礎Ⅰ」(食物科学専攻科目)を履修済のこと。
被服製作実習応用	・「被服製作実習基礎」の単位を修得済であること。 ・「被服製作実習(立体構成)」又は「被服製作実習(平面構成)」の単位を修得済であること。

2. 「保育学実習」
教職課程履修者以外は履修できない。
3. 「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

読替措置について

以下の授業科目については、カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名(旧科目)	単位	新科目(授業実態・休講等の揭示)
服装情報論	2	被服造形論

読替措置は、カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し、対応する新科目の授業に出席することにより、旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが、授業実態は新科目である。試験やレポート、揭示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合、単位は当該科目区分において有効。

共通学芸科目（最低20単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学A
文化人類学B	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の真を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示されている科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目 (最低 6 単位以上)

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書 A	2	春2	1	必修	
聖書 B	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史 A	2	半2	1	選択必修 2単位 以上	
キリスト教の歴史 B	2	半2	1		
キリスト教の歴史 C	2	半2	1		
キリスト教文化論 A	2	半2	1		
キリスト教文化論 B	2	半2	1		
キリスト教文化論 C	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 A	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 B	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 A	2	半2	1		
近代日本と同志社 B	2	半2	1		
近代日本と同志社 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 D	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については、年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目 (最低12単位以上)

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
英語					
英語講読 I A	1	春2	1	必修	読替
英語講読 I B	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーション I A	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーション I B	1	秋2	1	必修	読替
英語講読 II A	1	春2	2	必修	読替
英語講読 II B	1	秋2	2	必修	読替
英語コミュニケーション II A	1	春2	2	必修	読替
英語コミュニケーション II B	1	秋2	2	必修	読替
フランス語					
初級フランス語基礎 I	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級フランス語基礎 II	1	秋2	1		
初級フランス語演習 I	1	春2	1		
初級フランス語演習 II	1	秋2	1		
中級フランス語 I	1	春2	2	選択	
中級フランス語 II	1	秋2	2	選択	
上級フランス語 I	1	春2	3	選択	
上級フランス語 II	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎 I	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ドイツ語基礎 II	1	秋2	1		
初級ドイツ語演習 I	1	春2	1		
初級ドイツ語演習 II	1	秋2	1		
中級ドイツ語 I	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語 II	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語 I	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語 II	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修 4単位	
初級中国語演習	2	秋4	1		
中級中国語 I	1	春2	2	選択	
中級中国語 II	1	秋2	2	選択	
上級中国語 I	1	春2	3	選択	
上級中国語 II	1	秋2	3	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎 I	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ハングル基礎 II	1	秋2	1		
初級ハングル演習 I	1	春2	1		
初級ハングル演習 II	1	秋2	1		
中級ハングル I	1	春2	2	選択	
中級ハングル II	1	秋2	2	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎 I	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎 II	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習 I	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習 II	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語 I	1	春2	2	選択	
中級イタリア語 II	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
スペイン語					
初級スペイン語基礎 I	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎 II	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習 I	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習 II	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語 I	1	春2	2	選択	
中級スペイン語 II	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目 (単位認定の頁を参照)					
TOEFL I	2			選択	
TOEFL II	2			選択	
TOEFL III	2			選択	
TOEIC I	2			選択	
TOEIC II	2			選択	
TOEIC III	2			選択	
英語検定 I	2			選択	
英語検定 II	4			選択	
IELTS I	2			選択	
IELTS II	2			選択	
IELTS III	2			選択	
フランス語学修 I	2			選択	
フランス語学修 II	2			選択	
フランス語学修 III	2			選択	
ドイツ語学修 I	2			選択	
ドイツ語学修 II	2			選択	
ドイツ語学修 III	2			選択	
イタリア語学修 I	2			選択	
イタリア語学修 II	2			選択	
イタリア語学修 III	2			選択	
中国語学修 I	2			選択	
中国語学修 II	2			選択	
中国語学修 III	2			選択	
ハングル学修 I	2			選択	
ハングル学修 II	2			選択	
ハングル学修 III	2			選択	
スペイン語学修 I	2			選択	
スペイン語学修 II	2			選択	
スペイン語学修 III	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad : English I	2		1	選択	
Study Abroad : English II	2		1	選択	
Study Abroad : English III	2		1	選択	
Study Abroad : English IV	2		1	選択	
Study Abroad : English V	2		1	選択	
Study Abroad : English VI	2		1	選択	
Study Abroad : English VII	2		1	選択	

履修上の注意 (外国語科目)

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1. 選択必修の履修方法

- 指定された選択必修の言語の中より、1つの言語4単位を選択必修。「1つの言語4単位」とは、1種類の言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得することをいう。
 - 選択必修としての外国語は、1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は、2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。
 - 選択必修としての外国語は、卒業までの間に変更することができるが、この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得しなければならない。
- ※初級中国語の履修方法について
「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週2回授業）を履修すること。

2. 選択の履修方法

- 2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合、クラスの指定はない。
- 選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

- 選択科目は中級から履修を始めることもできる。また、1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。
- 京田辺キャンパスで開講されるラビート科目を選択科目として履修することができる。
ラビート科目の履修には前年度秋学期の適性検査と予備登録が必要。
- 選択科目として修得した単位は、外国語科目のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入される。

3. 全般事項

- 1, 2年次の英語必修科目は、習熟度別クラス編成になっているので、指定されたクラスを履修すること。なお、再履修となる場合、クラスの指定はない。
- 特定の言語に履修希望者が集中した場合、希望する言語を履修できないことがある。
- 他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
- 「Study Abroad: English I～VII」は、国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については、カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive English I
英語講読ⅠB	1	Comprehensive English II
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in English I
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in English II
英語講読ⅡA	1	Comprehensive English III
英語講読ⅡB	1	Comprehensive English IV
英語コミュニケーションⅡA	1	Communication in English III
英語コミュニケーションⅡB	1	Communication in English IV

読替措置は、カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し、対応する新科目の授業に出席することにより、旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが、授業実態は新科目である。試験やレポート、掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生 必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

- ここにいう「外国人留学生」とは、外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
- 外国人留学生は、「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」4単位を必修とする。
- 外国人留学生の場合は、外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし、英語の必修8単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし、他の外国語科目を履修した場合は、外国語科目区分のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入することができる。不足する8単位分については、区分外領域で充足しなければならない。したがって、区分外領域は、12単位＋8単位＝20単位修得しなければならない。
- 「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」は、外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修 2単位 以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A、B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

ゼミナール科目（12単位）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業論文	8	通4	4	必修	

履修上の注意

- ゼミナール科目はすべて必修である。
- 3年次の「応用演習Ⅰ・Ⅱ」に連動して4年次に「卒業論文」を履修する。
- 「卒業論文」は卒業論文発表会でその要旨を各人が口頭で発表しなければならない。
- 「卒業論文」は指導教員に提出するものとする。

カリキュラム

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻

(2019年度以降入学生適用)

カリキュラム

生活科学部

食物栄養科学科

食物科学専攻

(2019年度以降入学生適用)

生活科学部は人間生活学科と食物栄養科学科の2学科からなり、食物栄養科学科には更に食物科学専攻と管理栄養士専攻が設置されている。食物科学専攻は、講義に加え、豊富な実験・実習を通して、多様な食の価値を科学的に追求する。食品学・調理学・栄養学を総合的に学ぶことにより、「食の機能を活かしたおいしい食品」を創造できる「食」のスペシャリストを育成する。

食品学では、食品の成分や性質を科学的に分析し、加工や貯蔵の方法などについて学び、その合理性を科学的に解明する。調理学では、調理の過程で起こる素材の化学変化を分析し、それとともに栄養価を高めながらおいしく仕上げる調理法を探究する。栄養学では、食物から摂取する栄養素が体内でどのように変化し、活用されるのかを学ぶ。

これらの学問体系を通して、食物科学専攻では食物科学に必要な基礎知識から食文化、食べる人の心理をも理解して食を創造できるようなカリキュラムを構築している。まず、1年次では、導入科目とその後の専門教育につなげるための基礎科目を配置している。2～3年次では、3分野にわたる講義科目と実験・実習科目を設置し、それらの学習を通して科学的な思考力と技術を習得する。講義科目では、食品成分の化学的な特性や食品の機能性を学ぶとともに、官能評価を学ぶことで“おいしさ”というあいまいな価値を客観的に評価する能力を養う。また、京都の地の利を生かして、京料理や京菓子など京都の食の伝統文化に触れる。実験・実習科目については、調理実習をはじめとして生物、化学の基礎実験、更にバイオテクノロジーなど新しい内容を扱った実験まで、すべてを履修する。更に、インターンシップやプロジェクト科目など体験型学習を通して食品開発の手法や現状について学ぶこともできる。4年次にはそれらの集大成として、1年間を通じて必修科目である卒業研究に取り組み、論文にまとめて発表する。

食品関連企業と連携して、 商品開発にチャレンジする

講義や実験実習で身につけた知識や技術を生かし、複数のチームに分かれて食品関連企業の現場で課題解決に取り組めます。また、実践的な学習を通して、問題解決能力や企画力をはぐくみます。

CURRICULUM / カリキュラム

4年間の総まとめとして、少人数で調理学・食品学・栄養学の研究に取り組む

卒業論文

インターンシップⅡ

食品企業での就業体験



食品開発プロジェクト

食品関連企業と新規商品の開発をめざす

商品開発につなげる

フードシステム開発論・食品加工物性学実験など



食の文化を
探求する

京の料理と菓子・
京の食材論など

おいしさを
科学する

食の認知行動学・
調理科学など

食品の機能性を
科学する

食品機能学・
食品化学など



食の安全と健康を支える

食品衛生学・栄養学など



食物科学を学ぶために必要な基礎知識を身につける

化学の基礎・生物の基礎・生活科学概論・食生活論など

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻 科目配置表＜2019年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

	1 年次			2 年次			3 年次			4 年次			卒業必要 最低単位
	必 選	春学期	必 選 単 位	秋学期	必 選 単 位	春学期	必 選 単 位	秋学期	必 選 単 位	春学期	必 選 単 位	秋学期	必 選 単 位
基礎 教育 科目	講義 ●食生活論 A 生物の基礎 A 化学の基礎		2 2 2	基礎統計学 情報処理 I	2 2	情報処理 II							10
	実験実習						●生物学実験 A ●化学実験 A						
入門・概論科目	食物学のための数学と物理 ●生活科学概論		2 2										2
応用・発展科目	講義 生活経済学 保育学		2 2	初級学 ●食品化学 I ●生化学 ●調理科学 I B 食品衛生学 A B 運動機能論 京の料理と菓子 住居学 家庭経営学	2 2 2 2 2 2 2 2	食品化学 II 栄養学 ●調理科学 II ●食品物性学 食品微生物学 B フードシステム開発論 京の食材論 家庭機械および電気	2 2 2 2 2 2 2 2	食品加工貯蔵学 食文化論 食品機能学 食と健康管理 フードシステム論 フードコーディネーター論 インターンシップ II 食品開発プロジェクト I	2 2 2 2 2 2 2 2	食品官能評価論 C 公衆衛生学 C 食の認知行動学 食品バイオテクノロジー 応用栄養学	2 2 2 2 2 2 2 2		56
実験実習	●調理科学実習 I		1	調理科学実習 II 複眼製作実習基礎 I	1 1	複眼製作実習基礎 II				●調理科学実験 ●食品機能学実験 ●食品加工・物性学実験 ●食品バイオテクノロジー実験 ●調理科学実習 III 保育学実習	2 2 2 2 1 1		
共通学芸科目	共通学芸選択科目 他学芸科目			[共通学芸選択科目] [他学芸科目]									10
	●聖書 A ○キリスト教・同志社関係選 択必修科目		2	聖書 B [キリスト教・同志社関係選 択必修科目]	2								
外国語科目	●Comprehensive English I ●Communication in English I		1 1	●Comprehensive English II ●Communication in English II	1 1	●Comprehensive English III ●Communication in English III	1 1	●Comprehensive English IV ●Communication in English IV	1 1				12
	○フランス語、○ドイツ語、○中国語、○ハンガリー語、イタリア語、スペイン語												
	○スポーツ・健康選択必修科目					[スポーツ・健康選択必修科目]							
スポーツ・健康科目													2
卒業論文													8
区分外													18
合計													124

＜凡例＞
 1. 必・選欄の●は必修を、○又は A、B、C、などは、選択必修グループを表す。
 2. 共通学芸科目、キリスト教・同志社関係科目、外国語科目、スポーツ・健康科目については、カリキュラム表を参照。
 3. [] 内の科目は、再掲。

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻 卒業必要単位（2019年度以降入学生適用）							
科目区分		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業必要最低単位	
基礎教育科目	講義	必修 4 単位 選択必修 A 群 2 単位				10単位	
	実験実習						必修 4 単位
入門・概論科目		必修 2 単位				2 単位	
応用・各論科目	講義	必修14単位 選択必修 B 群 6 単位 選択必修 C 群 8 単位				56単位	
	実験実習						必修 2 単位
		以上の40単位を含め、最低56単位以上修得すること。					
共通学芸科目		※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位	
キリスト教・同志社関係科目		必修 4 単位				6 単位	
		選択必修 2 単位					
外国語科目		必修 4 単位		必修 4 単位		12単位	
		選択必修 4 単位					
スポーツ・健康科目		選択必修 2 単位				2 単位	
卒業論文						必修 8 単位	8 単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						106単位	
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位、他大学単位互換科目の単位等）						18単位	
卒業に必要な単位						124単位	

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞ 各科目区分ごとに、上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また、科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないで注意すること。
いずれの科目区分においても、選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞ 最低18単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1. 各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位 (オーバー単位)
2. 同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3. 金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4. 大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5. 奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6. 放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞ 総計124単位以上
注) 自由選択科目は、卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞ 年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし、以下の科目は含まない。
1. 他大学等の単位互換科目
2. 文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3. 教職に関する科目 (共通学芸科目区分に置かれている科目を除く)
4. 自由選択科目
5. 次の科目

京都の文化に触れる A	海外事情 (アメリカ)	メディア創造系海外事情 A	インターンシップ
京都の文化に触れる B	海外事情 (イギリス)	メディア創造系海外事情 B	インターンシップ I A
京都の文化に触れる C	海外事情 (ニュージーランド)	海外事情 (アジアと女性)	インターンシップ I B
京都の文化に触れる D	海外事情 (中国)	海外こども事情 A	インターンシップ II
京都の文化に触れる E	海外事情 (カナダ)	海外こども事情 B	
近代日本と同志社 D			

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻 カリキュラム表（2019年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低10単位以上）

講義						
授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考	
必修						
食生活論	2	春2	1	必修		
基礎統計学	2	秋2	1	必修		
選択必修A群						
生物の基礎	2	春2	1	選択必修 2単位 以上		
化学の基礎	2	春2	1			
選択						
情報処理Ⅰ	2	秋2	1	選択		
情報処理Ⅱ	2	春2	2	選択		

履修上の注意

必修8単位、選択必修2単位を含め、最低10単位以上修得すること。
選択必修A群において2単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

実験実習

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
生物学実験 A	2	秋4	2	必修	
化学実験 A	2	秋4	2	必修	

入門・概論科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
生活科学概論	2	春2	1	必修	
選択					
食物学のための数学と物理	2	春2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（必修26単位，選択必修14単位を含む，最低56単位以上）

講義					
授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
食品化学Ⅰ	2	春2	2	必修	
食品化学Ⅱ	2	秋2	2	必修	
生化学	2	半2	2	必修	
栄養学	2	半2	2	必修	
調理科学Ⅰ	2	春2	2	必修	
調理科学Ⅱ	2	秋2	2	必修	
食品物性学	2	半2	2	必修	
選択必修B群					
食品微生物学	2	半2	2	選択必修 6単位 以上	
食品衛生学A	2	半2	2		
運動健康論	2	半2	2		
フードシステム開発論	2	半2	2		
選択必修C群					
食品加工貯蔵学	2	半2	3	選択必修 8単位 以上	
食品官能評価論	2	半2	3		
食文化論	2	半2	3		
公衆衛生学	2	半2	3		
食品機能学	2	半2	3		
食の認知行動学	2	半2	3		
選択					
生活経済学	2	半2	1	選択	
被服学	2	半2	1	選択	
保育学	2	半2	1	選択	
京の料理と菓子	2	半2	2	選択	
京の食材論	2	半2	2	選択	
住居学	2	半2	2	選択	
家庭機械および電気	2	半2	2	選択	
家庭経営学	2	半2	2	選択	
フードスペシャリスト論	2	半2	3	選択	
フードコーディネート論	2	半2	3	選択	
食品バイオテクノロジー	2	半2	3	選択	
応用栄養学	2	半2	3	選択	
食と健康管理	2	半2	3	選択	
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講
食品開発プロジェクトⅠ	2	春2	3	選択	
食品開発プロジェクトⅡ	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択必修B群において6単位，C群において8単位を超えて修得した科目の単位は，応用・各論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

- 以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
調理科学実習Ⅱ	「調理科学実習Ⅰ」を履修済のこと。
被服製作実習基礎Ⅱ	「被服製作実習基礎Ⅰ」を履修済のこと。
食品開発プロジェクトⅠ	「調理科学Ⅰ」「調理科学Ⅱ」
食品開発プロジェクトⅡ	「食品化学Ⅰ」「食品化学Ⅱ」「栄養学」「フードシステム開発論」を修得済で，かつ「食品機能学」を履修中であること。

- 「住居学」「保育学実習」
教職課程履修希望者以外は履修しないこと。
- 「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。
- 「食品開発プロジェクトⅠ」「食品開発プロジェクトⅡ」
「食品開発プロジェクトⅠ」と「食品開発プロジェクトⅡ」は連結科目であるため，セットで登録を行うこと。「食品開発プロジェクトⅠ」のみ「食品開発プロジェクトⅡ」のみの登録はできない。また，「インターンシップⅡ」を履修する学生は履修できない。

実験実習					
授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
調理科学実習Ⅰ	1	春3	1	必修	
調理科学実習Ⅱ	1	秋3	1	必修	
調理科学実験	2	半4	3	必修	
食品機能学実験	2	半4	3	必修	
食品加工・物性学実験	2	半4	3	必修	
食品バイオテクノロジー実験	2	半4	3	必修	
調理科学実習Ⅲ	1	春2	3	必修	
調理科学実習Ⅳ	1	秋2	3	必修	
選択					
被服製作実習基礎Ⅰ	1	秋2	1	選択	
被服製作実習基礎Ⅱ	1	春2	2	選択	
保育学実習	1	半2	3	選択	

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考
人間と思想				
哲学A	2	半2	1	
哲学B	2	半2	1	
西洋の思想A	2	半2	1	
西洋の思想B	2	半2	1	
日本の思想A	2	半2	1	
日本の思想B	2	半2	1	
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学A	2	半2	1	
心理学B	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論A	2	半2	1	
国際関係論B	2	半2	1	
国際社会と経済A	2	半2	1	
国際社会と経済B	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会A	2	半2	1	
人間と社会B	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論A	2	半2	1	
マスコミュニケーション論B	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
社会保障と福祉	2	半2	1	
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性A	2	半2	1	
外国文学と女性B	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1	
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1	
中国文化研究A	2	半2	1	欠講
中国文化研究B	2	半2	1	欠講
日本の歴史と文化A	2	半2	1	
日本の歴史と文化B	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究A	2	半2	1	
アメリカ地域研究B	2	半2	1	
アジア地域研究A	2	半2	1	
アジア地域研究B	2	半2	1	
日本古典芸能A	2	半2	1	
日本古典芸能B	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化A	2	半2	1	
京都の文化B	2	半2	1	
京都の文化C	2	半2	1	
京都の文化D	2	半2	1	
京都の文化に触れるA	2	半2	2	欠講
京都の文化に触れるB	2	半2	2	
京都の文化に触れるC	2	半2	2	
京都の文化に触れるD	2	半2	2	
京都の文化に触れるE	2	半2	2	
京都の歴史A	2	半2	1	
京都の歴史B	2	半2	1	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考
教育と人間				
教育の原理	2	半2	2	〔履修に関する科目〕のうち、左
発達と学習の心理学	2	半2	2	記科目は共通学芸科目として卒
教育の制度と経営	2	半2	2	業に必要な単位に算入できる。
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan Studies A	2	秋2	1	
Japan Studies B	2	秋2	1	
Japan Studies C	2	秋2	1	
Japan Studies D	2	秋2	1	
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	欠講
寄付講座	2	半2	1	欠講
キャリア教育科目				
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップⅠA	1	通1	2	
インターンシップⅠB	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の真を参照)				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。
「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。
「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。
「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。
「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。
「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。
「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低6単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書A	2	春2	1	必修	
聖書B	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史A	2	半2	1	選択必修 2単位 以上	
キリスト教の歴史B	2	半2	1		
キリスト教の歴史C	2	半2	1		
キリスト教文化論A	2	半2	1		
キリスト教文化論B	2	半2	1		
キリスト教文化論C	2	半2	1		
キリスト教世界の探求A	2	半2	1		
キリスト教世界の探求B	2	半2	1		
キリスト教世界の探求C	2	半2	1		
近代日本と同志社A	2	半2	1		
近代日本と同志社B	2	半2	1		
近代日本と同志社C	2	半2	1		
近代日本と同志社D	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については、年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
英語					
Comprehensive English I	1	春2	1	必修	
Comprehensive English II	1	秋2	1	必修	
Communication in English I	1	春2	1	必修	
Communication in English II	1	秋2	1	必修	
Comprehensive English III	1	春2	2	必修	
Comprehensive English IV	1	秋2	2	必修	
Communication in English III	1	春2	2	必修	
Communication in English IV	1	秋2	2	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎 I	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級フランス語基礎 II	1	秋2	1		
初級フランス語演習 I	1	春2	1		
初級フランス語演習 II	1	秋2	1		
中級フランス語 I	1	春2	2	選択	
中級フランス語 II	1	秋2	2	選択	
上級フランス語 I	1	春2	3	選択	
上級フランス語 II	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎 I	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ドイツ語基礎 II	1	秋2	1		
初級ドイツ語演習 I	1	春2	1		
初級ドイツ語演習 II	1	秋2	1		
中級ドイツ語 I	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語 II	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語 I	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語 II	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修 4単位	
初級中国語演習	2	秋4	1		
中級中国語 I	1	春2	2	選択	
中級中国語 II	1	秋2	2	選択	
上級中国語 I	1	春2	3	選択	
上級中国語 II	1	秋2	3	選択	
ハンガール					
初級ハンガール基礎 I	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ハンガール基礎 II	1	秋2	1		
初級ハンガール演習 I	1	春2	1		
初級ハンガール演習 II	1	秋2	1		
中級ハンガール I	1	春2	2	選択	
中級ハンガール II	1	秋2	2	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎 I	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎 II	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習 I	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習 II	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語 I	1	春2	2	選択	
中級イタリア語 II	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
スペイン語					
初級スペイン語基礎 I	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎 II	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習 I	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習 II	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語 I	1	春2	2	選択	
中級スペイン語 II	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の真を参照）					
TOEFL I	2			選択	
TOEFL II	2			選択	
TOEFL III	2			選択	
TOEIC I	2			選択	
TOEIC II	2			選択	
TOEIC III	2			選択	
英語検定 I	2			選択	
英語検定 II	4			選択	
IELTS I	2			選択	
IELTS II	2			選択	
IELTS III	2			選択	
フランス語学修 I	2			選択	
フランス語学修 II	2			選択	
フランス語学修 III	2			選択	
ドイツ語学修 I	2			選択	
ドイツ語学修 II	2			選択	
ドイツ語学修 III	2			選択	
イタリア語学修 I	2			選択	
イタリア語学修 II	2			選択	
イタリア語学修 III	2			選択	
中国語学修 I	2			選択	
中国語学修 II	2			選択	
中国語学修 III	2			選択	
ハンガール学修 I	2			選択	
ハンガール学修 II	2			選択	
ハンガール学修 III	2			選択	
スペイン語学修 I	2			選択	
スペイン語学修 II	2			選択	
スペイン語学修 III	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad : English I	2		1	選択	
Study Abroad : English II	2		1	選択	
Study Abroad : English III	2		1	選択	
Study Abroad : English IV	2		1	選択	
Study Abroad : English V	2		1	選択	
Study Abroad : English VI	2		1	選択	
Study Abroad : English VII	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意

1. 選択必修の履修方法

- 指定された選択必修の言語の中より、1つの言語4単位を選択必修。「1つの言語4単位」とは、1種類の言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得することをいう。
- 選択必修としての外国語は、1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は、2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。
- 選択必修としての外国語は、卒業までの間に変更することができるが、この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得しなければならない。

※ 初級中国語の履修方法について

「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週2回授業）を履修すること。

2. 選択の履修方法

- 2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合、クラスの指定はない。
- 選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

- 選択科目は中級から履修を始めることもできる。また、1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。
- 京田辺キャンパスで開講されるラピート科目を選択科目として履修することができる。
ラピート科目の履修には前年度秋学期の適性検査と予備登録が必要。
- 選択科目として修得した単位は、外国語科目のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

3. 全般事項

- 1, 2年次の英語必修科目は、習熟度別クラス編成になっているので、指定されたクラスを履修すること。なお、再履修となる場合、クラスの指定はない。
- 特定の言語に履修希望者が集中した場合、希望する言語を履修できないことがある。
- 他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
- 「Study Abroad: English I～VII」は、国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生 必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

- ここにいう「外国人留学生」とは、外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
- 外国人留学生は、「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」4単位を必修とする。
- 外国人留学生の場合は、外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし、英語の必修8単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし、他の外国語科目を修得した場合は、外国語科目区分のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する8単位分については、区分外領域で充足しなければならない。したがって、区分外領域は、18単位+8単位=26単位修得しなければならない。
- 「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」は、外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修 2単位 以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A、B」

1年次に指定されたクラスで履修すること。

卒業論文（8単位）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
卒業論文	8	通4	4	必修	

履修上の注意

- 卒業論文を履修するためには下記の科目に合格していなければならない。
3年次設置の実験・実習科目10単位中6単位以上修得済で、かつ、総単位数96単位以上修得済のこと。
- 卒業論文は食物栄養科学科系の卒業論文を履修しなければならない。（人間生活学科系の卒業論文を履修することはできない。）
なお、履修者数の関係で希望する担当者を選択できないことがある。
- 卒業論文は卒業論文発表会でその要旨を各人が口頭で発表しなければならない。
- 卒業論文は指導教員に提出するものとする。

カリキュラム

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻

(2009～2018年度入学生適用)

カリキュラム

生活科学部

食物栄養科学科

食物科学専攻

(2009～2018年度入学生適用)

生活科学部は人間生活学科と食物栄養科学科の2学科からなり、食物栄養科学科には更に食物科学専攻と管理栄養士専攻が設置されている。食物科学専攻は、主に自然科学的手法を用いて実践的、総合的な教育研究を行い、食品産業を主とした一般企業、学校などで活躍できる人材を育成することを教育目標としている。

食物科学専攻では、食品学、調理学、栄養学の3分野の視点からバランスよく「食」の在り方について学ぶことを特徴としている。食品学では、食品の成分や性質を科学的に分析し、加工や貯蔵の方法などについて学び、その合理性を科学的に解明する。調理学では、調理の過程で起こる素材の化学変化を分析し、それとともに栄養価を高めながらおいしく仕上げる調理法を探究する。栄養学では、食物から摂取する栄養素が体内でどのように変化し、活用されるのかを学ぶ。

これらの学問体系を通して、食物科学専攻では1人ひとりの食生活からそれを取り巻く食環境にいたるまでを視野に入れたカリキュラムを構築している。まず、1年次では、導入科目とその後の専門教育につなげるための基礎科目を配置している。2～3年次では、3分野にわたる講義科目と実験・実習科目を設置し、それらの学習を通して科学的な思考力と技術を習得する。実験・実習科目については、調理実習をはじめとして生物、化学の基礎実験、更にバイオテクノロジーなど新しい内容を扱った実験まで、すべてを履修する。その上で、食品の分析や官能評価を学ぶことで、“おいしく調理する”ための理論と実践を習得し、“おいしさ”というあいまいなものを客観的に評価する能力を養う。また、京都の地の利を生かして、京料理や京菓子など京都の食の伝統文化に触れる。更に、インターンシップを通して食品開発の手法や現状について学ぶこともできる。4年次にはそれらの集大成として、1年間を通じて必修科目である卒業研究に取り組み、論文にまとめて発表する。

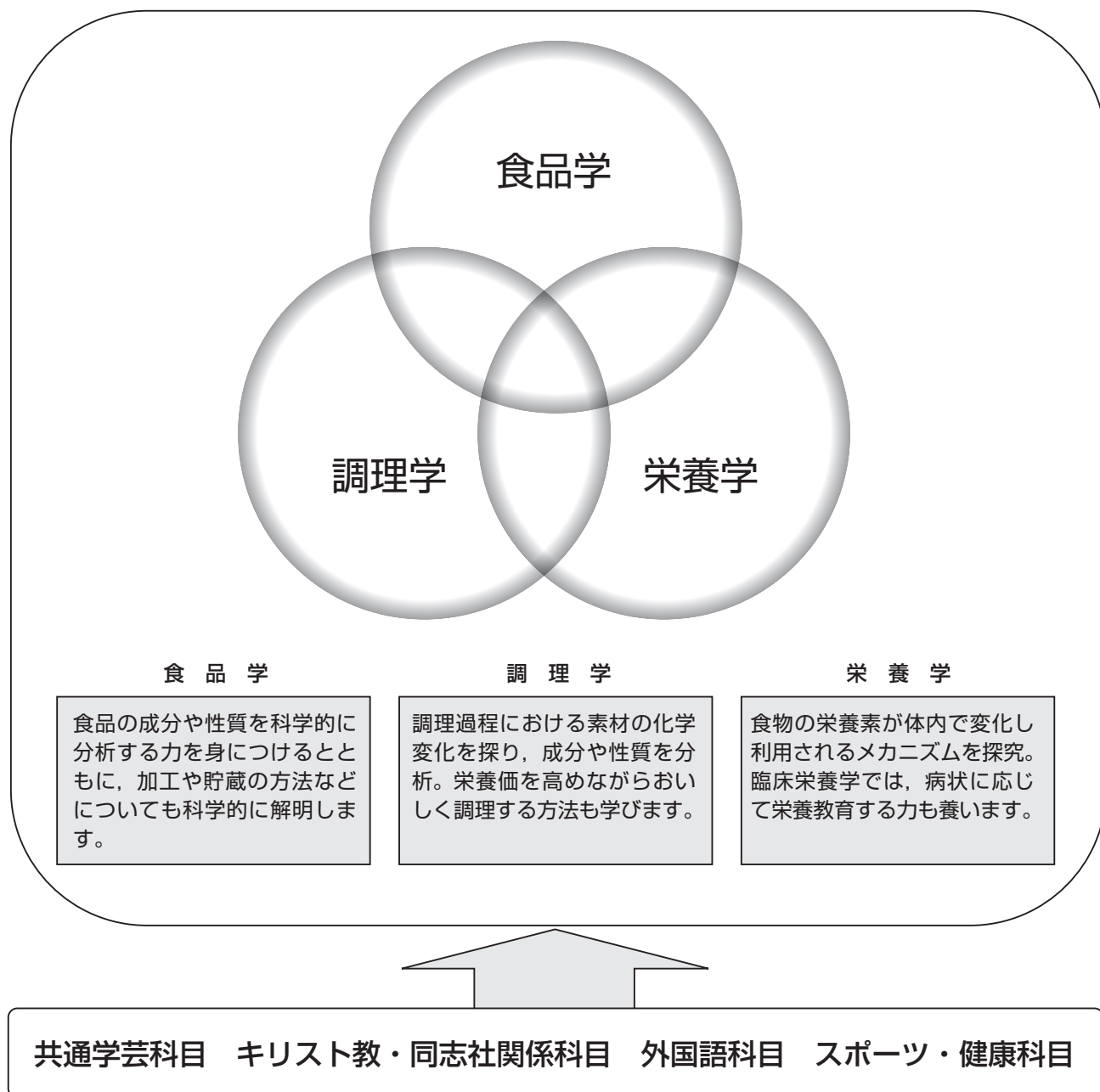
食物科学専攻では、必要な科目を修得すれば、中・高等学校教諭一種免許（家庭）やフードスペシャリスト認定試験受験資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）、社会福祉主事（任用資格）を取得できる。また、全学的に置かれている自由選択科目を修得することで、博物館学芸員や図書館司書、学校図書館司書教諭免許を取得することも可能である。

食 物 栄 養 科 学 科

食物科学専攻

これからの「食」のあり方を発信できる人になる。

豊富な実験・実習を通し、科学的においしさを追究する専攻です。食品・調理・栄養についてバランスよく学ぶとともに、論理的思考も兼ね備えた「食」のスペシャリストをめざします。



生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻 科目配置表＜2009～2018年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1 年次			2 年次			3 年次			4 年次			卒業必要 最低単位
	必・選	春学期	必・選	単位	秋学期	必・選	単位	春学期	必・選	単位	秋学期	必・選	単位	
基礎 教育 科目	講義	A 生物の基礎 A 化学の基礎	2 2	2 2	情報処理Ⅱ	2								10
	実験実習					● 生物学実験 A ● 化学実験 A	2 2							
入門・概論科目	●	食物学のための数学と物理 生活科学概論	2 2											2
	●	食生活論 生活経済学 保育学	2 2 2	2 2 2	● 食品化学Ⅰ ● 生化学 ● 調理科学Ⅰ B 食品分析化学 B 食品衛生学 A B 食品微生物学 運動健康論 京の料理と菓子 住居学 家庭経営学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	● 食品化学Ⅱ ● 栄養学 ● 調理科学Ⅱ ● 食品物性学 ● 食品微生物学 ● 食文化論 食と健康管理 フードスベジャリスト論 フードコーディネーター論 インターンシップⅡ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	● 食物英語講義 C 食品管理概論 C 食品加工貯蔵学 C 公衆衛生学 食品バイオテクノロジー 応用栄養学 インターンシップⅡ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				
応用・専門科目	●	調理科学実習Ⅰ 調理科学実習Ⅱ 初級製作用実習基礎Ⅰ	1 1 1											56
	実験実習							● 調理科学実験 ● 食品分析化学実験 ● 食品加工・物性学実験 ● 食品バイオテクノロジー実験 ● 調理科学実習Ⅲ 保育学実習	2 2 2 2 1 1	● 調理科学実験 ● 食品分析化学実験 ● 食品加工・物性学実験 ● 食品バイオテクノロジー実験 ● 調理科学実習Ⅳ 保育学実習	2 2 2 2 1 1			
共通学芸科目		共通学芸選択科目 他学芸科目			[共通学芸選択科目] [他学芸科目]									10
キリスト教・ 同窓会関係科目	●	聖書 A ○ キリスト教・同窓会関係選 択必修科目	2	2										6
外国語科目	●	英語講義Ⅰ A 英語コミュニケーションⅠ A	1 1	1 1	● 英語講義Ⅰ B ● 英語コミュニケーションⅠ B	1 1	1 1	● 英語講義Ⅱ A ● 英語コミュニケーションⅡ A ● 英語コミュニケーションⅡ B ● 英語コミュニケーションⅡ B	1 1 1 1	1 1 1 1				
	○	○ フランス語、○ ドイツ語、○ 中国語、○ ハングル、イタリア語、スペイン語 ○ スポーツ・健康選択必修科目												
スポーツ・健康科目	○	○ スポーツ・健康選択必修科目												2
卒業論文												● 卒業論文	8	8
区分外		* 上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位、他大学単位互換科目の単位等												18
合計														124

※細かい科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

＜凡例＞
1. 必・選欄の●は必修を、○又は A、B、C、などは、選択必修グループを表す。
2. 共通学芸科目、キリスト教・同窓会関係科目、外国語科目、スポーツ・健康科目については、カリキュラム表を参照。
3. [] 内の科目は、再掲。

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻 卒業必要単位（2009～2018年度入学生適用）						
科目区分		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目	講義	必修 4 単位 選択必修 A 群 2 単位				10単位
	実験実習					
入門・概論科目		必修 2 単位				2 単位
応用・各論科目	講義	必修 2 単位	必修14単位 選択必修 B 群 6 単位	選択必修 C 群 6 単位	必修 2 単位	56単位
	実験実習	必修 2 単位	必修 10単位			
		以上の42単位を含め、最低56単位以上修得すること。				
共通学芸科目		※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位
キリスト教・同志社関係科目		必修 4 単位 選択必修 2 単位				6 単位
外国語科目		必修 4 単位 必修 4 単位 選択必修 4 単位				12単位
スポーツ・健康科目		選択必修 2 単位				2 単位
卒業論文		必修 8 単位				8 単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						106単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位、他大学単位互換科目の単位等）						18単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞ 各科目区分ごとに、上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また、科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないで注意すること。
いずれの科目区分においても、選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞ 最低18単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1. 各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位 (オーバー単位)
2. 同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3. 金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4. 大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5. 奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6. 放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞ 総計124単位以上
注) 自由選択科目は、卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞ 年間49単位。1 学期間の上限は28単位。
ただし、以下の科目は含まない。
1. 他大学等の単位互換科目
2. 文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3. 教職に関する科目 (共通学芸科目区分に置かれている科目を除く)
4. 自由選択科目
5. 次の科目

京都の文化に触れる A	海外事情 (アメリカ)	メディア創造系海外事情 A	インターンシップ
京都の文化に触れる B	海外事情 (イギリス)	メディア創造系海外事情 B	インターンシップ I A
京都の文化に触れる C	海外事情 (ニュージーランド)	海外事情 (アジアと女性)	インターンシップ I B
京都の文化に触れる D	海外事情 (中国)	海外こども事情 A	インターンシップ II
京都の文化に触れる E	海外事情 (カナダ)	海外こども事情 B	
近代日本と同志社 D			

生活科学部 食物栄養科学科 食物科学専攻 カリキュラム表（2009～2018年度入学生適用）

基礎教育科目（最低10単位以上）

講義						
授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考	
必修						
有機化学	2	秋2	1	必修		
基礎統計学	2	秋2	1	必修		
選択必修A群						
生物の基礎	2	春2	1	選択必修		
化学の基礎	2	春2	1	2単位 以上		
選択						
情報処理Ⅰ	2	秋2	1	選択		
情報処理Ⅱ	2	春2	2	選択		

履修上の注意

必修8単位、選択必修2単位を含め、最低10単位以上修得すること。
選択必修A群において2単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

実験実習

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
生物学実験 A	2	秋4	2	必修	
化学実験 A	2	秋4	2	必修	

入門・概論科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
生活科学概論	2	春2	1	必修	
選択					
食物学のための数学と物理	2	春2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（必修30単位，選択必修12単位を含む，最低56単位以上）

講義

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
食生活論	2	春2	1	必修	
食品化学Ⅰ	2	春2	2	必修	
食品化学Ⅱ	2	秋2	2	必修	
生化学	2	半2	2	必修	
栄養学	2	半2	2	必修	
調理科学Ⅰ	2	春2	2	必修	
調理科学Ⅱ	2	秋2	2	必修	
食品物性学	2	半2	2	必修	
食物英語講読	2	春2	4	必修	
選択必修B群					
食品微生物学	2	半2	2	選択必修 6単位 以上	
食品衛生学A	2	半2	2		
食品分析化学	2	半2	2		
運動健康論	2	半2	2		
選択必修C群					
食品流通論	2	半2	3	選択必修 6単位 以上	
食品加工貯蔵学	2	半2	3		
食品官能評価論	2	半2	3		
食文化論	2	半2	3		
公衆衛生学	2	半2	3		
選択					
生活経済学	2	半2	1	選択	
被服学	2	半2	1	選択	
保育学	2	半2	1	選択	
京の料理と菓子	2	半2	2	選択	
京の食材論	2	半2	2	選択	
住居学	2	半2	2	選択	
家庭機械および電気	2	半2	2	選択	
家庭経営学	2	半2	2	選択	
フードスペシャリスト論	2	半2	3	選択	
フードコーディネート論	2	半2	3	選択	
食品バイオテクノロジー	2	半2	3	選択	
応用栄養学	2	半2	3	選択	
食と健康管理	2	半2	3	選択	
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠

履修上の注意

選択必修B群，C群において，6単位を超えて修得した科目の単位は，応用・各論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

1. 以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
調理科学実習Ⅱ	「調理科学実習Ⅰ」を履修済のこと。
被服製作実習基礎Ⅱ	「被服製作実習基礎Ⅰ」を履修済のこと。

2. 「住居学」「保育学実習」
教職課程履修希望者以外は履修しないこと。
3. 「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。

実験実習

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
調理科学実習Ⅰ	1	春3	1	必修	
調理科学実習Ⅱ	1	秋3	1	必修	
調理科学実験	2	半4	3	必修	
食品分析化学実験	2	半4	3	必修	
食品加工・物性学実験	2	半4	3	必修	
食品バイオテクノロジー実験	2	半4	3	必修	
調理科学実習Ⅲ	1	春2	3	必修	
調理科学実習Ⅳ	1	秋2	3	必修	
選択					
被服製作実習基礎Ⅰ	1	秋2	1	選択	
被服製作実習基礎Ⅱ	1	春2	2	選択	
保育学実習	1	半2	3	選択	

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学A
文化人類学B	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち、左	
発達と学習の心理学	2	半2	2	記科目は共通学	
学校教育論	2	半2	2	廃止	
教育の制度と経営	2	半2	2	芸科目として卒	
総合演習（2009年度入学生適用）	2	半2	3	業に必要な単位	
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザイン	2	半2	1	廃止	
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の真を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示されている科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。
「インターンシップⅠA、ⅠB」
選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。
「京都の文化に触れるA～E」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。
「京都の文化A～D」の集中講義クラスの単位を2012年度以前に修得済の場合、対応する「京都の文化に触れるA～D」は履修できない。
また、「京都の文化D（大学コンソーシアム）」は2014年度より「京都の文化に触れるE」に変更している。
「京都の文化D（大学コンソーシアム）」の単位を修得済の場合、修得した単位は有効だが、「京都の文化に触れるE」は履修できない。
「教育の制度と経営」
「学校教育論」の単位を修得済の場合は履修できない。
「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。
選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。
「Japan Studies A～E」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。
「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。
「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」
「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。
「大学生生活とキャリアデザイン」の単位を修得済の場合は、開講科目表備考欄に注意すること。
「総合演習」
2010年度以降入学生は履修できない。

キリスト教・同志社関係科目（最低6単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書 A	2	春2	1	必修	
聖書 B	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史 A	2	半2	1	選択必修 2単位 以上	
キリスト教の歴史 B	2	半2	1		
キリスト教の歴史 C	2	半2	1		
キリスト教文化論 A	2	半2	1		
キリスト教文化論 B	2	半2	1		
キリスト教文化論 C	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 A	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 B	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 A	2	半2	1		
近代日本と同志社 B	2	半2	1		
近代日本と同志社 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 D	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については、年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
英語					
英語講読Ⅰ A	1	春2	1	必修	読替
英語講読Ⅰ B	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠ A	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠ B	1	秋2	1	必修	読替
英語講読Ⅱ A	1	春2	2	必修	読替
英語講読Ⅱ B	1	秋2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡ A	1	春2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡ B	1	秋2	2	必修	読替
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語（2009年度入学生適用）					
初級中国語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級中国語基礎Ⅱ	1	春2	1		
初級中国語演習Ⅰ	1	秋2	1		
初級中国語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級中国語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級中国語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語（2010年度以降入学生適用）					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級中国語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級中国語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修 4単位	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の真を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad : EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad : EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意

1. 選択必修の履修方法

- 指定された選択必修の言語の中より、1つの言語4単位を選択必修。「1つの言語4単位」とは、1種類の言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得することをいう。
- 選択必修としての外国語は、1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は、2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。
- 選択必修としての外国語は、卒業までの間に変更することができるが、この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ、Ⅱ、初級演習Ⅰ、Ⅱの計4単位を修得しなければならない。

※ 初級中国語の履修方法について

2010年度以降入学生は「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週2回授業）を履修すること。初級中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、初級中国語演習Ⅰ、Ⅱは履修できない。

2. 選択の履修方法

- 2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合、クラスの指定はない。
- 選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

目の単位として取り扱う。

- 選択科目は中級から履修を始めることもできる。また、1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。
- 京田辺キャンパスで開講されるラビート科目を選択科目として履修することができる。
ラビート科目の履修には前年度秋学期の適性検査と予備登録が必要。
- 選択科目として修得した単位は、外国語科目のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入される。

3. 全般事項

- 1、2年次の英語必修科目は、習熟度別クラス編成になっているので、指定されたクラスを履修すること。なお、再履修となる場合、クラスの指定はない。
- 特定の言語に履修希望者が集中した場合、希望する言語を履修できないことがある。
- 他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
- 「Study Abroad: English I～VII」は、国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については、カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive EnglishⅠ
英語講読ⅠB	1	Comprehensive EnglishⅡ
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in EnglishⅠ
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in EnglishⅡ
英語講読ⅡA	1	Comprehensive EnglishⅢ
英語講読ⅡB	1	Comprehensive EnglishⅣ
英語コミュニケーションⅡA	1	Communication in EnglishⅢ
英語コミュニケーションⅡB	1	Communication in EnglishⅣ

読替措置は、カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し、対応する新科目の授業に出席することにより、旧科目の単位を修得するための措置である。

登録は旧科目で行うが、授業実態は新科目である。試験やレポート、掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。

成績は旧科目で記録される。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生 必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

- ここにいう「外国人留学生」とは、外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
- 外国人留学生は、「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」4単位を必修とする。
- 外国人留学生の場合は、外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし、英語の必修8単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし、他の外国語科目を修得した場合は、外国語科目区分のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入することができる。不足する8単位分については、区分外領域で充足しなければならない。したがって、区分外領域は、18単位＋8単位＝26単位修得しなければならない。
- 「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」は、外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修 2単位 以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位数に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A、B」

1年次に指定されたクラスで履修すること。

卒業論文（8単位）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
卒業論文	8	通4	4	必修	

履修上の注意

- 卒業論文を履修するためには下記の科目に合格していなければならない。
3年次設置の実験・実習科目10単位中6単位以上修得済で、かつ、総単位数96単位以上修得済のこと。
- 卒業論文は食物栄養科学科系の卒業論文を履修しなければならない。（人間生活学科系の卒業論文を履修することはできない。）
なお、履修者数の関係で希望する担当者を選択できないことがある。
- 卒業論文は卒業論文発表会でその要旨を各人が口頭で発表しなければならない。
- 卒業論文は指導教員に提出するものとする。

カリキュラム

生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻

(2010年度以降入学生適用)

カリキュラム

生活科学部

食物栄養科学科

管理栄養士専攻

(2010年度以降入学生適用)

生活科学部は人間生活学科と食物栄養科学科の2学科からなり、食物栄養科学科には更に食物科学専攻と管理栄養士専攻が設置されている。管理栄養士専攻では、主に自然科学的手法を用いて実践的、総合的な教育研究を行い、病院、福祉施設、学校、行政、企業などで活躍できる人材を育成することを教育目標としている。

管理栄養士専攻では、バランス良くカリキュラムを配置することを特徴としている。栄養と食のための基礎科学として、解剖生理学、生化学、基礎栄養学、臨床病態学等を通して身体の仕組みを理解する。さらに、公衆栄養学、公衆衛生学等を通して社会・環境と健康との関わりについて学び、食品学、調理科学等を通して食べ物・食事と健康との関連について理解する。人の健康（疾病）に関わる分野では、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育論、給食経営管理論等を通して実践のための学問を学ぶ。これらの学問体系を通して、医療現場だけでなく、広く福祉、学校、行政、企業などでも活躍できる管理栄養士の養成を目指している。

管理栄養士専攻のカリキュラムは栄養士法に則って構成されている。まず、1年次では、導入科目とその後の専門教育につなげるため基礎的な科目を配置している。2～3年次では、より専門的な講義科目と実験・実習科目を設置し、それらの学習を通して管理栄養士に必要な専門知識と応用力を習得する。実験科目については、生物、化学の基礎実験から食品加工学実験まで、また実習科目については、調理実習から100食を提供する給食経営管理実習ならびに臨床栄養学実習まで、すべてを必修で履修する。その上で、病院、保健所、福祉施設、事業所などでおこなう校外・臨地実習において実地的な管理栄養士業務の体験学習を行う。4年次にはそれらの集大成として1年間を通じて卒業研究に取り組み、論文にまとめて発表する。

管理栄養士専攻では、卒業に必要なすべての科目を修得すれば、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）、社会福祉主事（任用資格）が得られる。更に必要な科目を修得すれば栄養教諭一種免許を取得することができる。また、全学的に置かれている自由選択科目を修得することで、博物館学芸員や図書館司書、学校図書館司書教諭免許を取得することも可能である。

管理栄養士専攻は設置50周年を迎えました
人々の健康と、疾病の予防・治療に貢献できる管理栄養士へ

積み上げてきた歴史とともに新たな50年へ向けて、栄養と食を通じて人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士を養成します。

CURRICULUM / カリキュラム

保健・医療・福祉・教育行政等多く分野で、
人々の生活の質の向上に貢献できるプロフェッショナル

管理栄養士国家試験合格

卒業研究

病院・福祉施設・保健所での臨地・校外実習

栄養と食の
プロになる
心構えを学ぶ

総合演習

特別講義

社会・環境に
関わる
栄養と食

公衆栄養学

公衆衛生学

食べ物を
ベースとした
栄養と食

食品学

調理科学

人の健康(疾病)に
関わる栄養と食

臨床栄養学

応用栄養学

栄養教育論

給食経営管理論

栄養と食のための基礎科学

解剖生理学

生化学

基礎栄養学

臨床病態学

生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻 科目配置表<2010年度以降入学生>
開講期は年度によって異なります。

＜凡例＞

1. 必・選択の●は必修を、◎又はA、B、C、などは、選択必修グループを表す。
2. 共通・選修科目、キリスト教・同志社関係科目、外国語科目、外国語科目、スポーツ・健康科目については、カリキュラム表を参照。
3. [] 内の科目は、再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻 卒業必要単位（2010年度以降入学生適用）						
科目区分		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目	講義	必修 2 単位				4 単位
	実験実習	必修 2 単位				
入門・概論科目		必修 2 単位				2 単位
応用・各論科目	講義	必修 14単位	必修 26単位	必修 21単位	必修 4 単位	88単位
	実験実習	必修 2 単位	必修21単位 （ただし、臨地実習のうち 1 単位については、配当先により選択必修となる。）			
共通学芸科目		※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位
キリスト教・同志社関係科目	必修 4 単位					6 単位
	選択必修 2 単位					
外国語科目		必修 4 単位	必修 4 単位			8 単位
スポーツ・健康科目		選択必修 2 単位				2 単位
卒業論文						0 単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						120単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						18単位
卒業に必要な単位						138単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞ 各科目区分ごとに、上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また、科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないで注意すること。
いずれの科目区分においても、選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞ 最低18単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1. 各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位 (オーバー単位)
2. 同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3. 金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4. 大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5. 奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6. 放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞ 総計138単位以上
注) 自由選択科目は、卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞ 1 年次は年間49単位 (1 学期間の上限は28単位)、2～4 年次は各学期28単位
ただし、以下の科目は含まない。
1. 他大学等の単位互換科目
2. 文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3. 校外実習及び臨地実習の科目計 4 単位
4. 教職に関する科目 (共通学芸科目区分に置かれている科目を除く)
5. 自由選択科目
6. 次の科目

京都の文化に触れる A	海外事情 (アメリカ)	メディア創造系海外事情 A	インターンシップ
京都の文化に触れる B	海外事情 (イギリス)	メディア創造系海外事情 B	インターンシップ I A
京都の文化に触れる C	海外事情 (ニュージーランド)	海外事情 (アジアと女性)	インターンシップ I B
京都の文化に触れる D	海外事情 (中国)	海外こども事情 A	インターンシップ II
京都の文化に触れる E	海外事情 (カナダ)	海外こども事情 B	
近代日本と同志社 D			

生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻 カリキュラム表（2010年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低4単位以上）

講義					
授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
栄養素の化学	2	春2	1	必修	
選択					
生物の基礎	2	春2	1	選択	
化学の基礎	2	春2	1	選択	
情報処理Ⅰ	2	秋2	1	選択	
情報処理Ⅱ	2	春2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

実験実習

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
生物学実験B	1	春3	2	必修	
化学実験B	1	春3	2	必修	

入門・概論科目（2単位）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
社会福祉学B	2	秋2	2	必修	

履修上の注意

入門・概論科目は必修である。

応用・各論科目（最低88単位以上）

講義					
授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
生化学Ⅰ	2	秋2	1	必修	
解剖生理学Ⅰ	2	春2	1	必修	
基礎栄養学Ⅰ	2	秋2	1	必修	
解剖生理学Ⅱ	2	秋2	1	必修	
食品学総論	2	秋2	1	必修	
調理科学	2	春2	1	必修	
給食経営管理論Ⅰ	2	秋2	1	必修	
生化学Ⅱ	2	春2	2	必修	
基礎栄養学Ⅱ	2	春2	2	必修	
応用栄養学Ⅰ	2	春2	2	必修	
給食経営管理論Ⅱ	2	春2	2	必修	
臨床栄養学Ⅰ	2	春2	2	必修	
臨床病態学Ⅰ	2	春2	2	必修	
臨床病態学Ⅱ	2	秋2	2	必修	
食品学各論	2	春2	2	必修	
応用栄養学Ⅱ	2	秋2	2	必修	
食品衛生学B	2	秋2	2	必修	
食品加工学	2	秋2	2	必修	
臨床栄養学Ⅱ	2	秋2	2	必修	
公衆衛生学Ⅰ	2	春2	2	必修	
臨床栄養学Ⅲ	2	春2	3	必修	
臨床栄養学Ⅳ	2	秋2	3	必修	
公衆栄養学Ⅰ	2	春2	3	必修	
公衆栄養学Ⅱ	2	秋2	3	必修	
公衆衛生学Ⅱ	2	秋2	3	必修	
栄養教育論Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用栄養学Ⅲ	2	秋2	3	必修	
臨床病態学Ⅲ	2	春2	3	必修	
栄養教育論Ⅱ	2	秋2	3	必修	
総合演習A	2	半2	3	必修	
総合演習B	1	秋1	3	必修	
栄養教育論Ⅲ	2	春2	4	必修	
卒業演習	2	秋2	4	必修	
選択					
薬物学	2	春2	3	選択	欠講
学校栄養教育論Ⅰ	2	春2	3	選択	
学校栄養教育論Ⅱ	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

1. 「学校栄養教育論Ⅰ，Ⅱ」
栄養教諭課程履修者以外は履修しないこと。

実験実習						
授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考	
必修						
調理科学実習Ⅰ	1	春3	1	必修		
調理科学実習Ⅱ	1	秋3	1	必修		
食事計画実習	1	秋3	2	必修		
解剖生理学実験	1	半3	2-3	必修		
公衆衛生学実習A	1	半3	2-3	必修		
公衆衛生学実習B	1	半3	2-3	必修		
生化学実験	2	半6	2-3	必修		
基礎栄養学実験	1	半3	2-3	必修		
食品学実験	1	半3	3	必修		
食品加工学実験	1	半3	3	必修		
臨床栄養学実習A	2	半6	3	必修		
臨床栄養学実習B	1	半3	3	必修		
臨床病態学実習	1	半3	3	必修		
応用栄養学実習	1	半3	3	必修		
栄養教育実習	1	半3	3	必修		
給食経営管理実習(学内実習)	1	春3	3	必修		
公衆栄養学実習(学内実習)	1	半3	3	必修		
校外実習・臨地実習（4単位）						
給食の運営(校外実習)	1	半3	3	必修		
臨床栄養学実習Ⅰ(臨地実習)	1	半3	3	必修		
公衆栄養学実習(臨地実習)	1	半3	4	必修		
臨床栄養学実習Ⅱ(臨地実習)	1	半3	3	選択必修	どちらか	18科目
給食経営管理実習(臨地実習)	1	半3	3	1単位		

履修上の注意（応用各論科目・実験実習）

「解剖生理学実験」、「公衆衛生学実習A、B」、「生化学実験」、「基礎栄養学実験」は、履修年次・期間がクラスによって異なる。

校外実習・臨地実習科目について

1. 校外実習・臨地実習の必要単位数は4単位である。
「臨床栄養学実習Ⅱ（臨地実習）」、「給食経営管理実習（臨地実習）」についてはどちらか1科目のみを履修する。
2. 校外実習及び臨地実習の実習先は「総合演習B」の授業の中で決定されるので、校外実習・臨地実習科目について履修登録をする必要はない。なお、実習先の定員等の関係により希望する実習先を選択できないことがある。
3. 病院で実習するためには、「臨床栄養学Ⅰ」「臨床病態学Ⅰ」を修得済で、かつ、「臨床栄養学Ⅱ」、「臨床病態学Ⅱ」を修得済又は履修中でなければならない。
4. 病院で行われる実習は2週間とする。そのうち1週間は「臨床栄養学実習Ⅰ（臨地実習）」の科目であり、もう1週間は「臨床栄養学実習Ⅱ（臨地実習）」又は「給食経営管理実習（臨地実習）」のいずれか1科目に該当する。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について、履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
調理科学実習Ⅱ	「調理科学実習Ⅰ」を履修済のこと。

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学A	2	半2	1		
哲学B	2	半2	1		
西洋の思想A	2	半2	1		
西洋の思想B	2	半2	1		
日本の思想A	2	半2	1		
日本の思想B	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学A	2	半2	1		
心理学B	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論A	2	半2	1		
国際関係論B	2	半2	1		
国際社会と経済A	2	半2	1		
国際社会と経済B	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会A	2	半2	1		
人間と社会B	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論A	2	半2	1		
マスコミュニケーション論B	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性A	2	半2	1		
外国文学と女性B	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化A	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化B	2	半2	1		
中国文化研究A	2	半2	1	欠講	
中国文化研究B	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化A	2	半2	1		
日本の歴史と文化B	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学A
文化人類学B	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究A	2	半2	1		
アメリカ地域研究B	2	半2	1		
アジア地域研究A	2	半2	1		
アジア地域研究B	2	半2	1		
日本古典芸能A	2	半2	1		
日本古典芸能B	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化A	2	半2	1		
京都の文化B	2	半2	1		
京都の文化C	2	半2	1		
京都の文化D	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるA	2	半2	2		
京都の文化に触れるB	2	半2	2		
京都の文化に触れるC	2	半2	2		
京都の文化に触れるD	2	半2	2		
京都の文化に触れるE	2	半2	2		
京都の歴史A	2	半2	1		
京都の歴史B	2	半2	1		

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育原理・学校教育論	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情(アメリカ)	4	春2	1		
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情(カナダ)	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies A	2	秋2	1		
Japan Studies B	2	秋2	1		
Japan Studies C	2	秋2	1		
Japan Studies D	2	秋2	1		
Japan Studies E	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップⅠA	1	通1	2		
インターンシップⅠB	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目(単位認定の頁を参照)					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか、他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため、登録の際は必ず確認すること。なお、他キャンパス開講クラスも履修可能であるが、移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示されている科目については、開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」

大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップⅠA、ⅠB」

選考は4月下旬に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるA～E」

集中講義で実施する。

日程等は登録配布資料（3月下旬発表）で確認すること。

「京都の文化A～D」の集中講義クラスの単位を2012年度以前に修得済の場合、対応する「京都の文化に触れるA～D」は履修できない。
また、「京都の文化D（大学コンソーシアム）」は2014年度より「京都の文化に触れるE」に変更している。
「京都の文化D（大学コンソーシアム）」の単位を修得済の場合、修得した単位は有効だが、「京都の文化に触れるE」は履修できない。

「海外事情」

海外研修プログラムに基づく科目で、夏期又は春期休暇中約3～4週間の海外での研修が含まれる。

選考は5月(夏期)、10月(春期)に行われ、選考に合格した学生のみ履修できる。ただし、春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は、卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は、中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies A～E」

交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化、日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（5月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」

開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生生活とキャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」

「Ⅰ」は1年次生を、「Ⅱ」「Ⅲ」は2年次生を主たる対象とする。

「大学生生活とキャリアデザイン」の単位を修得済の場合は、開講科目表備考欄に注意すること。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書 A	2	春2	1	必修	
聖書 B	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史 A	2	半2	1	選択必修 2単位 以上	
キリスト教の歴史 B	2	半2	1		
キリスト教の歴史 C	2	半2	1		
キリスト教文化論 A	2	半2	1		
キリスト教文化論 B	2	半2	1		
キリスト教文化論 C	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 A	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 B	2	半2	1		
キリスト教世界の探求 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 A	2	半2	1		
近代日本と同志社 B	2	半2	1		
近代日本と同志社 C	2	半2	1		
近代日本と同志社 D	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については、年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
英語（2018年度以前入学生適用）					
英語講読Ⅰ A	1	春2	1	必修	読替
英語講読Ⅰ B	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠ A	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠ B	1	秋2	1	必修	読替
英語講読Ⅱ A	1	春2	2	必修	読替
英語講読Ⅱ B	1	秋2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡ A	1	春2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡ B	1	秋2	2	必修	読替
英語（2019年度以降入学生適用）					
Comprehensive EnglishⅠ	1	春2	1	必修	
Comprehensive EnglishⅡ	1	秋2	1	必修	
Communication in EnglishⅠ	1	春2	1	必修	
Communication in EnglishⅡ	1	秋2	1	必修	
Comprehensive EnglishⅢ	1	春2	2	必修	
Comprehensive EnglishⅣ	1	秋2	2	必修	
Communication in EnglishⅢ	1	春2	2	必修	
Communication in EnglishⅣ	1	秋2	2	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択	
初級中国語演習	2	秋4	1	選択	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級中国語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級中国語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ハンガール					
初級ハンガール基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハンガール基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハンガール演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハンガール演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハンガールⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハンガールⅡ	1	秋2	2	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハンガール学修Ⅰ	2			選択	
ハンガール学修Ⅱ	2			選択	
ハンガール学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad: EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad: EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad: EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad: EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad: EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad: EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad: EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

- 必修科目としての英語を除く選択科目の履修方法
 - 1 年次では同時に複数の外国語を履修することはできない。
 - 2 年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。その際クラスの指定はない。
 - 選択科目は中級から履修を始めることもできる。
 - 京田辺キャンパスで開講されるラビート科目を選択科目として履修することができる。
ラビート科目の履修には前年度秋学期の適性検査と予備登録が必要。
 - 選択科目として修得した単位は、外国語科目のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

2. 全般事項

- 1, 2 年次の英語必修科目は、習熟度別クラス編成になっているので、指定されたクラスを履修すること。なお、再履修となる場合、クラスの指定はない。
- 特定の言語に履修希望者が集中した場合、希望する言語を履修できないことがある。
- 他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが、クラスが指定されている場合はこの限りでない。
- 「Study Abroad: English I～VII」は、国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については、カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive EnglishⅠ
英語講読ⅠB	1	Comprehensive EnglishⅡ
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in EnglishⅠ
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in EnglishⅡ
英語講読ⅡA	1	Comprehensive EnglishⅢ
英語講読ⅡB	1	Comprehensive EnglishⅣ
英語コミュニケーションⅡA	1	Communication in EnglishⅢ
英語コミュニケーションⅡB	1	Communication in EnglishⅣ

読替措置は、カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し、対応する新科目の授業に出席することにより、旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが、授業実態は新科目である。試験やレポート、掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生 必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

- ここにいう「外国人留学生」とは、外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
- 外国人留学生は、「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」4単位を必修とする。
- 外国人留学生の場合は、外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし、英語の必修8単位を適用しない。
ただし、他の外国語科目を修得した場合は、外国語科目区分のオーバー単位として、区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。
不足する8単位分については、区分外領域で充足しなければならない。
したがって、区分外領域は、18単位＋4単位＝22単位修得しなければならない。
- 「総合日本語・日本事情Ⅰ、Ⅱ」は、外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修 2単位 以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は、区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A、B」
1 年次に指定されたクラスで履修すること。

卒業論文（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
選択					
卒業論文	8	通4	4	選択	

履修上の注意

- 卒業論文を履修するためには下記の科目に合格していなければならない。2 年次秋学期から 3 年次設置の実験・実習科目 17 単位（校外実習および臨地実習は除く）中 10 単位以上を修得済で、かつ、総単位数 104 単位以上修得済のこと。
- 卒業論文は食物栄養科学科系の卒業論文を履修しなければならない。（人間生活学系科系の卒業論文を履修することはできない。）
なお、履修者数の関係で希望する担当者を選択できないこともある。
- 卒業論文は卒業論文発表会でその要旨を各人が口頭で発表しなければならない。
- 卒業論文は指導教員に提出するものとする。
- 最低単位数の設定はないが、修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

自由選択科目（卒業に必要な単位に参入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間 時間	履修可能 最低年次	履修方法	備考
自由選択					
教職特別演習Ⅰ	2	半2	3	自由選択	
教職特別演習Ⅱ	2	半2	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は、卒業に必要な単位に算入できない。

他学科科目一覧表

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

共通学芸科目(他学科科目)

履修上の注意

- 各学科・専攻より、共通学芸科目として履修可能な科目が多数提供されている。修得した単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入される。
- 学生の所属学部・学科・専攻により履修可能な他学科科目は異なる。この表に掲載されている履修可能科目のみ履修することができる。
- 他学科科目の履修は、科目提供学科等の教育に支障のない範囲において認められるもので、履修登録者が多数となり授業実施に支障が出る場合は、他学科生の履修が認められないことがある。
- 上級年次の科目は履修できない。
- 科目の開講期は開講科目表で確認すること。また、科目は欠講になることがある。
- 廃止科目の修得単位は、共通学芸科目区分の単位として有効。
- 以下の科目は社会システム学科、人間生活学科より同じ科目が提供されている。重複して履修することはできないので注意すること。

【重複履修できない科目】 社会心理学概論、社会心理学、現代青年の心理と行動、情報社会心理学、ジェンダーの社会心理学

科目	備考	単位	履修 年次	○	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
音楽学科科目															
音楽通史A		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽通史B		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミュージックセラピー概論	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽療法概論	「ミュージックセラピー概論」を修得済みの場合履修不可	2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アニメ・ゲーム音楽A	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
アニメ・ゲーム音楽B	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
アニメ音楽	「アニメ・ゲーム音楽A」を修得済みの場合履修不可	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゲーム音楽	「アニメ・ゲーム音楽B」を修得済みの場合履修不可	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
音楽心理学		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽社会学		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史(古典派)		2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史(ロマン派)		2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史学	廃止(2014年度以前に修得した単位は有効)	2	2	—	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
音楽の史学	「音楽史学」を修得済の場合履修不可	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本の音楽	「日本音楽」を修得済の場合履修不可	2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ポピュラーミュージックA		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ポピュラーミュージックB		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
映画・舞台音楽		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
民族の音楽	「民族音楽」を修得済の場合履修不可	2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コンピュータ音楽演習		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
コンピュータミュージック演習A		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
コンピュータミュージック演習B		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ミュージックマネジメントA	「音楽マネジメント論」を修得済の場合履修不可	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史(中世からバロック)		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史(近・現代)		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽の美学	「音楽美学」を修得済の場合履修不可	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
比較音楽文化学Ⅰ	廃止(2015年度以前に修得した単位は有効)	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
比較音楽文化学Ⅱ	廃止(2015年度以前に修得した単位は有効)	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジャズミュージック		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロックミュージック		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コンピュータミュージック演習C		2	3	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
コンピュータミュージック演習D		2	3	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
メディア創造学科／情報メディア学科科目															
情報倫理		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
知覚メディアの心理学		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
映像論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
映像表現論	「映像論」を修得済の場合履修不可	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マルチメディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
造形論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代美術演習	「造形論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市メディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディアエンターテインメント論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディアエンターテインメント論	「メディアエンターテインメント論」を修得済の場合履修不可	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア社会学		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルメディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グラフィックデザイン論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報数学		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報メディア系海外事情	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア創造系海外事情	廃止(2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア創造系海外事情A	2021年度欠講	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア創造系海外事情B	「メディア創造系海外事情」「情報メディア系海外事情」を修得済の場合履修不可	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テクノロジーと社会		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディアアート論	「メディア・アート論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロダクトデザイン論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エクスぺリエンスデザイン演習	「プロダクトデザイン論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンターテインメント産業論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンターテインメント産業論	「エンターテインメント産業論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報産業研究	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ITビジネス研究	「情報産業研究」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジャーナリズム論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マンガ文化論A		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マンガ文化論B		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広告プランニング		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア教育論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒューマンインタフェース論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代美術論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コミュニケーション論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
写真文化論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
写真表現論	「写真文化論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア文化史		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
映画・放送番組制作論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報ビジネス起業論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

他学科科目一覧表
 〈○：履修可能な科目，×：履修できない科目，－：自学科科目〉

科目	備考	単位	履修 年次	O	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
マネージメント研究		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストラテジー研究A		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストラテジー研究B	2021年度欠講	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報サービス論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
図書館サービス概論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西洋美術表現論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代哲学・メディア思想		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバルエンターテインメント論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽エンターテインメント産業論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報メディア心理学	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教とメディア		2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代マスコミュニケーション論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報サービス演習A		2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報サービス演習B		2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際教養学科科目															
Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む現代日本文学	「Japanese & Comparative Literature／日本文学と外国文学」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美	「Japanese Traditional Arts／日本の伝統芸能」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史	「Historical View of Britain／イギリス史」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
History of North America／北米史	「Historical View of North America／北米史」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Business／国際ビジネス概論	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Business／国際ビジネス論	「International Business／国際ビジネス概論」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Global Education／国際教育概論	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Global Education／国際教育論	「Global Education／国際教育概論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Intercultural Communication and Language Education／異文化間コミュニケーションと外国語教育	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Relations in East Asia／東アジア国際関係論		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Introduction to Linguistics／言語学概論		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
English Phonetics／英語音声学		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Childhood in Japan／日本のこども文化	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Christianity in the World／キリスト教と世界		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学	「English and American Literature／英米文学論」を修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Tourism Studies／国際観光概論	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Tourism Studies／国際観光論	「Tourism Studies／国際観光概論」を修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Theory and History of Film／映画の理論と歴史	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Japanese Film Studies／日本映画研究	「Theory and History of Film／映画の理論と歴史」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Minority and Traditional Arts／マイノリティと伝統芸能	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Business Theories and Practice／ビジネス理論と実践	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Advanced North American Studies／北米研究		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Comparative Religious Studies／比較宗教論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Advanced British Studies／イギリス研究		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Cultural Issues in Japan／日本の文化		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Political Issues in Japan／日本の政治		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Social Issues in Japan／日本の社会		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Minority and Japanese Society／マイノリティと日本社会		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Inbound Tourism／インバウンド観光論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Journalism／国際ジャーナリズム論	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Media Studies／国際メディア論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Sociolinguistics／社会言語学		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Language Teaching Methodology／言語教育方法論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Bilingualism／バイリンガリズム論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Asian Culture／アジア文化論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Gender Studies／国際ジェンダー論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Leadership Theories and Practice／リーダーシップ理論と実践	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	4	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Global Leadership／グローバルリーダーシップ論	「Leadership Theories and Practice／リーダーシップ理論と実践」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Applied Linguistics and Language Education／応用言語学と言語教育	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	4	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Issues in International Development／国際開発論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会システム学科科目															
社会学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
倫理学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
法学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
文化人類学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際関係概論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
教育学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
情報学概論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
情報学	「情報学概論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経済学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
比較文化概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
政治学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会心理学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	×	○	○
地域観光学概論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教学概論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経営学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Conversational English I	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	1	1	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Conversational English II	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	1	1	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	○	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
人文地理学概論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
海外事情(アジアと女性)	2021年度欠講	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法Ⅱ	「財産法Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
金融取引と法	2021年度欠講(「財産法Ⅱ」を修得済の場合履修不可)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際法	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法総論	「刑法Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法各論	「刑法Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
商法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑事訴訟法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際関係史		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際政治学	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
安全保障論	「国際政治学」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際紛争論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
外交論	「国際紛争論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際教育論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
東洋の歴史Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
東洋の歴史Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
キリスト教文化史	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教と世界史	「キリスト教文化史」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化論Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化論	「京都文化論Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化論Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都伝統芸能論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古典籍の世界Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化資料論	「古典籍の世界Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古典籍の世界Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ホスピタリティマネジメント論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光交通論	廃止(2014年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○
観光社会論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光文化論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光資源論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光経営論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光地域事業論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光地理論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
余暇スポーツ論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
レジャースポーツ論	「余暇スポーツ論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
ウエルネスライフ論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
生涯学習論		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
現代青年の心理と行動		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	×	○	○
生命の倫理		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
ジェンダー論		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
女性史		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
女性とリーダーシップ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教と人間		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代社会と犯罪		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際企業論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際金融論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
環境経済論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
都市経済論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
会計学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
マーケティング論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
広告論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会情報論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパ地域文化論Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパ地域文化論Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光論Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光論	「京都観光論Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光論Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
高齢者心理学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
生涯発達心理学		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
Tourism, Culture, and TechnologyⅠ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Tourism, Culture, and TechnologyⅡ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
こどもと法	「こどもと人権」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
情報ネットワーク基礎		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会保障論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
近世京都の美術Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都の美術史	「近世京都の美術Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
近世京都の美術Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
証券キャピタルマーケット論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アジア太平洋地域発展論	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アメリカ地域文化論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
英米文化論Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
英米文化論Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパの人と社会	2021年度欠講	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパの人と文化	2021年度欠講	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
女性と社会保障		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
心理臨床学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
対人関係心理学		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
財政学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
金融論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
保険論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際社会と公共政策		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, -:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	○	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
女性企業家論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
流通論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Conversational English III	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	1	2	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Conversational English IV	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	1	2	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
京都・大阪・奈良の歴史地理	「京都・大阪の歴史地理」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
女性と法	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ジェンダー法	「女性と法」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会福祉論		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
経済学ステップアップ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経済政策論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
簿記論Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
簿記論Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
原価計算		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際ビジネスコミュニケーション論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法特講Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法Ⅰ	「憲法特講Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法特講Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法Ⅱ	「憲法特講Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民事訴訟法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
行政法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
労働法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
家族法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
オセアニア地域文化論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
史跡・文化財論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都の文化財論	「史跡・文化財論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
人的資源論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
キャリア形成論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
コミュニティマネジメント論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
カルチュラルスタディーズ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
エスニシティ論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代社会と宗教		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ビジネス統計・数学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経営学ステップアップ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地方行政論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
World Affairs I		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
World Affairs II		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
公共政策		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
公共哲学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
リスクマネジメント論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
AIの社会実装		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際環境政策論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ディスクロージャー論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
家庭生活と法	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
家族法の重要問題	「家庭生活と法」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経済と法	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
税金と法		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際社会協力論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際社会協力政策論	「国際社会協力論」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際機構論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国連政策論	「国際機構論」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際文化交流史	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際交流史	「国際文化交流史」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地理学Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地理学	「地理学Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地理学Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
まちづくりの地理学	「地理学Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古代京都の社会Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都の社会史	「古代京都の社会Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古代京都の社会Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
都市政策論	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地誌学Ⅰ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地誌学Ⅱ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
日本の歴史Ⅰ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
日本の歴史Ⅱ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光マーケティング論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光イノベーション論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際観光論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ホスピタリティ産業論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
情報社会心理学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	×	○	○
音楽療法	2021年度欠講	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
障害学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会保障と法		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ケアの人間学	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
カウンセリング論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代教育学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際流通論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経営哲学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
財務諸表論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
知的財産権法	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際取引と法	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
異文化理解Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
異文化理解	「異文化理解Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
異文化理解Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アジア地域文化論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アジアとグローバルイズム	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバル社会論	「アジアとグローバルイズム」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	○	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
ネットビジネス論	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ベンチャービジネス論	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ジェンダーの社会心理学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	×	○	○
家族臨床心理学		2	3	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
国際ビジネス論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Conversational Skills I	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	1	3	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Conversational Skills II	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	1	3	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Academic Studies in English I(A)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(A)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(B)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(B)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(C)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(C)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(D)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(D)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(E)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(E)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(F)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(F)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(G)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(G)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(H)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(H)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(I)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(I)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English I(J)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English II(J)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代政治学	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代の政治	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会倫理学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
企業の社会的責任	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法特講Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法の重要問題	「刑法特講Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法特講Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑事司法の重要問題	「刑法特講Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法特講Ⅰ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
物権法の重要問題	2021年度欠講(「民法特講Ⅰ」を修得済の場合履修不可)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法特講Ⅱ	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
債権法の重要問題	2021年度欠講(「民法特講Ⅱ」を修得済の場合履修不可)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
公務員と法		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
企業と法	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際紛争と法	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
考古学Ⅰ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
考古学Ⅱ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
移民難民論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会政策		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会安全政策論	2021年度欠講	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
日本経済史		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ITとベンチャービジネス		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
AI実践演習		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館資料論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館展示論	2012年度以降入学生に適用	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館資料保存論	2012年度以降入学生に適用	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館経営論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館教育論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館情報・メディア論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代こども学科科目															
地球環境論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
異文化体験論		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
こどもと風俗		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
現代アニメ研究		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
遊びの社会学		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
数の社会学		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
児童文化論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
こどもスポーツ論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
幼児・児童教育論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
教育の歴史		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
遊びと論理的思考		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
ボランティア活動論		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
自然環境体験論	2021年度欠講	2	2	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
国際スポーツ文化論		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
海外こども事情A		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
海外こども事情B	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
こども福祉論	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
こども家庭福祉	「こども福祉論」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
地域社会とこども		2	2	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
ユニセフとこども支援		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
多文化共生とこども		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
こども英語論		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
世界の貧困問題とこども支援		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
教育評価論		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
世界のこども政策		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
家族社会論		2	3	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
こどもの医療		2	3	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
児童文学論		2	3	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	O	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
現代社会論		2	3	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
医療薬学科科目															
臨床医学入門		2	1	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
健康科学概論	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
医療・薬物治療概論	廃止(2018年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
看護学科科目															
体のしくみ		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
基盤病理学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
微生物学・免疫学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
基礎栄養学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
基礎薬理学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
看護学概論		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
外科疾病・治療学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
内科疾病・治療学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
こころのしくみと保健医療		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
成育医療学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
疫学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
公衆衛生学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
看護と法律		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
健康心理学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
成人看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
精神看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
母子保健看護概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
高齢者看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
公衆衛生看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
家族関係論		2	3	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
保健医療システム論		2	3	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
英語英文学科科目															
TOEIC演習 I		2	1	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×	×	×
TOEIC演習 II		2	1	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×	×	×
英語音声学 I		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語音声学 II		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEIC800 I		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEIC800 II		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL初級 I	廃止(2015年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL初級 II	廃止(2015年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL中級 I	廃止(2015年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL中級 II	廃止(2015年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS初級 I	「TOEFL初級 I」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS初級 II	「TOEFL初級 II」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS中級 I	「TOEFL中級 I」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS中級 II	「TOEFL中級 II」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化入門		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化入門		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
言語コミュニケーション入門 I		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
言語コミュニケーション入門 II		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語で読む日本昔話		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で読む京都印象記		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
舞台芸術文化論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京ことば		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京都文化概論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
メディアと表象文化		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
Topics in English A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English C	2021年度欠講	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English D		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English E		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English F	2021年度欠講	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English G		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文学史		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文学史		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化研究		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化研究		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語学概論 I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語学概論 II		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
外国語教育論 I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
外国語教育論 II		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
アメリカの表象文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリスの表象文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカの社会と文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリスの社会と文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
翻訳法 I		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
翻訳法 II		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Presentation Skills I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Presentation Skills II		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English C		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English D		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English E		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English F		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English G	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English H	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	○	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
Studies in English I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English J		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English K	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English L	廃止 (2015年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English M	廃止 (2015年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ファンタジーの系譜 I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ファンタジーの系譜 II		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ジェンダーとコミュニケーション		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
プラクティカルコミュニケーション		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
コーパス言語学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
教育メディア学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ラテン語 I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ラテン語 II	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語で案内する京都 I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で案内する京都 II		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で読む日本文学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
翻訳法 III		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
翻訳法 IV		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
通訳法 I		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
通訳法 II		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
社会と外国語教育 A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
CALL English I		2	3	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×	×	×
ビジネスイングリッシュ I		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ビジネスイングリッシュ II		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
エアラインイングリッシュ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
セクレタリーイングリッシュ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
メディアイングリッシュ I	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
メディアイングリッシュ II	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Research in English (Literature・Culture) B	廃止 (2015年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Research in English (Linguistics) A	廃止 (2015年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English C		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English D		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English E	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English F		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English G		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English I H	廃止 (2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English II H	廃止 (2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English H	Advanced Studies in English I H修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English I		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English J		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English K	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English L	Advanced Studies in English II H修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化・文学研究 A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化・文学研究 B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化・文学研究 A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化・文学研究 B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
比較文化・文学研究 A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
比較文化・文学研究 B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
社会言語学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
応用言語学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
児童英語教育法 I		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
児童英語教育法 II		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
第二言語習得論 I		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
第二言語習得論 II		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
社会と外国語教育 B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日英対照言語研究 A	廃止 (2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日英対照言語研究 B	廃止 (2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日英対照言語研究	「日英対照言語研究 A」を修得済の場合は履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京都の中の外国文化		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
源氏物語と京都		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
プロフェッショナル翻訳法		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
プロフェッショナル通訳法		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Presentation I		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Presentation II		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
日本語日本文学科科目															
日本語学の世界		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
創作 A	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
創作 B	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
クリエイティブ・ライティング A	「創作 A」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
クリエイティブ・ライティング B	「創作 B」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本近代文学史 A	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本近代文学史 B	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学史 A	「日本近代文学史 A」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学史 B	「日本近代文学史 B」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本古典文学史 A	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本古典文学史 B	廃止 (2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学史 A	「日本古典文学史 A」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学史 B	「日本古典文学史 B」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学 A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学 B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典芸能 A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典芸能 B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
言語学概説 A	廃止 (2019年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	○	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
言語学概説B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
言語学	「言語学概説A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
身体表現Ⅰ	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
身体表現	「身体表現Ⅰ」又は「身体表現Ⅱ」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
英語で読む日本昔話		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で読む京都印象記		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
舞台芸術文化論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京ことば		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日本文学の世界		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育概説	「日本語教育の世界」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
京都文化概論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
メディアと表象文化		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
演劇と演技Ⅰ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
演劇と演技Ⅱ	「演劇と演技Ⅰ」を履修中又は履修済であること。	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化史A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化史B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学基礎研究A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学基礎研究B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究C	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究D	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究E	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究F	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義A	「作家研究A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義B	「作家研究B」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義C	「作家研究C」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義D	「作家研究D」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近代文学特論A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近代文学特論B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究C	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究D	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
上代文献講読A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
上代文献講読B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読A	「上代文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
平安文献講読A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
平安文献講読B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読B	「平安文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
中世文献講読A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
中世文献講読B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読C	「中世文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近世文献講読A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近世文献講読B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読D	「近世文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学特論A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学特論B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読E	「漢文学特論A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の変化A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の変化B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の歴史	「日本語の変化B」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造A(文法Ⅰ)	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造B(文法Ⅱ)	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造C(語彙Ⅰ)	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造D(語彙Ⅱ)	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造E(音声Ⅰ)	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造F(音声Ⅱ)	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造G(表記)	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の文法Ⅰ	「日本語の構造A(文法Ⅰ)」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の文法Ⅱ	「日本語の構造B(文法Ⅱ)」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の語彙Ⅰ	「日本語の構造C(語彙Ⅰ)」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の語彙Ⅱ	「日本語の構造D(語彙Ⅱ)」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の音声	「日本語の構造E(音声Ⅰ)」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の表記	「日本語の構造G(表記)」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の運用A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の運用B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の運用	「日本語の運用A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究C		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究D	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究E	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究F	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育文法A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育文法B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育史		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本事情と日本語教育Ⅰ	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本事情と日本語教育Ⅱ	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化と日本語教育	「日本事情と日本語教育Ⅰ」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
身体表現Ⅱ	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
外国語教育論Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	○	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
外国語教育論Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で案内する京都Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で案内する京都Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で読む日本文学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日本語教材論A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教材論B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
コースデザイン論	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
教室活動論A	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
教室活動論B	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
社会と外国語教育A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日本語教授法A	「教室活動論A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教授法B	「教室活動論B」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本民俗学A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本民俗学B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化講義A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化講義B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化講義C		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化講義D		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
出版文化A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
出版文化B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化研究A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化研究B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化研究C		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化研究D		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
特殊講義A(上代文学)	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
特殊講義B(平安文学)	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
特殊講義C(中世文学)	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
特殊講義D(近世文学)	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
特殊講義E(古典語学)	廃止(2016年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
特殊講義F(漢文学)	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学研究A	「特殊講義A(上代文学)」を修得済の場合は履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学研究B	「特殊講義B(平安文学)」を修得済の場合は履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
書誌学A	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
書誌学B	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日英対照言語研究A	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日英対照言語研究B	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日中対照言語研究A	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日中対照言語研究B	廃止(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日英対照言語研究	「日英対照言語研究A」を修得済の場合は履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日中対照言語研究	「日中対照言語研究A」を修得済の場合は履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語指導A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語指導B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
社会と外国語教育B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
アナウンス論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
源氏物語と京都		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
京都の中の外国文化		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学研究A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学研究B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学研究C		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学研究D		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
人間生活学科科目															
児童学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
住生活学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×	○
食生活学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×	×
社会心理学		2	2	○	○	○	×	×	○	○	○	○	—	○	○
くらしの経済学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
社会福祉学A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	×
生活と環境	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
まちづくり概論	「生活と環境」を修得済の場合履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
家庭機械および電気		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×	○
流通経済と消費	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
消費者問題論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
自然環境論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
経済と環境		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
服装情報論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
被服造形論	「服装情報論」を修得済の場合履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
服飾文化史		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活文化史		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
インテリアデザイン論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活健康学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
介護概論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
環境教育論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
対人関係心理学	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	×	×	○	○	○	○	—	○	○
コミュニティ社会心理学	「対人関係心理学」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
現代青年の心理と行動		2	2	○	○	○	×	×	○	○	○	○	—	○	○
居住環境学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
世界の子どもたち		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
いのちと倫理		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
児童文化と伝統		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
児童文化と映像		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
子ども心理学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
親子関係の心理学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
音楽社会心理学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
くらしのための技術と工芸		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活様式と住空間	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
住文化史		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
世界の社会福祉		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○

他学科科目一覧表
 (○:履修可能な科目, ×:履修できない科目, —:自学科科目)

科目	備考	単位	履修 年次	O	MS J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
子ども家庭危機支援論	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
児童福祉論	「子ども家庭危機支援論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
住まいづくりの基礎		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
住まいの安全工学	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
安全・安心のまちづくり	「住まいの安全工学」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
被服製作実習(平面構成)	「被服製作実習基礎Ⅰ」を履修済であること。	1	2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×
ファッションと社会		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
都市空間論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
地域遺産論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
ライフプランニング	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のためのライフプランニング	「ライフプランニング」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
環境政策学	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
景観デザイン学	「環境政策学」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
環境生態学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
国際生活文化論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活美術史		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
服飾デザイン論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
服飾材料・整理学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活科学実験		1	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	○	○
家庭看護学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活と法	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のための法律入門	2021年度欠講(「生活と法」を修得済の場合履修不可)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
食物栄養学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×	×
消費者教育論	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
情報社会心理学		2	3	○	○	○	×	×	○	○	○	○	—	○	○
ジェンダーの社会心理学		2	3	○	○	○	×	×	○	○	○	○	—	○	○
死生学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
青年と社会	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のためのカウンセリング入門	「青年と社会」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
ファミリーセラピー		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
こころと生活	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のための生涯発達論	「こころと生活」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
衣生活学実験	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	1	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	○	○
ボランティア・NPO活動論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
ユニバーサルデザイン論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
京と女性の住生活史	廃止(2017年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
京と女性の住生活	「京と女性の住生活史」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
空間情報学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
食物栄養科学科 食物科学専攻科目															
有機化学	廃止(2018年度以前に修得した単位は有効)	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
基礎統計学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食物学のための数学と物理		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
被服学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	—	○
保育学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
生活経済学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品化学Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品化学Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
生化学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
栄養学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品微生物学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品衛生学A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品物性学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
家庭経営学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	—	○
運動健康論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
調理科学Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
調理科学Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品分析化学	廃止(2019年度以前に修得した単位は有効)	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
京の食材論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
フードシステム開発論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品加工貯蔵学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品バイオテクノロジー		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品官能評価論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品流通論	提供取止め(2020年度以前に修得した単位は有効)	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
公衆衛生学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
応用栄養学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食文化論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食と健康管理		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品機能学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食の認知行動学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食物栄養科学科 管理栄養士専攻科目															
薬物学	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

研究教育活動

教職課程センター

全学レベルで教職を目指す学生への様々なサポートをするため、京田辺・今出川両キャンパスに教職課程センター事務局・資料室を設置しています。

本センターでは、実践力のある教員養成を支援するとともに、教員採用試験合格に向けた指導も実施しています。具体的なサポート内容は、次のとおりです。真剣に教職に就くことを考えている学生は、是非とも教職課程センターを訪ねてください。

- ①教職に就くための各種相談受付と対応・指導
- ②最新の教員採用選考試験情報の提供
- ③関西を中心に過去の教員採用選考試験及び関連資料の提供
- ④小・中・高等学校での学校ボランティア、幼稚園・保育所（園）でのボランティアの活動申込
- ⑤教職課程研究会の開催

夏期休暇期間中及び春期休暇期間中に1～2日間の集中講座（教職教養，一般教養，集団討論など）を実施しています。その他，各学期期間中は，教員採用試験合格を目指す3・4年次生を対象に授業科目として「教職特別演習Ⅰ，Ⅱ」を開講しています。

学 会

生活科学会

本学会は同志社女子大学生活科学部の学生，生活科学研究科学生，卒業生，専任教員を正会員とし，生活科学に関する研究及び会員相互の親睦を主な目的とする。

1. 毎年1回総会を開催している。また，総会終了後生活科学に関する内外の著名な研究者を招き講演会を開いている。
2. 年間1～2回，学外の工場，研究所など生活科学に関係する施設を見学する。また随時，個別テーマごとの研究会を開いている。
3. 毎年1回，2月に会員の研究成果を内容とする会誌『同志社女子大学生活科学』を発行している。
4. 同志社女子大学生活科学会奨学金を本学部の学生又は大学院生に給付している。
5. 会員に対して年1回『生活科学会通信』を発行している。

諸規程

同志社女子大学学則

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本学は、教育基本法に基づき、学校教育法の定める大学として学術の教授研究を行うとともに、キリスト教の精神にしたがい、円満な人格を涵養し、国際的視野に立って建設的に、かつ責任をもって生活し得る女性を育成することを目的とする。

(自己点検・評価等)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検及び評価に関する規程は、別に定める。

3 本学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

(情報の公表)

第2条の2 本学は教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

(教育研究上の目的)

第2条の3 本学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部、学科又は専攻ごとに〔別表1〕のとおり定めるものとする。

(本学の性格)

第3条 本学の性格は、リベラル・アーツ (Liberal Arts) の大学として規定する。

第2章 学部学科等の組織及び学生定員

(学部学科等の組織及び学生定員)

第4条 本学に次の学部を置く。

学芸学部、現代社会学部、薬学部、看護学部、表象文化学部、生活科学部

2 前項の各学部に置く学科、専攻及びその学生定員は次の表のとおりとする。

学 部	学 科 等	入 学 定 員	編入学定員 (第3年次)	収 容 定 員
学芸学部	音楽学科演奏専攻	75名	—	300名
	音楽学科音楽文化専攻	40名	—	160名
	メディア創造学科	125名	—	500名
	国際教養学科	85名	—	340名
現代社会学部	社会システム学科	310名	—	1,240名
	現代こども学科	100名	—	400名
薬学部	医療薬学科	125名	—	750名
看護学部	看護学科	90名	—	360名
表象文化学部	英語英文学科	150名	—	600名
	日本語日本文学科	120名	—	480名
生活科学部	人間生活学科	90名	—	360名
	食物栄養科学科			
	食物科学専攻	60名	—	240名
	食物栄養科学科			
	管理栄養士専攻	80名	—	320名

(専攻科)

第4条の2 本学に音楽専攻科を置く。

2 音楽専攻科の学生定員は次のとおりとする。

音楽専攻科 入学定員 20名

収容定員 20名

3 音楽専攻科に関して必要な事項については、別に定める。

(大学院)

第5条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

（学 年）

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

（学 期）

第7条 学年を春学期、秋学期の2学期に分ける。なお、期間については、別に定める本学の学年暦による。

2 1年間の授業は原則として35週にわたり行うものとする。ただし、定期試験等の期間を含む。

（休業日）

第8条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 「国民の祝日に関する法律」に定める日
 - (3) 創立記念日 11月29日
 - (4) キリスト降誕日（クリスマス）12月25日
 - (5) 春期、夏期及び冬期休業に関しては、別に定める本学の学年暦による。
- 2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業その他を行うことがある。また、休業日は臨時に定めることができる。

第4章 修業年限及び在学年限

（修業年限）

第9条 学部修業年限は4年とする。

ただし、薬学部の修業年限は6年とする。

（在学年限）

第10条 学芸学部、現代社会学部、看護学部、表象文化学部及び生活科学部の在学年限は8年を超えることができない。

ただし、第17条の規定により編入学した学生は、4年を超えて在学することができない。

また、第17条の2の規定により転入学した学生は、6年を超えて在学することができない。

2 薬学部の在学年限は12年を超えることができない。

第5章 入 学

（入学の時期）

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

ただし、再入学については、学期の始めとすることができる。

（入学の資格）

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校卒業生
- (2) 中等教育学校卒業生
- (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めたもの
- (5) 大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者

（入学の出願）

第13条 入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて出願しなければならない。

（入学者の選考）

第14条 前条の入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行い、教授会の議を経て学長が合格者を決定する。

（入学手続及び入学許可）

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、保証書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の学費を納入しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（保証人）

第16条 保証人は親権者（親権者のない者はこれに代わる者）とする。保証人は、当該学生在学中、本人にかかわる一切の件につき責任を負う。

2 保証人が転籍、転居したときは、直ちにその旨を届け出なければならない。保証人が死亡した時又はその資格を失った時は、新たに保証人を定めて保証書を提出しなければならない。

第6章 編入学・転入学・再入学及び転学部転学科等

（編入学）

第17条 編入学志願者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が第3年次に編入学を許可する。

2 前項の規定により入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

(4) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3 第1項により編入学した場合の単位の認定については、既修単位の一部又は全部について行う。

（転入学）

第17条の2 転入学志願者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が第2年次に転入学を許可することがある。

2 前項の規定により入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学又は短期大学に1年以上在学し、所定の単位を修得した者

(2) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3 第1項により転入学した場合の単位の認定については、既修単位の一部又は全部について行う。

（再入学）

第18条 再入学を志願する者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することがある。ただし、通算して所定の在学年限を超える場合は、志願することができない。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い等については、教授会の議を経て学長が決定する。

（編入学・転入学及び再入学の入学手続等）

第19条 編入学・転入学及び再入学の入学手続等については、第13条、第15条第1項及び第16条を適用する。

（転学部・転学科等）

第20条 所属する学部学科等から他の学部学科等に転じることを志願する者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長がこれを許可することがある。

2 転学部・転学科等に関する必要事項は、別に定める。

第7章 休学・復学・退学・除籍及び留学

（休学）

第21条 疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとする者は、保証人連署の上、所定の期日までに学長に願い出て、その許可を得なければならない。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

（休学期間及び復学）

第22条 休学期間は半年又は1年とする。

2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は、第10条の在学年限に算入しない。

4 休学期間中にその事由が消滅した場合は、保証人連署の上、学長に願い出て、その許可を得て学期始めから復学することができる。

（退学）

第23条 退学しようとする者は、保証人連署の上、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（除籍）

第24条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

(1) 第10条に定める在学年限を超えた者

- (2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
- (3) 第22条第2項に定める休学期間を超えてなお復学できない者

(留 学)

第25条 本学が定める他の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は、第9条及び第10条の定める修業年限及び在学年限に含めることができる。

留学に関する取扱いは、別に定める。

第8章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第26条 各学部教育課程は、〔別表1〕のとおりとする。

- 2 授業科目は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 3 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 4 本学は、第2項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(単位計算方法)

第27条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(学習の評価)

第28条 学習評価は、原則として各科目につき試験により行う。

- 2 学習の評価は100点法とし、60点以上を合格とする。また、秀、優、良、可等の評語をもって表わす。

(成績評価基準等の明示等)

第28条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

- 2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

(単位の授与)

第29条 授業科目を履修し、合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 第26条第3項の授業の方法により修得することができる単位は60単位を超えないものとする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修)

第30条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学した場合に準用する。

- 3 前2項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

第30条の2 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、第30条第1項及び第2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第31条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、第30条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えない範囲で、単位を認定することができる。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第32条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学入学以前に大学又は短期大学において修得した単位、及び短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修については、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

- 2 前項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学・転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第30条第1項及び第2項、第30条の2第1項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学で修得した単位の場合にも準用する。
- 4 前3項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

（教育職員免許状の授与の所要資格取得）

第33条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める科目、及び〔別表2〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

- 2 本学の学部・学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は次の表のとおりとする。

学 部	学 科 等	教 員 の 免 許 状 の 種 類
学芸学部	音楽学科	中学校教諭一種免許状（音楽）
	演奏専攻	高等学校教諭一種免許状（音楽）
	音楽学科	中学校教諭一種免許状（音楽）
	音楽文化専攻	高等学校教諭一種免許状（音楽）
	メディア創造学科	高等学校教諭一種免許状（情報）
現代社会学部	社会システム学科	中学校教諭一種免許状（社会）
		高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
		高等学校教諭一種免許状（公民）
	現代こども学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状
表象文化学部	英語英文学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
生活科学部	人間生活学科	中学校教諭一種免許状（家庭）
		高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科	中学校教諭一種免許状（家庭）
	食物科学専攻	高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	栄養教諭一種免許状

（学校図書館司書教諭の資格取得）

第33条の2 司書教諭の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める小学校、中学校若しくは高等学校の教諭の教育職員免許状授与の所要資格を取得するために必要な単位を修得するとともに、〔別表2〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（司書の所要資格取得）

第33条の3 司書の所要資格を取得しようとする者は、図書館法及び図書館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

（博物館学芸員の資格取得）

第33条の4 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び博物館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

（栄養士免許状の授与の所要資格及び管理栄養士国家試験受験資格の取得）

第34条 栄養士の免許授与の所要資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、栄養士法及び栄養士法施行規則に定める科目の単位を修得しなければならない。

- 2 管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得）

第35条 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単

位を修得しなければならない。

（保育士の資格取得）

第35条の2 保育士の資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお、保育士養成課程の履修については別に定める。

（看護師国家試験受験資格取得）

第35条の3 看護師国家試験受験資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表1〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（保健師国家試験受験資格取得）

第35条の4 保健師国家試験受験資格を取得しようとする者は、第36条の規定によるほか、〔別表2〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な事項は、別に定める。

第9章 卒業及び学位

（卒業の要件）

第36条 本学学芸学部、現代社会学部、看護学部、表象文化学部、生活科学部を卒業するためには、4年以上在学し、〔別表1〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 本学薬学部を卒業するためには6年以上在学し、〔別表1〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。なお、進級制限に関する基準は別に定める。

3 他学部、他学科、他専攻科目及び他の大学又は短期大学との単位互換により修得した科目の単位は、卒業必要単位に算入することができる。必要な事項については、別に定める。

（学位の授与）

第37条 本学を卒業した者には、次の区分により、学士の学位を授与する。

学 部	学 科 等	学 位
学芸学部	音楽学科演奏専攻	学士（音楽）
	音楽学科音楽文化専攻	学士（音楽）
	メディア創造学科	学士（メディア創造）
	国際教養学科	学士（国際教養学）
現代社会学部	社会システム学科	学士（社会システム）
	現代こども学科	学士（現代社会）
薬学部	医療薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
表象文化学部	英語英文学科	学士（文学）
	日本語日本文学科	学士（文学）
生活科学部	人間生活学科	学士（生活科学）
	食物栄養科学科 食物科学専攻	学士（生活科学）
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	学士（生活科学）

第10章 教職員組織

（教職員組織）

第38条 本学に学長を置く。

2 学長は校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

第38条の2 本学に学部長を置く。

2 学部長は学部に関する校務をつかさどる。

第38条の3 本学に教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

第38条の4 本学にその事務を遂行するため職員を置く。

第38条の5 本学は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

（教員の職務）

第39条 教授、准教授、講師及び助教は、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

2 教授、准教授、専任講師、助教は、授業科目の選択等に関し、アドバイザーとして学生の指導に当たるほか、課外活動の各分野に対し指導助言の責任を分担する。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第39条の2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第11章 教授会及び評議会

(教授会)

第40条 本学に教授会を置く。

2 教授会は教授をもって構成する。ただし、必要に応じて准教授、専任講師及び助教を加えることができる。

3 教授会は次に定める事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

4 教授会は前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(評議会)

第41条 本学に評議会を置く。

2 評議会は次の各号に掲げる評議員をもって構成する。

(1) 学長

(2) 部長、研究科長、学科主任

(3) 教授会から選出された教授6名(各学部1名)

3 評議会は学長の諮問に応じて次の事項を審議する。

(1) 重要な制度及び規則の制定改廃に関する事項

(2) 予算に関する事項

(3) 重要な施設の設置廃止に関する事項

(4) 人事に関する事項

(5) 各学部その他の連絡調整に関する事項

(6) その他、大学の運営に関する重要事項

第12章 名誉教授

(名誉教授)

第42条 本学において多年勤務し、教育上又は学術上功績のあった者には名誉教授の称号を授与することができる。

名誉教授に関する規程は、別に定める。

第13章 賞 罰

(表 彰)

第43条 本学の学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰することができる。

(懲 戒)

第44条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力が極めて劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第14章 科目等履修生・聴講生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第45条 本学学生以外の者で、1又は複数の授業科目を履修することを志願する者に対しては、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、科目開設学部の学部長、教務部長の承認を経て科目等履修生として学長が履修を許可することができる。

2 科目等履修生には、合格した科目については当該科目の単位を授与する。

3 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

（聴講生）

第46条 本学学生以外の者で、1又は複数の授業科目を聴講することを志願する者に対しては、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、科目開設学部の学部長、教務部長の承認を経て学長が聴講を許可することができる。

2 聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生）

第47条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者に対しては、選考の上、教授会の議を経て学長が外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 学費及び入学検定料

（学費の納入）

第48条 学生は、〔別表3〕に定める学費を指定期日までに納入しなければならない。ただし、別に定めるところにより分納することができる。

2 休学期間中は、休学在籍料のみを納入するものとする。

3 既に納入した学費は返還しない。ただし、指定期日までに入学手続の取消を願い出た者については、入学金を除く学費を返還することがある。

（学費の延納）

第49条 正当な事由により、学費を延納しなければならなくなった場合は、直ちにその旨を届け出て許可を得なければならない。

（学費の完納）

第50条 所定の学費を完納しなければ、卒業することができない。

（退学・停学の場合の学費）

第51条 学期の途中で退学する者の当該学期分の学費は全額徴収する。

2 停学期間中の学費は全額徴収する。

（入学検定料）

第52条 本学の入学検定料は、〔別表4〕のとおりとする。

第16章 附属施設

（研究教育施設）

第53条 本学は、図書館等必要な研究教育施設を置く。

2 各研究教育施設の規則は、別に定める。

（学 寮）

第54条 本学に学寮を置く。

2 学寮に関する規則は、別に定める。

（厚生施設）

第55条 本学は、保健室等必要な厚生施設を置く。

第17章 公開講座

（公開講座）

第56条 学生及び社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

附 則

本学則は2002（平成14）年4月1日からこれを適用する。

本学学芸学部英文学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず1994（平成6）年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

本学家政学部家政学科、食物学科食物学専攻及び食物学科管理栄養士専攻は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず1995（平成7）年3月31日に当該学部等に在学する者が当該学部等に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

2000（平成12）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1—2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1―2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

第4条の規定にかかわらず、1992（平成4）年度から1999（平成11）年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科 等	入学定員 (1992（平成4）年度～ 1997（平成9）年度)	入学定員 (1998（平成10）年度～ 1999（平成11）年度)
学芸学部	英語英文学科	300名	300名
	日本語日本文学科	150	150
	音楽学科演奏専攻	85	85
	音楽学科音楽文化専攻	45	45
生活科学部	人間生活学科	100	100
	食物栄養科学科食物科学専攻	90	70
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	60	80
計		830	830

第4条の規定にかかわらず、2000（平成12）年度から2004（平成16）年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科 等	入 学 定 員				
		2000 (平成12)年度	2001 (平成13)年度	2002 (平成14)年度	2003 (平成15)年度	2004 (平成16)年度
学芸学部	英語英文学科	295名	290名	210名	205名	200名
	日本語日本文学科	187	184	136	133	130
	音楽学科演奏専攻	89	85	82	78	75
	音楽学科音楽文化専攻	46	45	43	42	40
現代社会学部	社会システム学科	400	400	400	400	400
生活科学部	人間生活学科	96	92	88	84	80
	食物栄養科学科食物科学専攻	67	64	61	58	55
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	80	80	80	80	80

第7条第1項の規定にかかわらず、2002（平成14）年度については、次のとおりとする。

春学期 4月1日から9月29日まで

秋学期 9月30日から翌年3月31日まで

附 則

本学則は2003（平成15）年4月1日からこれを適用する。

第7条第1項の規定にかかわらず、2003（平成15）年度については、次のとおりとする。

春学期 4月1日から9月28日まで

秋学期 9月29日から翌年3月31日まで

〔別表1〕の規定にかかわらず、生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻に2001（平成13）年度以前に入学した学生の教育課程及び履修方法は、従前の学則によるものとする。

2003（平成15）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。ただし、休学在籍料については、2003（平成15）年度以降在学の学生に適用する。

附 則

本学則は2004（平成16）年4月1日からこれを適用する。

2004（平成16）年3月31日において、本学に在籍する者の学習の評価に関しては、改正後の学則第28条第2項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2005（平成17）年4月1日からこれを適用する。

2005（平成17）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2006（平成18）年4月1日からこれを適用する。

2006（平成18）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

2006（平成18）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2007（平成19）年4月1日からこれを適用する。

2007（平成19）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

2007（平成19）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2008（平成20）年4月1日からこれを適用する。

2008（平成20）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2009（平成21）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2009（平成21）年度入学生から適用し、2008（平成20）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2010（平成22）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2010（平成22）年度入学生から適用し、2009（平成21）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2011（平成23）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2011（平成23）年度入学生から適用し、2010（平成22）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2012（平成24）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2012（平成24）年度入学生から適用し、2011（平成23）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2013（平成25）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2013（平成25）年度入学生から適用し、2012（平成24）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2014（平成26）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2014（平成26）年度入学生から適用し、2013（平成25）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2015（平成27）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2015（平成27）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2016（平成28）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2016（平成28）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表

1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2017（平成29）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2017（平成29）年度入学生から適用し、2016（平成28）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2018（平成30）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2018（平成30）年度入学生から適用し、2017（平成29）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

第4条第2項、第33条第2項及び第37条は、学芸学部情報メディア学科の学芸学部メディア創造学科への名称変更により改正・施行する。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては、改正後の学則第26条第1項のほか、〔別表1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年3月31日において、本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては、改正後の学則第33条第1項のほか、〔別表1－2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2019（平成31）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2019（平成31）年度入学生から適用し、2018（平成30）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2019（平成31）年3月31日において、本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては、改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず、従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2020（令和2）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2020（令和2）年度入学生から適用し、2019（令和元）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2020（令和2）年9月1日からこれを適用する。

2018（平成30）年度及び2019（令和元）年度入学生のうち、2020（令和2）年度において、別に定める国際教養留学の前提条件を満たす者の教育課程の取扱いに関しては、学則第26条第1項のほか、〔別表1－3〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附 則

本学則は2021（令和3）年4月1日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては、2021（令和3）年度入学生から適用し、2020（令和2）年度以前の入学生は、別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

1949（昭和24）年2月21日 文部省認可

同志社女子大学学位規則

（目 的）

第1条 この規則は、学校教育法第104条及び学位規則（昭和28年文部省令第9号）の定めるところにより同志社女子大学（以下「本学」という。）が、授与する学位についての必要事項を定めるものとする。

（学 位）

第2条 本学において授与する学位は学士、修士及び博士とする。学士の学位は次の区分による。

学士の学位……学士（音楽、メディア創造、国際教養学、社会システム、現代社会、薬学、看護学、文学、生活科学）

2 前項に定める修士及び博士の学位は、次の区分による。

修士の学位……修士（英語英文学、日本語日本文化、情報文化、国際社会システム、看護学、生活デザイン、食物栄養科学）

博士の学位……博士（英語英文学、日本語日本文化、薬学、看護学）

（学位授与の要件）

第3条 学士の学位は本学学部を卒業した者に授与する。

第4条 修士の学位は本大学院の修士課程又は博士課程（前期）を修了した者に授与する。

第5条 博士の学位は本大学院の博士課程（後期）及び博士課程を修了した者に授与する。

2 本大学院学則第14条第2項の定めるところにより、博士の学位は前項に規定する者のほか、本学に博士論文を提出してその審査に合格し、かつ本大学院の博士課程（後期）及び博士課程修了者と同等以上の学力があると認められたときは授与することができる。

（学位論文の提出）

第6条 修士又は博士論文（以下「学位論文」という）を提出しようとする者は、学位論文の研究課題を各研究科によって定められた期日までに所定の様式により研究科長に提出し、その承認を得なければならない。

2 所定の学費が未納の場合は、学位論文を提出することができない。

3 修士論文は、在学中に提出しなければならない。

4 博士論文は、退学後も提出できるものとする。

第7条 学位論文は、各研究科所定の用紙を用い、学年暦に示された期日までに研究科長に提出しなければならない。ただし、第5条第2項による博士論文提出者はこの限りではない。

2 学位論文は3部提出し、それぞれに要旨及び提出者の写真を添付しなければならない。

3 第5条第2項により博士の学位を申請する者は、学位申請書に博士論文3部、博士論文の要旨、参考文献、履歴書と別表に定める審査手数料を添えて審査にあたる研究科委員会を通じて学長に提出するものとする。

4 本大学院学則第11条第3項、第4項に定める期間以上（前期2年の課程又は修士課程を含む）本大学院に在学し所定の単位を修め、必要な研究指導を受けた上で退学した者が博士の学位を申請した場合は前項の規定による。

（学位論文の審査及び最終試験）

第8条 修士論文の審査及び最終試験は在学中に終了するものとする。

2 博士論文の審査は、論文を受理してから原則として1年以内に終了するものとする。

第9条 学位論文の審査は、研究科委員会の定める審査委員会がこれを行う。

2 審査委員会は、修士論文審査の場合は主査1名及び副査1名をもって構成する。

3 審査委員会は、博士論文審査の場合は主査1名及び副査2名をもって構成する。

4 研究科委員会は、審査のため必要と認めたときは、当該研究科教員以外の教員又は学外の大学院・研究所等の教員等を審査委員とすることができる。

第10条 審査委員会は学位論文審査及び最終試験を行う。

2 修士の学位の授与に係る最終試験は修士論文を中心とし、これに関連する科目について行う。この試験は口頭試問とする。ただし筆答試験を併せ行うことができる。

3 博士の学位の授与に係る最終試験は博士論文を中心とし、これに関連する科目〔外国語（英、仏、独、又は羅）を含めることができる〕について行う。

第11条 研究科委員会は、審査委員の報告に基づき、本大学院学則の定めるところにより課程修了の可否、学位論文及び最終試験の可否について議決する。

2 前項の議決は、研究科教授の3分の2以上の出席を必要とし、出席者の4分の3以上の賛成がなければならない。

第12条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、研究科長は、学位論文の内容、最終試験の結果、学位授与の可否についての意見を添えて、学長に報告しなければならない。

(学位論文の審査の協力)

第13条 前条の学位の授与に係る学位論文の審査に当っては、他の大学院又は、研究所等の教員の協力を得ることができる。

(学位授与の決定)

第14条 修士又は博士の学位の授与については、学長は、第12条の報告に基づいて大学院委員会を招集し、その審議を経て可否を決定する。

2 学士の学位の授与については、学長は、教授会の議を経て可否を決定する。

(学位授与式)

第15条 学位授与の時期は3月と9月とする。

(博士論文要旨等の公表)

第16条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を、インターネットの利用により公表するものとする。

(博士論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を、インターネットの利用により公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、大学院委員会の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前条及び前2項の規定によるインターネットの利用による公表は、同志社女子大学学術リポジトリにより行うものとする。

(博士論文の報告)

第18条 博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3月以内に別記様式により文部科学大臣に報告するものとする。

(学位論文の保管)

第19条 審査に合格した学位論文は、本大学院において製本・保管する。

2 これにかかる費用は、学位論文提出者において負担する。

(学位の取消)

第20条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、既に授与した学位を取消すものとする。

学位の授与を受けた者が、その名誉を汚辱する行為があったときは、その学位を取消すことができる。

(その他)

第21条 この規則以外のことは、各研究科の定めるところによる。

附 則

本規則は、2004（平成16）年4月1日からこれを適用する。

修士・博士の学位……修士（英文学）・博士（英文学）は改正後の学位規則第2条第2項の規定にかかわらず1998（平成10）年3月31日文学研究科英文学専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

学 士 の 学 位……学士（家政学）は改正後の学位規則第2条第1項の規定にかかわらず1995（平成7）年3月31日家政学部に在学する者が当該学部 に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

本規則は、2005（平成17）年4月1日からこれを適用する。

附 則

本規則は、2007（平成19）年4月1日からこれを適用する。

第6条に関する取扱いに関しては、2007年度第1年次入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、従前の学位規則による。

附 則

本規則は、2008（平成20）年4月1日からこれを適用する。

附 則

本規則は、2009（平成21）年4月1日からこれを適用する。

附 則

本規則は、2012（平成24）年4月1日からこれを適用する。

附 則

本規則は、2013（平成25）年4月1日からこれを適用する。

附 則

本規則は、2015（平成27）年4月1日からこれを適用する。

附 則

本規則は、2018（平成30）年4月1日からこれを適用する。

学士の学位……学士（情報メディア）は改正後の学位規則第2条第1項の規定にかかわらず2018（平成30）年3月31日学芸学部情報メディア学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

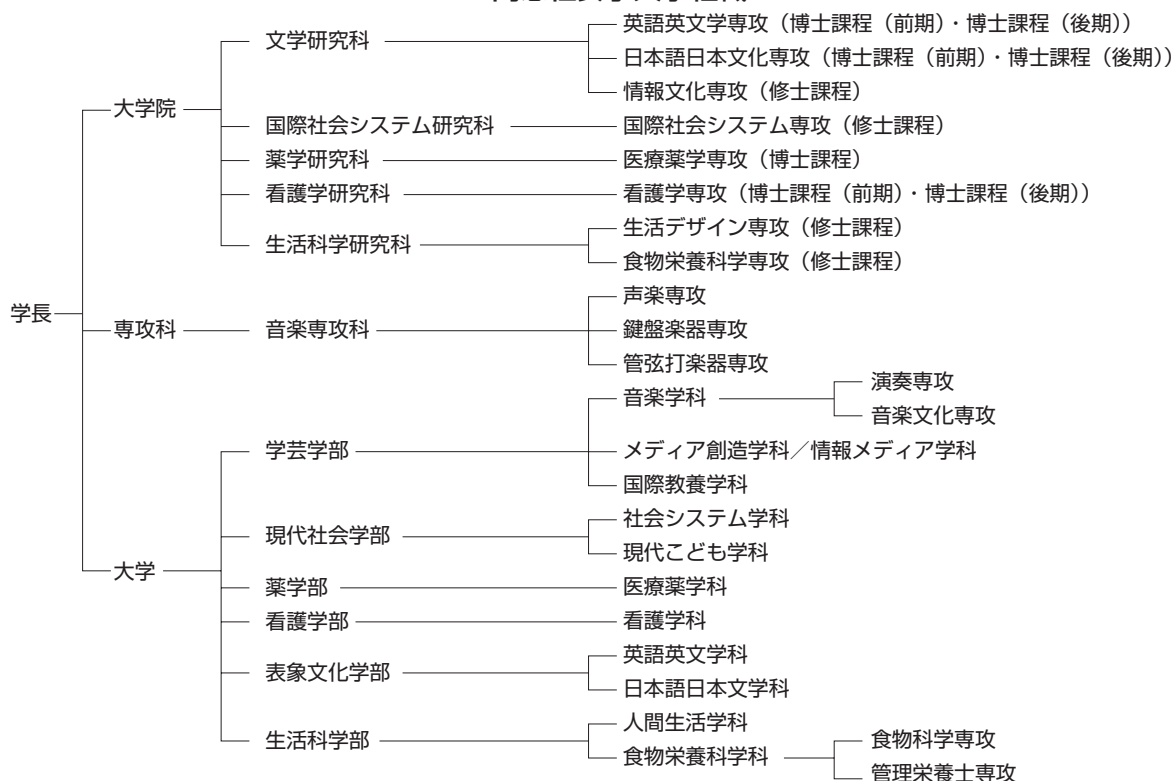
本規則は、2020（令和2）年4月1日からこれを適用する。

〈別 表〉博士の学位審査手数料

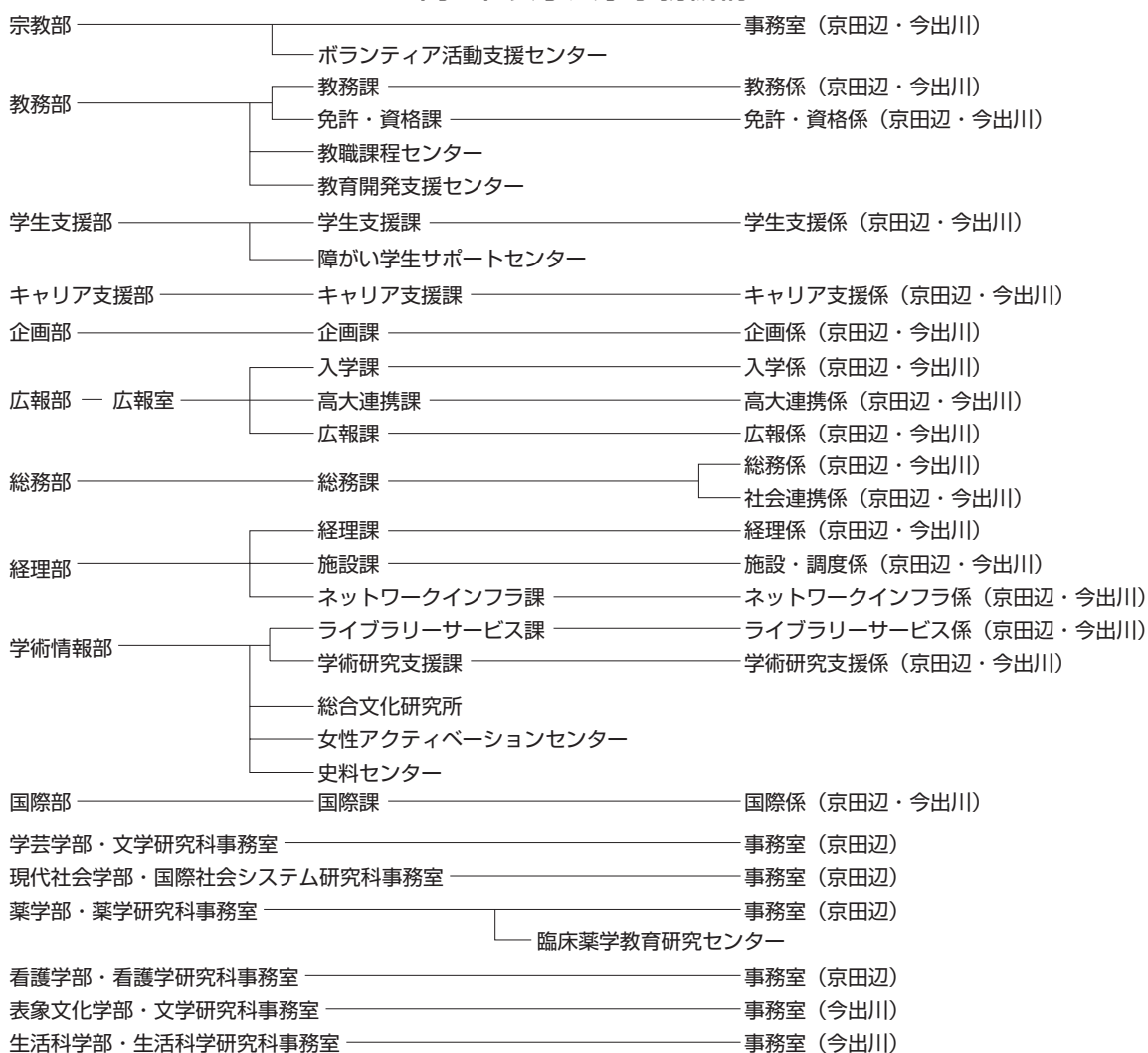
- | | |
|--|---------|
| 1. 博士課程(後期)に3年以上在学又は博士課程に4年以上在学し、所定の研究指導を受けた者で退学後3年未満の期間内に博士論文を提出する者 | 25,000円 |
| 1. 博士課程(後期)に3年以上在学又は博士課程に4年以上在学し、所定の研究指導を受けた者で退学後3年以上経過した後博士論文を提出する者 | 50,000円 |
| 1. 論文提出による者 | 50,000円 |
- 博士課程（後期）又は博士課程在籍者及び在籍中に博士論文を提出し退学した者は審査料不要

■ その他

同志社女子大学組織



同志社女子大学事務機構



事務室一覧

場 所					窓口受付時間	
京田辺キャンパス	宗教部		新島記念講堂	1 階	平日 9:00～17:00 (休憩 11:30～12:30) 土曜日は休務	
	教務部	教務課	友和館	2 階		
		体育事務室	恵真館	1 階		
		免許・資格課	友和館	2 階		
		教職課程センター	聡恵館	5 階		
		教育開発支援センター	友和館	2 階		
	学生支援部	学生支援課	友和館	1 階		
		保健室※	友和館	1 階		
		障がい学生サポートセンター	友和館	1 階		
	キャリア支援部	キャリア支援課	知徳館 8 号棟	1 階		
	企画部	企画課	知徳館 1 号棟	1 階		
	広報部	入学課	知徳館 2 号棟	1 階		
		高大連携課	知徳館 2 号棟	1 階		
		広報課	知徳館 2 号棟	1 階		
	総務部	総務課	知徳館 1 号棟	1 階		
	経理部	経理課	知徳館 5 号棟	1 階		
		施設課	知徳館 5 号棟	1 階		
		ネットワークインフラ課	知徳館 2 号棟	3 階		
	学術情報部	ライブラリーサービス課	聡恵館	1・2 階	平日 8:50～20:00, 土曜日 9:50～17:00 (授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00, 土曜日は閉館) 平日 8:50～19:00, 土曜日は休務 (授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00)	
		図書館				
		音楽文献室				
		AVライブラリー				
		学術研究支援課	知徳館 5 号棟	2 階		
	国際部	国際課	聡恵館	2 階		
	学部・研究科事務室	学芸学部	音楽学科	頌啓館		1 階
			メディア創造学科	知徳館 1 号棟		2 階
国際教養学科			知徳館 1 号棟	2 階		
現代社会学部		知徳館 1 号棟	2 階			
薬学部		憩水館	1 階			
看護学部		蒼苑館	2 階			
文学研究科		知徳館 1 号棟	2 階			
国際社会システム研究科		知徳館 1 号棟	2 階			
薬学研究科		憩水館	1 階			
看護学研究科		蒼苑館	2 階			
今出川キャンパス	宗教部		栄光館	1 階		平日 9:00～17:00 (休憩 11:30～12:30) 土曜日は休務
	教務部	教務課	頌美館	2 階		
		体育事務室	純正館	地下1 階		
		免許・資格課	頌美館	2 階		
		教職課程センター	楽真館	1 階		
		教育開発支援センター	頌美館	2 階		
	学生支援部	学生支援課	頌美館	1 階		
		保健室※	心和館	1 階		
		障がい学生サポートセンター	心和館	1 階		
	キャリア支援部	キャリア支援課	頌美館	1 階		
	企画部	企画課	心和館	1 階		
	広報部	入学課	ジェームズ館	1 階		
		高大連携課	ジェームズ館	1 階		
		広報課	ジェームズ館	1 階		
	総務部	総務課	栄光館	1 階		
	経理部	経理課	心和館	1 階		
		施設課	心和館	1 階		
		ネットワークインフラ課	純正館	2 階		
	学術情報部	ライブラリーサービス課	図書館		平日 8:50～20:00, 土曜日 9:50～17:00 (授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00, 土曜日は閉館) 平日 8:50～20:00, 土曜日 9:50～16:30 (授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00, 土曜日は閉館)	
		図書館				
		AV ライブラリー				
		学術研究支援課	デントン館	1 階		
	国際部	国際課	楽真館	1 階	平日 9:00～17:00 (休憩 11:30～12:30) 土曜日は休務	
	学部・研究科事務室	表象文化学部	デントン館	1 階		
		生活科学部	新心館	1 階		
		文学研究科	デントン館	1 階		
		生活科学研究科	新心館	1 階		

注) 休暇期間中や、特別の事情がある場合には時間が変更されることがありますので、注意してください。
 土曜日は年間を通じて一部の事務室を除き休務となります。また、日曜日・国民の祝日のほか、創立記念日（11月29日）、クリスマス（12月25日）も休務となります。

同志社女子大学 京田辺キャンパス

Y 友和館
創立125周年記念事業の一環として建設。地上4階、地下1階建の建物で、大時計を備えた尖塔を有します。ゆったりとした格調高いラウンジ、眺望の良い食堂、多目的スペース、課外活動のための諸施設、キャンパスストア、フックストア、事務室等があります。

C 知徳館
キャンパスの中央に位置する、4階建7棟続きの本学でもっとも大きな建物。講義、演習室を中心に、研究室、ラウンジ、事務室等があります。

K 演習館
4階建の音楽棟。34室のレッスン室、55室の練習室をはじめ演習室、分奏室、アンサンブル室などがあります。東京のサントリーホールを手がけた建築事務所の設計によるホールでは、素晴らしい音響効果のなか、演奏会等が行われています。

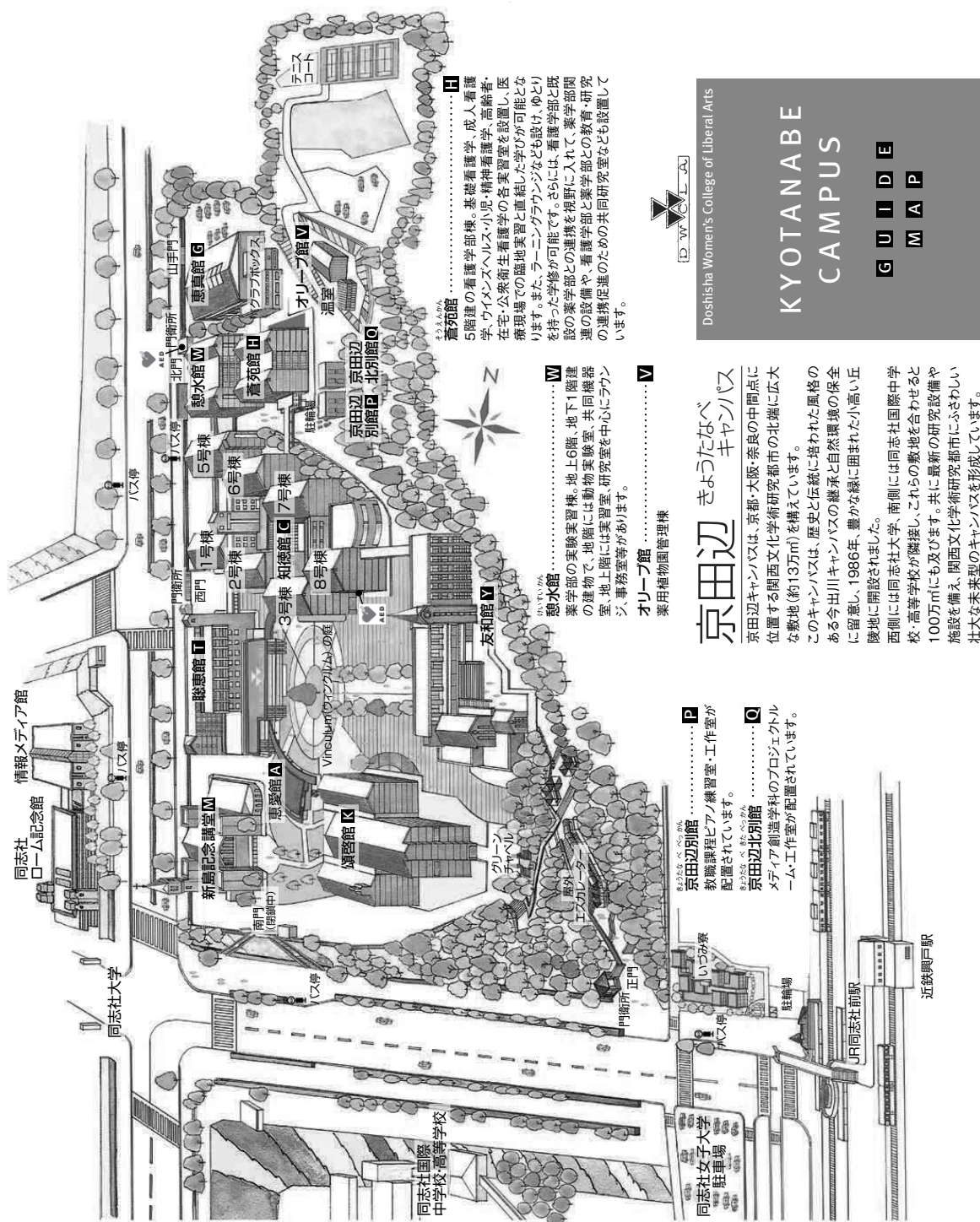
I 総務館
1階と2階は東館と西館がつながった形の図書館とラーニングコモンズ、国際交流施設。学生の能動的学習の拠点。東館2～4階が講義室・事務室、5階は研修室・ラウンジ。6階は研究室・演習室が配置されています。西館の3階・4階は講義室および演習室がならび、5階には教職課程センターや演習室、実習室があります。

A 恵愛館
ウィングルムの庭中央に位置し、緑に囲まれ、多様な家具が配置された風格ある食堂。

G 恵真館(体育館)
3階建、一部地下式の体育館。メインアリーナを中心に、卓球室、格技ダンス室、トレーニング室、測定室、リハビリテーション室等があります。また、体育系・文化系のクラブボックスも設けられています。

M 新島記念講堂
同志社創立111周年祭付により1988年秋に建設された、法人全体の共通施設。カリヨンペルを備えた尖塔には十字架がそびえ、豪麗的な建物となっています。内部には、バイブオルガンが設置された約900名収容の大ホール、小ホール、礼拝堂、瞑想室、宗教部事務室等があり、毎日の礼拝をはじめ各種行事が催されます。

●アルファベットは各館の略号を表します。



京田辺 きょうたなべ キャンパス

京田辺キャンパスは、京都・大阪・奈良の中間点に位置する関西文化学術研究都市の北端に広大な敷地(約13万㎡)を構えています。

このキャンパスは、歴史と伝統に培われた風格のある今出川キャンパスの継承と自然環境の保全に留意し、1986年、豊かな緑に囲まれた小高い丘陵地に開設されました。

西側には同志社大学、南側には同志社国際中学校・高等学校が隣接し、これらの敷地を合わせると100万㎡にも及びます。共に最新の研究設備や施設を備え、関西文化学術研究都市にふさわしい、新たな未来型のキャンパスを形成しています。



Doshisha Women's College of Liberal Arts

KYOTANABE
CAMPUS

G U I D E
M A P

(2020年4月現在)

交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講について

◎交通機関不通による休講

対象となる交通機関（イ）が、（ロ）の状況の場合は、（ハ）の通り休講となります。

（イ）対象となる交通機関	（ロ）状況
・近鉄電車（京都～奈良間、西大寺～難波間） ・阪急電車（河原町～梅田間） ・京阪電車（出町柳～淀屋橋間） ・JR東海道線（米原～神戸間） ・JR学研都市線（京橋～木津間）	左記の2以上の交通機関が全面・部分を問わず同時に不通の場合。
・京都市営バス及び地下鉄 ・近鉄電車（京都～奈良間、西大寺～難波間）	左記の2系統の交通機関のどちらかが単独で全面不通の場合。

*事故等による一時的な運転見合せは、2系統で重なっても平常通り授業・試験を実施します。

（ハ）

午前6時30分現在不通の場合	I, II 講時休講 ※1
午前6時30分以降に不通になった場合	不通になった時刻以降休講 ※1

※1 ただし、いずれの場合も、午前10時30分までに開通した場合は、III 講時以降授業を行います。

◎気象警報等発令による休講

対象となる気象警報等（イ）が、（ロ）に発令された場合は、（ハ）の通り休講となります。

（イ）対象となる警報	（ロ）発令地域
暴風警報（暴風を含む警報は、すべて対象とする。） 特別警報（すべてを対象とする。）※2	京都府南部 （「京都・亀岡」「山城中部」「山城南部」 「南丹・京丹波」のいずれかに発令された場合を含む） 大阪府 （「大阪市」「北大阪」「東部大阪」「南河内」「泉州」のいずれかに発令された場合を含む）

※2 特別警報には、気象（大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪）に関する特別警報と津波・火山・地震（地震動）に関する特別警報がありますが、これらすべてを対象とします。

（ハ）

午前6時30分現在発令中の場合	全日休講 ※3
午前6時30分以降に発令の場合	発令時刻以降休講 ※3

※3 ただし、上記にかかわらず、午前9時30分以前に発令が解除された場合は、III 講時以降授業を行います。

◎特別警報が出た場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。

該当地域にいる学生は、各自、直ちに命を守る行動をとってください。

◎その他の場合

授業を行うことが困難あるいは危険であると学長が判断した場合、休講とすることがあります。

◎定期試験期間中も上記の措置が適用されます。

なお、中止となった試験の振替実施日は、本学ホームページにて連絡します。

◎本ページに記載の事由により、全学一斉休講となる場合は「同志社女子大学教務課（緊急連絡用）Twitter」（アカウント名@dwcla_kyomu）でお知らせします。



同志社女子大学
教務課
（緊急連絡用）
@dwcla_kyomu

生活科学部履修要項

2021年4月1日発行

発 行 同 志 社 女 子 大 学

京都府京田辺市興戸

京都市上京区今出川通寺町西入

編 集 同志社女子大学教務部

印 刷 大平印刷株式会社

